

南国市地域福祉計画

【平成 24～28 年度】

平成 24 年 3 月

南国市

目 次

第1章 計画策定にあたって	1
1 地域福祉とは	1
2 地域福祉計画とは	2
3 計画策定の目的	3
4 計画の位置づけ	4
5 計画の意義と役割	5
6 計画の期間	5
7 計画策定に向けた取り組み及び体制	6
第2章 本市の状況	9
1 人口の状況	9
2 世帯の状況	10
3 出生・死亡の状況	11
4 障害のある人の状況	12
5 要支援者の状況	14
6 地域の支援者の状況	16
第3章 計画のキャッチフレーズと目標について	17
1 キャッチフレーズ	17
2 基本目標	18
第4章 重点施策	19
第5章 施策の推進	21
1 施策体系図	21
2 施策の展開	22
第6章 計画の推進	63
1 計画の推進体制	63
2 計画の評価及び改善	64
第7章 資料編	65
1 地域を元気にしている活動事例	65
2 市民アンケート調査結果	69
3 地区支えあいづくり座談会結果	82
4 南国市地域福祉計画検討委員会設置規則	133
5 南国市地域福祉計画検討委員名簿	135

第1章

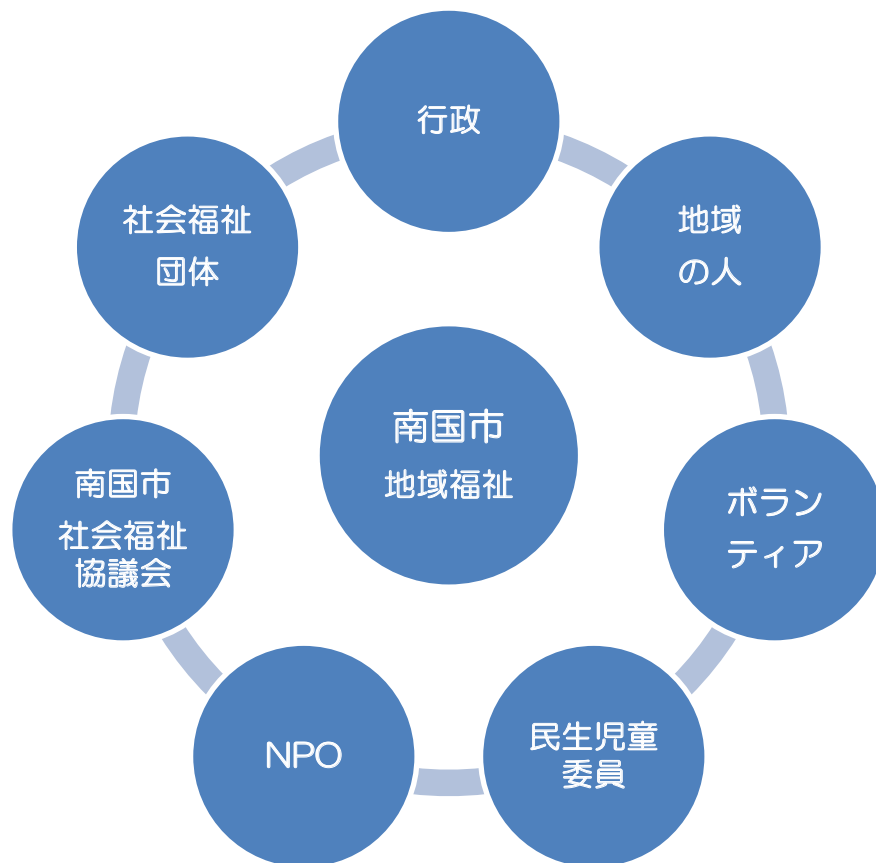
計画策定にあたって

第1章 計画策定にあたって

1 地域福祉とは

少子高齢化や家族形態、市民の意識の変化によって、地域はいろいろな課題を抱えています。

「地域福祉」とは、誰もがその人らしく住みなれた地域で安心して暮らせるように、行政と地域の人やボランティア、民生児童委員、NPO、社会福祉協議会、社会福祉団体などが協力して、地域課題の解決に向けて取り組んでいくことです。



2 地域福祉計画とは

「地域福祉計画」とは、社会福祉法第 107 条の規定に基づき、地域福祉の推進に取り組むための総括的な計画として、市町村が策定する計画です。

地域福祉計画は、「高齢者保健福祉計画」や「障害者基本計画」などの他の計画とは異なり、高齢者や障害者といったサービスの「対象者」に着目するのではなく、「地域」に着目し、地域における要支援者（高齢者、障害のある人、子育て家庭などをはじめとする、日常生活に何らかの支援を要する人）の生活課題の解決のため、地域の実情に応じて方向性を示し、必要とされる施策などを定める計画です。

■ 計画に盛り込む内容

● 法定又は国の指針により計画に盛り込む事項

- ① 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
- ② 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
- ③ 地域福祉に関する活動への市民の参加の促進に関する事項
- ④ 要支援者への支援に関する事項

■ 高知型福祉を進めていくための取り組み

- ① 地域福祉の拠点の整備
- ② 「新たな支えあい」の促進
- ③ 「地域包括支援ネットワークシステム」の構築

3 計画策定の目的

わが国では少子高齢化が急激に進行し、新たに生まれる担い手が減少する中で、大幅に増える高齢者に対する福祉を支えていかなければなりません。このような中、現在の高齢者・障害者・児童などに対する公的な福祉サービスだけで、要支援者への支援を行うことは困難となっています。

さらに、これまで安心のシステムとして機能してきた、家族親族内の助け合いや雇用先の支えについても、少子高齢化や核家族化、単身世帯の増加など家族内のつながりも希薄になるとともに、終身雇用慣行の変化や若年層の雇用情勢の悪化、企業の経費削減などが進む中で、これまでのような支えは期待できなくなってきています。

また、これまでのような地域の連帯感や活力を期待することも難しくなり、さらには個人主義的傾向も強まる中で、「ご近所」の人間関係が希薄になり、地域力の低下を招いています。

本市では、平成19年3月に本市の将来の発展に向けて、市民と行政が一体となって、活力と魅力のあるまちづくりに取り組むための総合的な指針として「第3次南国市総合計画～市民と築く なんこく協働プラン～」を策定し、「いきいき なんこく みんなで築く協働のまちづくり」をキャッチフレーズとして掲げ、その実現に向けて、市民と築く「地域協働のまちづくり」、安全で利便性の高い「快適環境のまちづくり」、安心して生涯を託せる「健康福祉のまちづくり」、心豊かにふれあう「文化交流のまちづくり」、活力あふれる「産業拠点のまちづくり」の5つの基本施策を掲げ、市民の皆様が南国市に住み続けたい、他の地域の人たちが行ってみたい、住んでみたいと思えるようなまちづくりの実現に向けた取り組みを行ってきました。

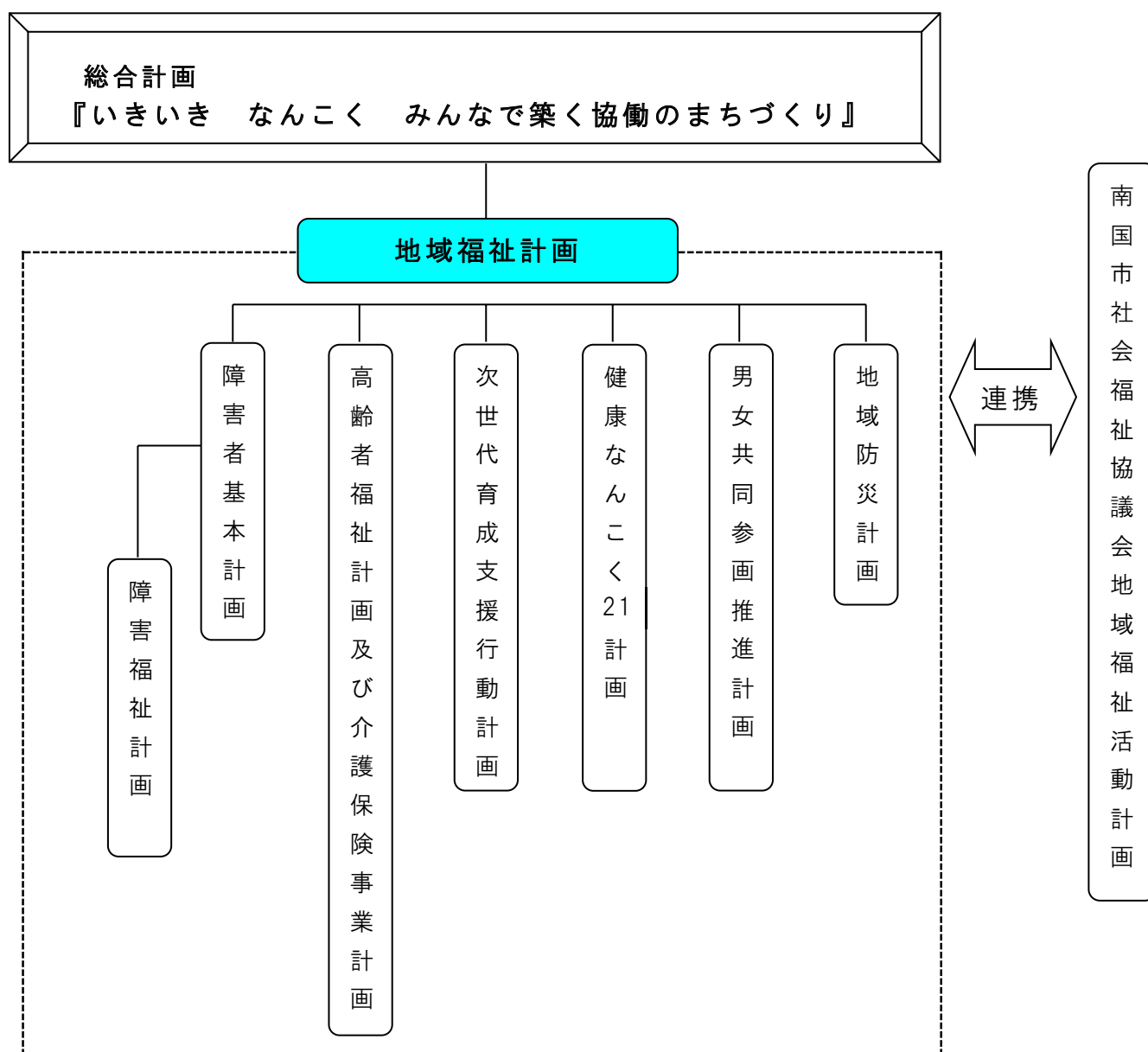
高知県では、県民の皆様が健やかで心豊かに、支えあいながらいきいきと暮らしていけるよう、「日本一の健康長寿県構想」を取りまとめ、健康づくりや医療環境の整備とともに「ともに支えあいながらいきいきと暮らす『高知型福祉』の実現」を目指した取り組みを進めているところです。

そこで本市では、地域における「つながり」や「支えあい」の再構築に向け、地域の人同士の支えあいを柱とし、地域の保健福祉に関する課題解決に向け、地域に住む人や活動している人と一緒になって考え、取り組んでいくための計画として「南国市地域福祉計画」を策定するものです。

4 計画の位置づけ

この計画は、第3次南国市総合計画の基本構想・基本計画に則し、社会福祉法第107条に規定された地域福祉の推進に関する事項を基本として策定するものです。

また、『南国市総合計画』を上位計画とした個別計画であり、地域福祉を推進するための目標を定め、取り組みを体系化する基本計画となり、それぞれの関連する個別計画に明記された地域福祉に関する事項について整合性がなければなりません。こうしたことから、個別計画における地域福祉に関する事項を包含するとともに、自助・共助・公助のバランスと連携のあり方を考えながら、地域福祉の共通の理念を示す総括的な計画とします。



5 計画の意義と役割

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせることは地域の人々の共通の願いです。福祉のまちづくりに向けて、地域の人々が主体となって相互に助けあい、支えあい、地域での生活を総合的に支援するための地域福祉の充実・強化が求められています。

「南国市地域福祉計画」は、行政が地域の人、南国市社会福祉協議会、社会福祉団体、ボランティア、民生児童委員、NPO等と連携し、多くの住民から出された課題に対して、市が地域で行う取り組みの方向性や基本的な考えを示し、今後、施策を展開していく上での柱立てや推進の基本事項を定めるものであり、地域福祉を推進するための基本計画的な役割を担うものです。

また、地域における多様な福祉活動を行う団体がお互いの活動について認め合い、地域の福祉課題について共有化することを目指す計画でもあります。

このように、地域の人々が生活課題に対する問題意識を共有し、解決のために協働することは、地域の人々のつながりの強化、地域の活性化につながることを期待されるとともに、地域福祉は、地域社会を再生する軸となりえるといえます。

6 計画の期間

本計画の計画期間は、平成24年度を初年度とし、目標年次を平成28年度とする5か年の計画とし、必要に応じて見直しを行うこととします。

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
計画期間	計画 策定					

7 計画策定に向けた取り組み及び体制

(1) 行政機関内部における計画策定体制の整備

本計画は「南国市地域福祉計画事務局会」を設置し、南国市福祉事務所をはじめ、関係各課及び南国市社会福祉協議会、高知県との連携を図りながら策定しました。

(2) 検討委員会の設置

地域福祉計画策定においては、幅広い関係者の参画により、本市の地域特性に応じた事業展開に努めることが必要であることから、行政機関内部だけでなく学識経験者、保健医療関係者、福祉関係者、被保険者代表の積極的な参加を得て、「南国市地域福祉計画検討委員会」を設置し、各種団体や市民の意見を広く反映させながら計画を策定しました。

(3) 市民アンケート調査の実施

① 調査目的

だれもがいきいきと輝き、安心して生涯を託せる「健康福祉のまちづくり」を目指し「南国市地域福祉計画」の基礎資料として、市民の「日常生活での課題」や「地域での助け合いに関する考え方」等についての意見を収集し、本市における健康と福祉の現状と課題を把握するために実施しました。

② 対象者

20歳以上64歳以下の市民の中から5,000人を無作為抽出しました。

※65歳以上の人には、長寿支援課が「高齢者生活実態調査」を実施しました。

③ 調査実施期間

調査期間：平成23年6月27日～7月11日

調査方法：郵送による配布・回収

④ 発送・回収数

回収数：1,783件（うち有効回収数1,734件）

回収率：35.7%（うち有効回収率34.7%）

(4) 各種団体等ヒアリング調査の実施

計画策定にあたり地域福祉に関する現場の生の声やニーズを把握し、計画策定作業の基礎とするため、関係する各団体等に対しヒアリングを実施し、意見や実情の把握に努めました。

ヒアリング調査実施団体名
医療法人つくし会 南国病院
特定非営利活動法人 文化とスポーツ振興 NPO
南国市精神障害者 こだまの会
育児サークルこくぶっこ
南国市あったかふれあいセンター
南国市身体障害者協議会
南国市学童連絡協議会
居宅介護支援事業所「夢の里」
南国市国際交流協会
南国市地域包括支援センター
後免中央地区タウンポリス 西野田班
後免中央地区タウンポリス 駅前班
「え・が・お」南国市認知症家族の会
南国市母子寡婦連合会
地域活動支援センター「南国」
南国市老人クラブ連合会
南国市PTA連合会
J A 高知病院
南国市十市地区防災連合会
南国市文化協会
南国市手をつなぐ育成会

(5) 地区支えあいづくり座談会の実施

誰もが安心して暮らせる地域の実現のために、地域の人、ボランティア、事業者、行政など地域で活動している人々の役割や必要なこと、地域の課題・目標を検討しました。

地区名	座談会		会 場
	1 回目	2 回目	
白木谷地区	9月22日(木)	10月4日(火)	白木谷公民館
瓶岩地区	10月14日(金)	10月22日(土)	瓶岩公民館
国府地区	9月28日(水)	10月20日(木)	国府公民館
岡豊地区	9月5日(月)	9月26日(月)	岡豊ふれあい館 (岡豊公民館)
長岡西部地区	10月3日(月)	10月24日(月)	長岡西部公民館
野田地区	9月30日(金)	10月21日(金)	野田公民館
後免地区	8月22日(月)	9月12日(月)	後免町公民館
大篠地区	11月12日(土)	11月26日(土)	大篠公民館
日章地区	10月28日(金)	11月25日(金)	日章福祉交流センター (日章公民館)
岩村地区	11月4日(金)	11月18日(金)	岩村ふれあいセンター (岩村公民館)
前浜地区	8月19日(金)	9月9日(金)	前浜公民館
稲生地区	8月26日(金)	9月16日(金)	稲生ふれあい館 (稲生公民館)
十市・緑ヶ丘地区	8月29日(月)	9月20日(火)	十市高齢者多世代交流 プラザ(十市公民館)

※奈路地区については、平成19年度実施分を取りまとめ

< 南国市社会福祉協議会実施分 >

地区名	座談会		会 場
	1 回目	2 回目	
久礼田地区	3月4日(金)	4月8日(金)	久礼田公民館
長岡東部地区	10月25日(火)	11月8日(土)	SUN SUN ながおか (長岡東部公民館)
三和地区	7月12日(火)	7月26日(火)	三和公民館

第2章

本市の状況

第2章 本市の状況

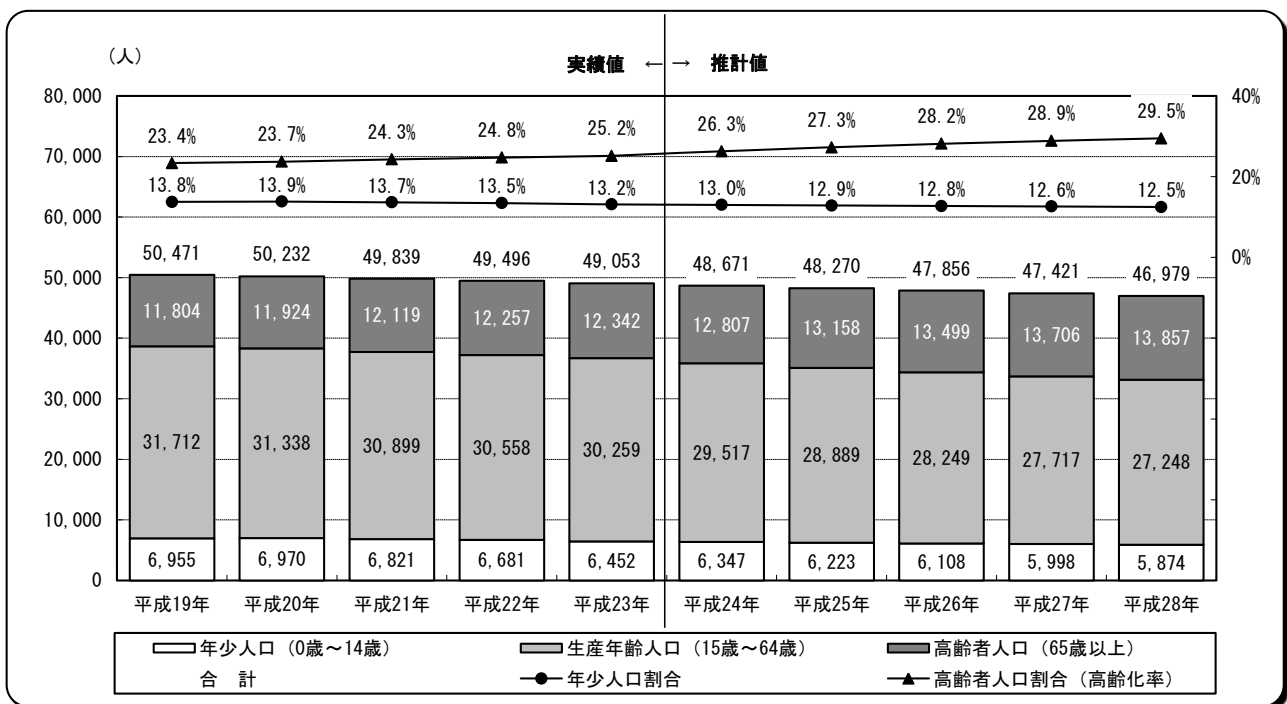
1 人口の状況

本市における平成23年10月1日現在の総人口は49,053人となっており、平成18年度以降、減少傾向となっています。

年齢別にみると、年少人口(15歳未満)及び生産年齢人口(15～64歳)は減少傾向になっているのに対し、高齢者人口(65歳以上)は増加傾向となっています。

このため高齢化率(総人口に占める65歳以上の割合)は上昇傾向となり、平成23年10月1日現在25.2%となっており平成19年と比べ1.8ポイント増加し高齢化が進行しています。

また、平成19年から平成23年までの人口実績から、平成24年以降の人口を推計したところ、総人口や年少人口(15歳未満)、生産年齢人口(15～64歳)は減少傾向にあり、高齢者人口(65歳以上)が増加傾向になると予測されました。さらに、平成28年の高齢化率は29.5%と、市民の約3割が高齢者になると推計されています。



資料：実績値は住民基本台帳、推計値はコーホート変化率法※により推計

※コーホート変化率法とは

「コーホート変化率法」とは、各コーホートについて、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法となります。

2 世帯の状況

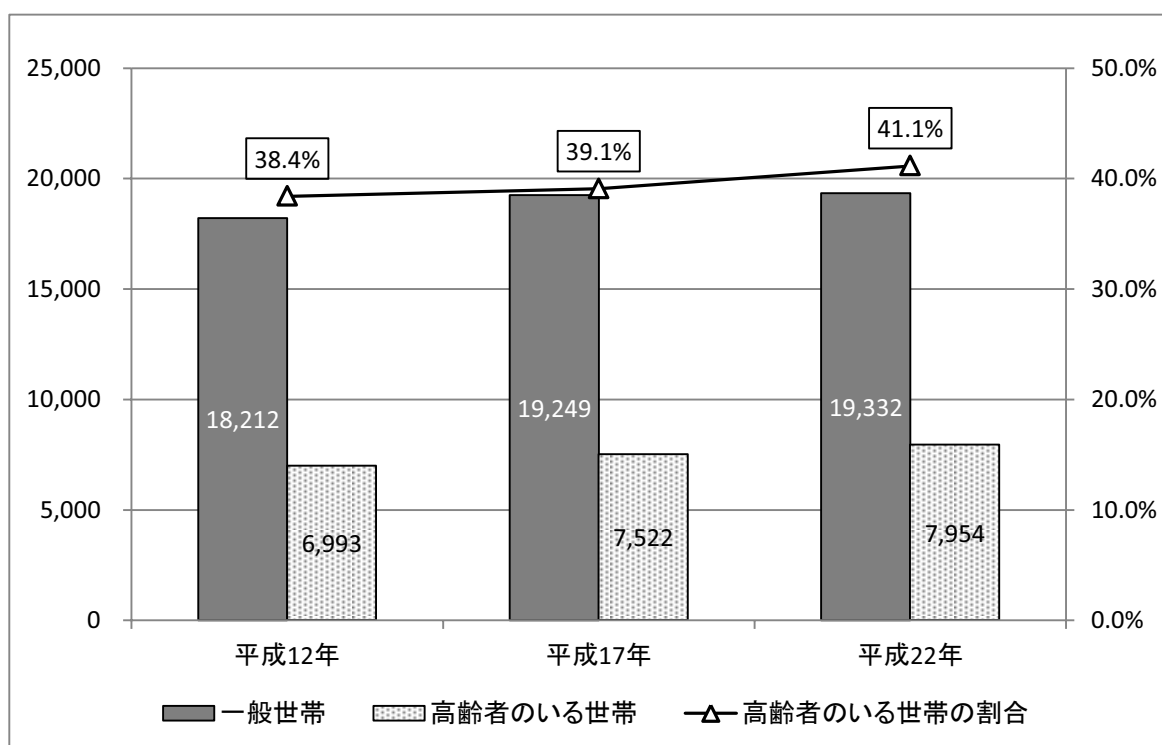
総世帯数及び高齢者世帯数は平成12年から平成22年にかけて増加しています。

平成22年の総世帯数は19,332世帯で、高齢者世帯数は全世帯の41.1%を占めています。高知県の44.4%と比較して低くなっています。

また、高齢者単独世帯数をみると平成12年から平成22年にかけて増加しており、全体の10.7%となっています。

	平成12年	平成17年	平成22年	高知県 (H22年)
総世帯数	18,212	19,249	19,332	321,004
高齢者世帯数計	6,993	7,522	7,954	142,421
比率	38.4	39.1	41.1	44.4
高齢者単独世帯数	1,570	1,852	2,063	44,773
比率	8.6	9.6	10.7	13.9
高齢者夫婦世帯数	1,377	1,593	1,759	32,730
比率	7.6	8.3	9.1	10.2

※各年国勢調査

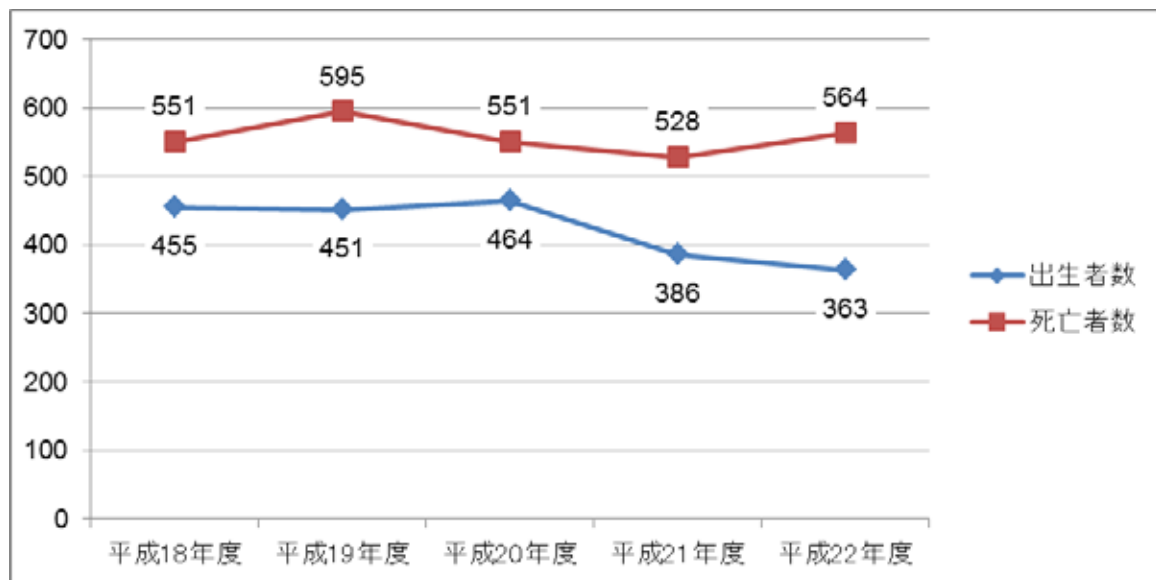


3 出生・死亡の状況

出生者数の状況を見ると、平成18年度以降減少傾向となっており、平成22年度で363人となっています。

また死亡者数を見ると、平成22年度で564人となっています。

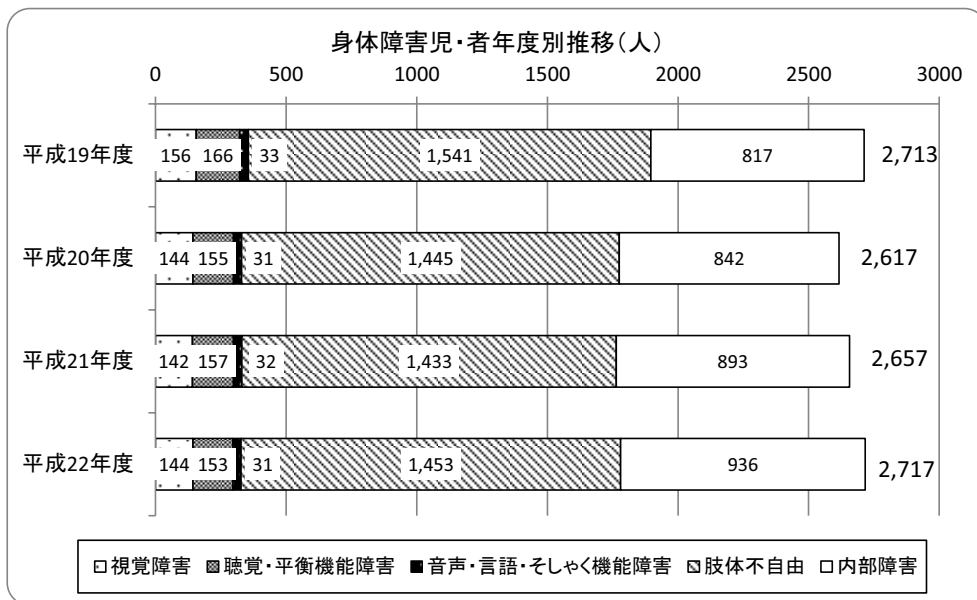
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
出生者数	455	451	464	386	363
死亡者数	551	595	551	528	564



4 障害のある人の状況

(1) 身体障害者手帳交付者年度別推移

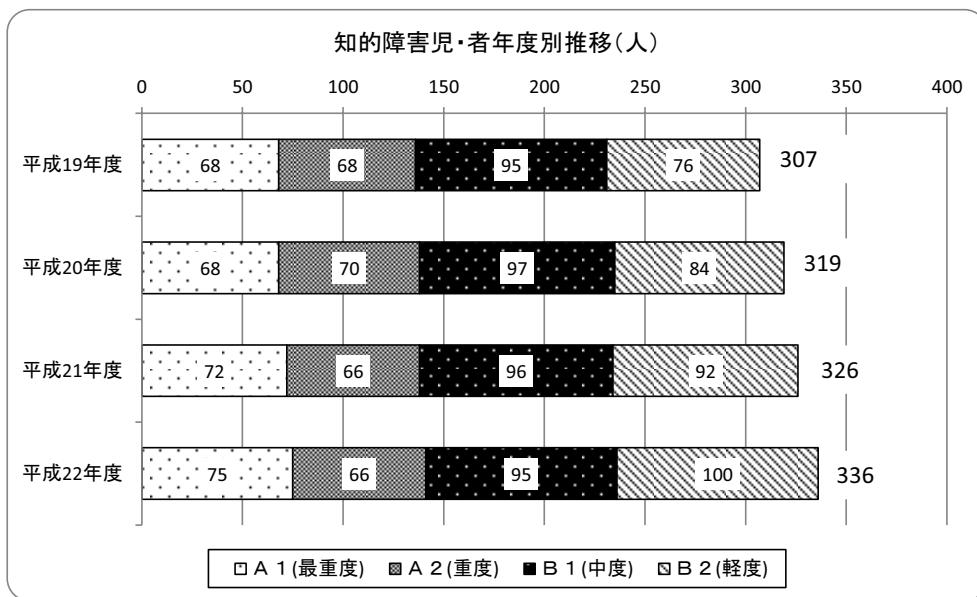
本市における平成23年3月31日現在の身体障害者手帳交付者数は2,717人となっており平成19年度以降、ほぼ変わりありません。



[各年度末現在]

(2) 療育手帳交付者年度別推移

本市における平成23年3月31日現在の療育手帳交付者数は336人となっており平成19年度以降、増加傾向となっています。

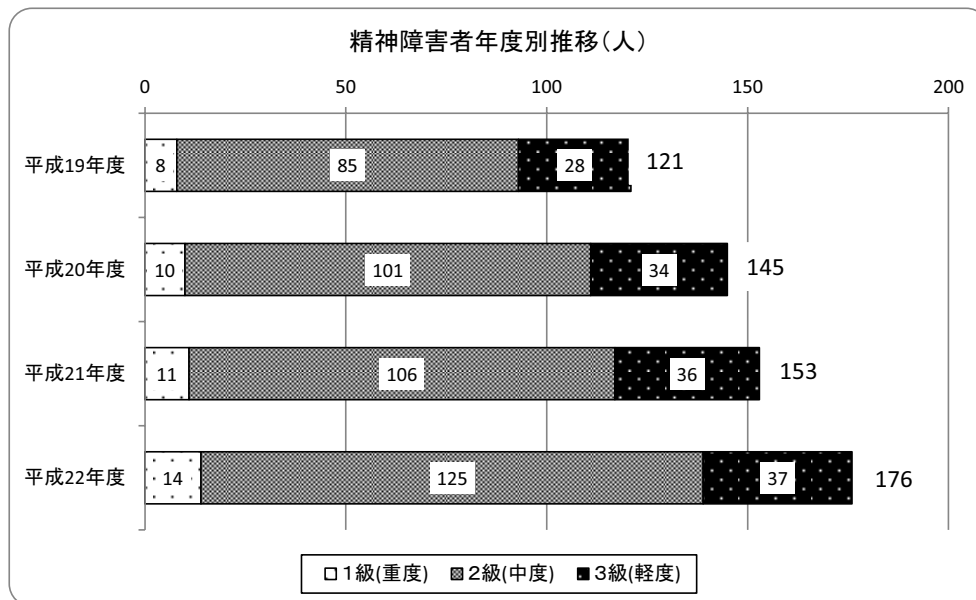


[各年度末現在]

※療育手帳・・・知的障害のある方が、各種の福祉サービスを受けやすくするために必要な手帳

(3) 精神障害保健福祉手帳交付者年度別推移

本市における平成23年3月31日現在の精神障害保健福祉手帳交付者数は176人(手帳交付者)となっており平成19年度以降、増加傾向となっています。



[各年度末現在]



5 要支援者の状況

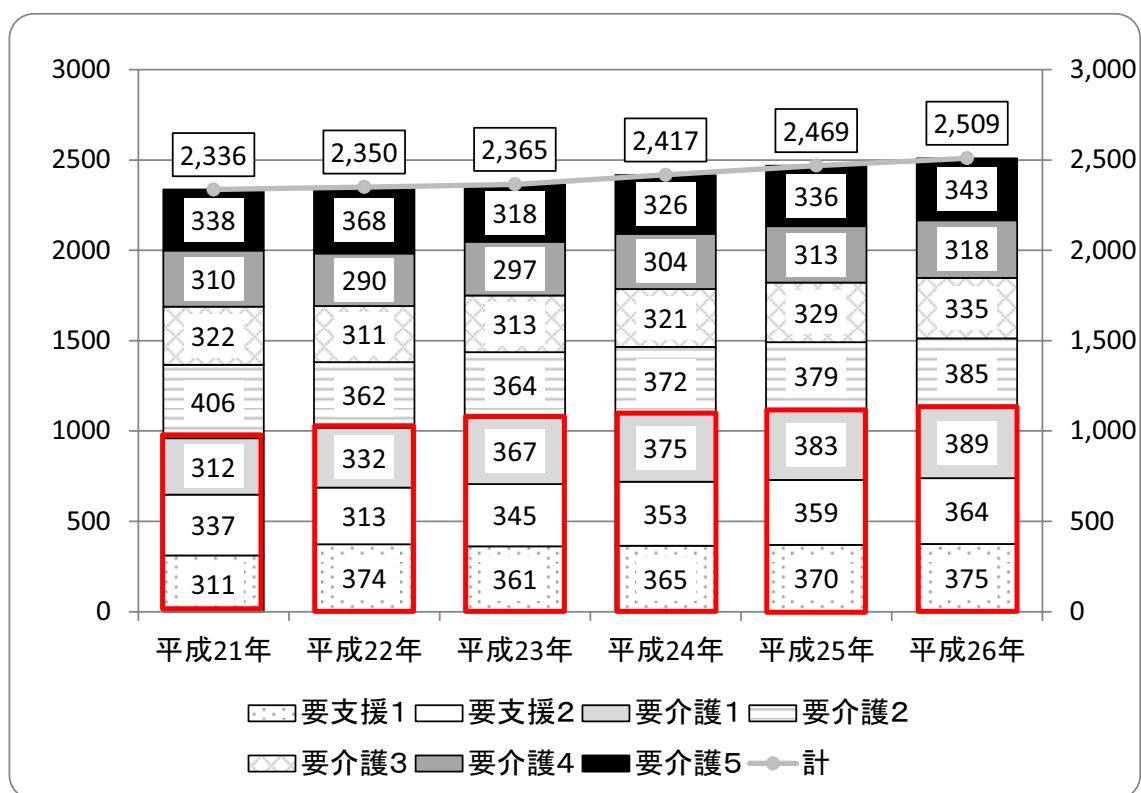
(1) 要介護認定者数の推移

要介護・要支援認定者の推移をみると、平成26年には2,509人になると推計され、平成21年と比較すると6.9%の伸びとなっています。

介護度別にみると、平成21年度から平成26年度に向けて要支援1、要支援2、要介護1の軽度者が増加する見込みとなっています。

(単位：人)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
要支援1	311	374	361	365	370	375
要支援2	337	313	345	353	359	364
要介護1	312	332	367	375	383	389
要介護2	406	362	364	372	379	385
要介護3	322	311	313	321	329	335
要介護4	310	290	297	304	313	318
要介護5	338	368	318	326	336	343
計	2,336	2,350	2,365	2,417	2,469	2,509



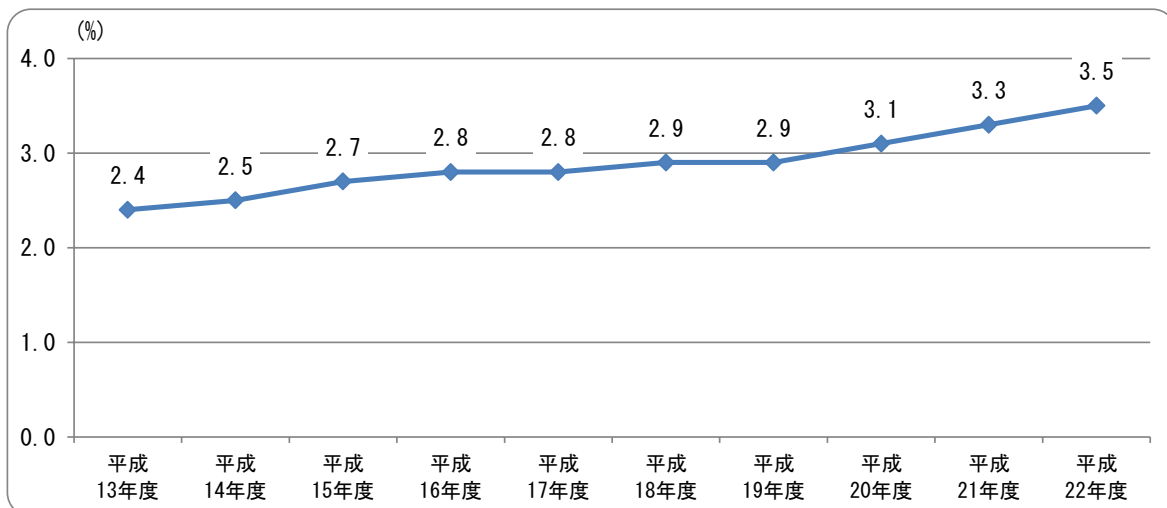
(2) 生活保護の保護世帯数・保護人員・保護率の推移

生活保護の保護率(人口)の状況を見ると、平成22年度で22.3%[※]となっており、平成13年度と比較すると8.5%の伸びとなっています。

平成13年度以降、増加傾向となっています。

	管内		うち被保護		保護率	
	世帯 (世帯)	人口 (人)	世帯 (世帯)	人口 (人)	世帯 (%)	人口 (%)
平成13年度	19,988	50,166	492	692	2.4	13.8
平成14年度	20,274	50,299	518	754	2.5	14.9
平成15年度	20,510	50,498	557	805	2.7	15.9
平成16年度	20,607	50,401	581	823	2.8	16.3
平成17年度	20,856	50,472	587	858	2.8	16.9
平成18年度	21,294	50,640	602	870	2.9	17.4
平成19年度	21,079	50,084	622	900	2.9	18.1
平成20年度	21,114	49,764	654	960	3.1	19.4
平成21年度	21,163	49,405	692	1,031	3.3	20.9
平成22年度	21,193	48,966	740	1,090	3.5	22.3

※パーミル(‰)：1000分の1を1とする単位。パーセント(%)は100分の1を1とする単位。



6 地域の支援者の状況

(1) 民生児童委員の状況

市内各地区における民生児童委員及び主任児童委員の状況は以下のとおりです。

民生児童委員は、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じたり、地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談・支援等を行ったりと社会福祉の増進に努めています。

また、中学校校区ごとに、児童に関することを専門的に担当する「主任児童委員」を委嘱しています。

■ 民生児童委員 (合計)	119
上倉北部地区	3
上倉南部地区	3
瓶岩地区	4
久礼田地区	8
国府地区	3
岡豊地区	10
長岡東部地区	6
長岡西部地区	9
東崎西部地区	4
後免地区	3
野田地区	3
大篠地区	22
岩村地区	3
日章地区	9
前浜地区	5
三和地区	8
稲生地区	6
十市・緑ヶ丘地区	10

■ 主任児童委員 (合計)	9
北陵中学校区	2
鳶ヶ池中学校区	2
香南中学校区	2
香長中学校区	3

第3章

計画のキャッチフレーズと目標について

第3章 計画のキャッチフレーズと目標について

1 キャッチフレーズ

子どもから高齢者、障害者などすべての市民が、住み慣れた地域で安心して、みんな^アで支えあいながらいきいきと暮らすことができる地域づくりを目指し『みんな^ア』をキャッチフレーズに掲げ、地域における「つながり」や「支えあい」の再構築に努めていきます。

みんな^ア！！



2 基本目標

基本目標1：地域支えあいづくりの推進

市民の一人ひとりが、地域における生活課題を認識し、地域活動に主体的に参加することにより、隣近所や地域のつながりを深め、課題の解決に向けお互いに支えあい、協力し合える地域となるよう支援していきます。

基本目標2：安全、安心のまちづくり

子どもからお年寄りまで、また障害の有無に関わらず、住み慣れた地域で安心・安全に生活できるよう支援していきます。

基本目標3：健康づくり、生きがいづくりの支援

住みなれた地域でいきいきと暮らすためには、まず「健康」が第一と考えます。そのため、健康づくりに関する支援の充実を行います。

また、地域社会に参画することは「生きがい」につながることから、一人ひとりが自由に学べ、社会参加できるよう生涯学習を推進していきます。

第4章

重点施策

第4章 重点施策

それぞれの取り組みの中でも、今後の福祉活動を活発化させていくにあたって「地域支えあいづくり座談会」で多く出た意見を、地域福祉計画の重点施策として位置づけ、市民参加により、重点的かつ速やかに推進します。

● 重点施策1：地域における「さきやり[※]」の発掘・育成

- ①地域活動充実のため「さきやり」の発掘・育成を地域の**みんな**と一緒にいきます。
- ②地区の活動紹介や、他の事例等を活用したアドバイスを**みんな**と積極的に行います。
- ③職員が**みんな**の地域活動に積極的に参加します。

※さきやり・・・地域活動におけるリーダー。

● 重点施策2：世代間交流の推進

- ①地域活動等において、地域にある「おきやく文化[※]」を**みんな**で大切にします。
- ②保育所(園)・幼稚園・学校・地域の**みんな**で積極的な”あいさつ運動”に取り組めます。

※おきやく文化・・・「まあ飲んでいきや」という、南国市民のおもてなし文化。

● 重点施策3：防災、減災体制づくり

- ①**みんな**で自然災害等についての正しい知識の普及啓発活動に努めます。
- ②**みんな**で防災、減災意識の向上を図ります。
- ③地域の**みんな**で支援協力体制の充実に努めます。

第5章

施策の推進

第5章 施策の推進

1 施策体系図



1 地域支えあいづくりの推進

- ① 地域福祉を支える人づくり
- ② 地域活動の拠点づくり
- ③ 地域福祉を促進するしくみづくり
- ④ 福祉意識の向上
- ⑤ 職員による積極的な地域参加

2 安心、安全のまちづくり

- ① 安心して生み育てられるしくみづくり
- ② 安心して暮らし続けられるまちづくり
- ③ 人にやさしいまちづくり
- ④ 福祉サービスの適切な利用の促進

3 健康づくり、生きがいづくりの推進

- ① 市民主体の健康づくり体制の充実
- ② 市民が参加しやすい生涯学習活動の整備
- ③ 就労、雇用の促進
- ④ 地域交流の推進

2 施策の展開

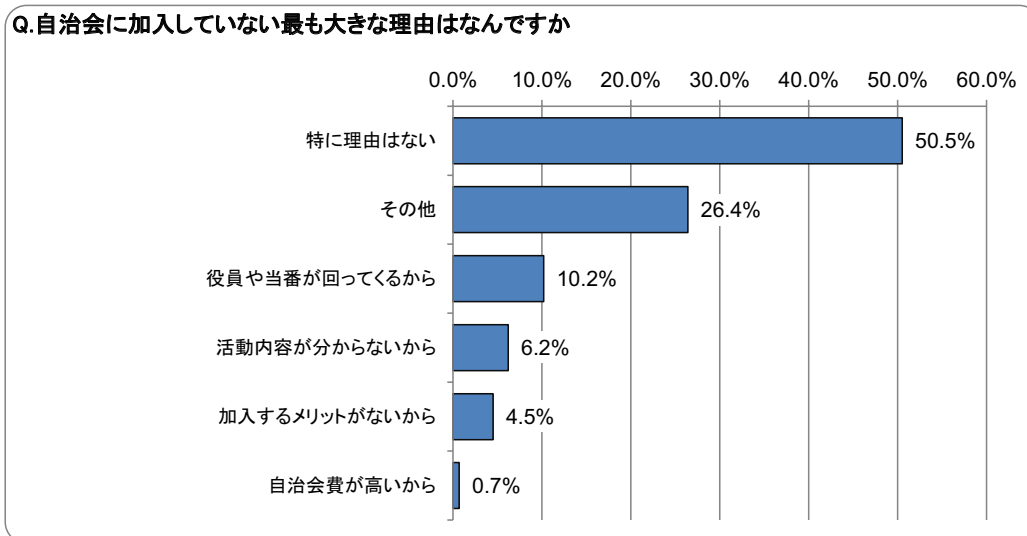
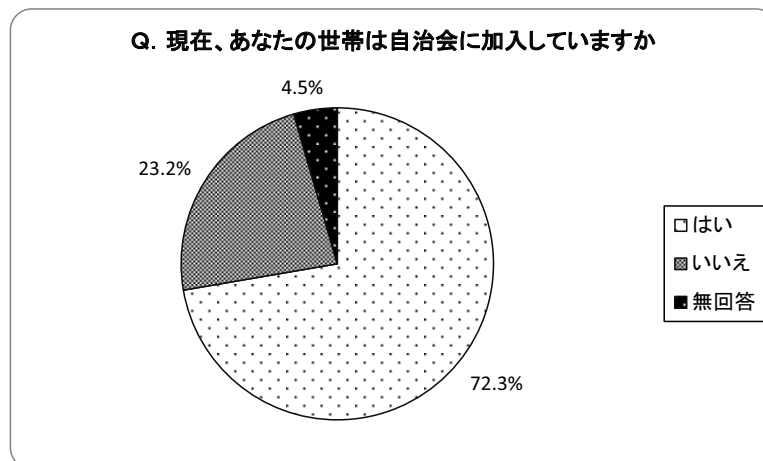
基本目標1：地域支えあいづくりの推進

①地域福祉を支える人づくり

現状と課題

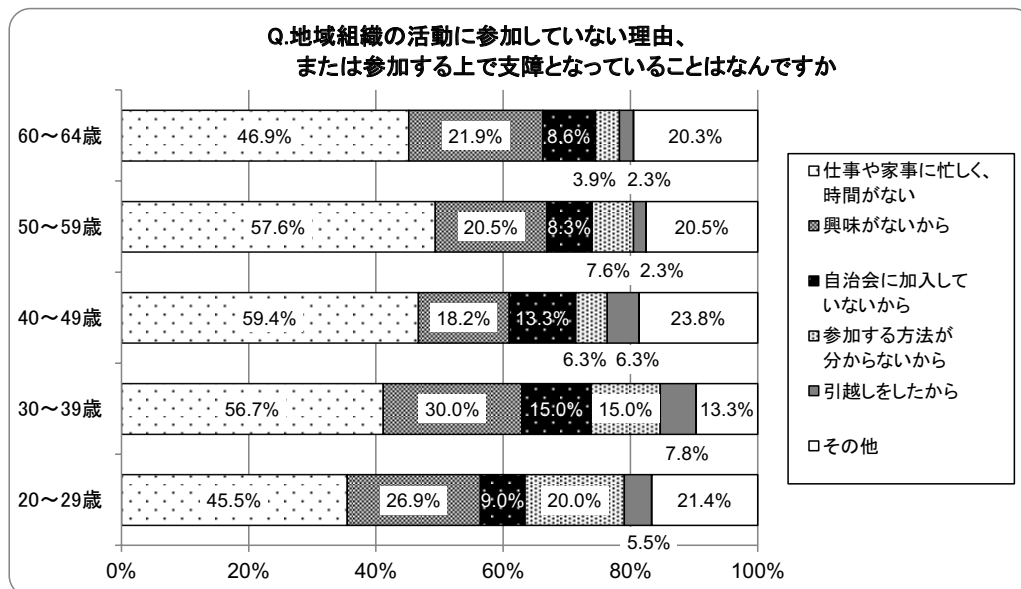
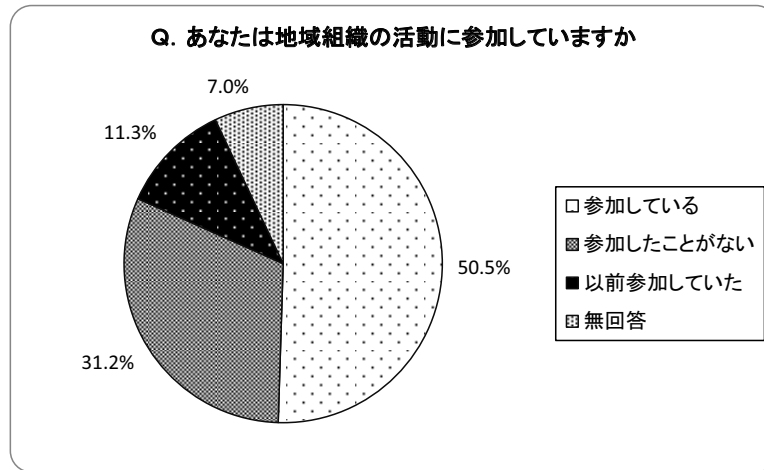
■市民アンケート調査結果

現在、自治会に加入していない世帯の割合は 23.2%となっており、主な理由としては「特に理由はない」「その他（アパート、借家、マンションなので、自治会はない、家族（親、配偶者等）が入っているから」となっています。



※その他：アパート、借家、マンションなので、自治会はない 等

また、地域活動に参加したことがない割合は 31.2%となっており、主な理由としては「仕事や家事に忙しく、時間がない」、「興味がないから」となっています。20～39歳では「参加する方法が分からないから」が他の年齢層と比べて高くなっています。



※その他：家族が参加しているから、体調が良くないから（病気、障害等）等

■各種団体等ヒアリング調査・地域支えあいづくり座談会での意見など

- ・リーダーがない
- ・後継者(担い手)がない
- ・若い人の参加が少ない



方策

地域で誰もが安心して生活するためには、多様化する福祉ニーズに対して適切なサービスを提供できるように、ボランティア団体やNPOなどの市民活動団体などの地域福祉活動から、専門的な知識を必要とする福祉サービスまで、それを担う幅広い人材の発掘や育成が必要です。



施策

施策①：活動の中心となる世話役（リーダー）の育成

■今後の取り組み（施策）

- ・ 30歳代・40歳代の人に積極的に活動に参加していただけるよう声かけを行い、行政とのつながりを築き、次代のリーダー育成を図ります。
- ・ 各学校が企画実施している学校行事への地域人材の活用に努めます。
（活躍の場を設定）
- ・ 児童生徒が地域行事へ積極的に参加できるよう、学校・PTAと協働します。
（将来の地域リーダーの育成）

施策②：南国市社会福祉協議会への支援及び連携

■今後の取り組み（施策）

- ・ 地域に根ざした活動の展開を図るため、南国市社会福祉協議会の財政基盤の充実や組織体制の強化を支援します。
- ・ 相互の事業に対し、計画段階から参画して、情報共有・共通認識のもと連携し、事業を実施します。

施策③：民生児童委員との連携

■今後の取り組み（施策）

- ・市民が民生児童委員の活動への理解を深め、幅広い活動への協力ができるように広報・啓発活動などに取り組みます。
- ・民生児童委員協議会の役員会等へ参加し、情報交換に努め連携を図っていきます。

②地域活動の拠点づくり

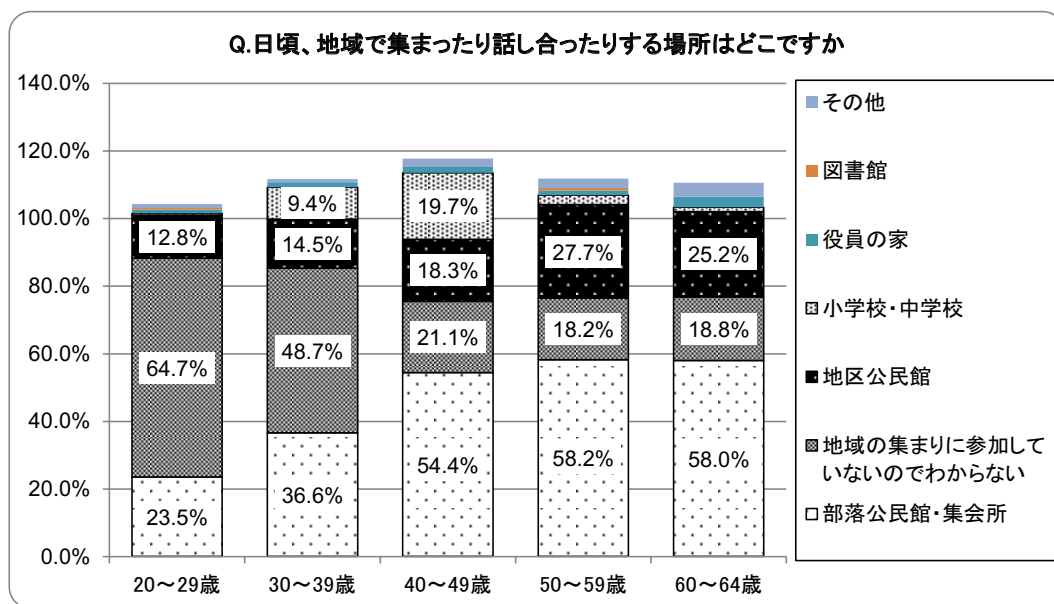
現状と課題

■市民アンケート調査結果

日頃、地域で集まったり話し合ったりする場所は、40歳以上では「部落公民館・集会所」が最も多く、次いで「地区公民館」となっています。

また、30～49歳では「小学校・中学校」が他の年齢層と比べて高くなっています。

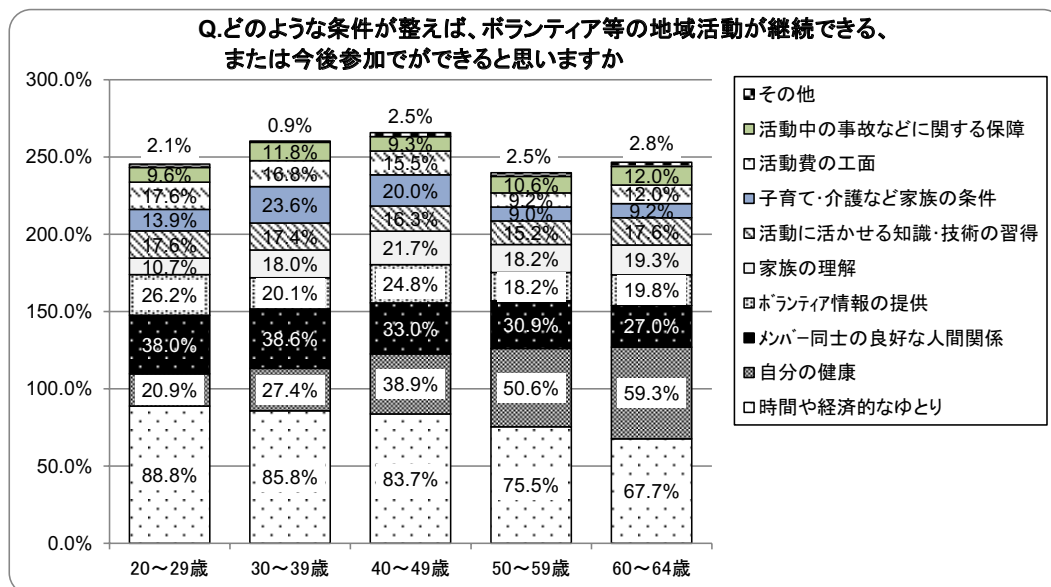
20～39歳の若い年齢層では「地域の集まりに参加していないのでわからない」が高くなっています。



ボランティア等の地域活動の継続や今後の参加条件は、「時間や経済的なゆとり」が最も多くなっています。

年齢が高くなるにつれ「自分の健康」の割合が高くなっています。

年齢が低くなるにつれ「メンバー同士の良好な人間関係」の割合が高くなっています。



■各種団体等ヒアリング調査・地域支えあいづくり座談会での意見など

- ・子どもからお年寄りまで集まれる場所（拠点）がほしい
- ・地域のつながりが薄れてきた
- ・小学校行事へ積極的に参加する、学校へ呼びかけを行う
- ・公民館活動の活性化（イベントの企画など）
- ・小学校を核とした地域づくり



方策

地域の福祉活動を進めていくには、誰もが気軽に活動に参加することができる、地域ごとの活動の場が求められています。市民が主体となった活動ができるような環境づくりが必要です。



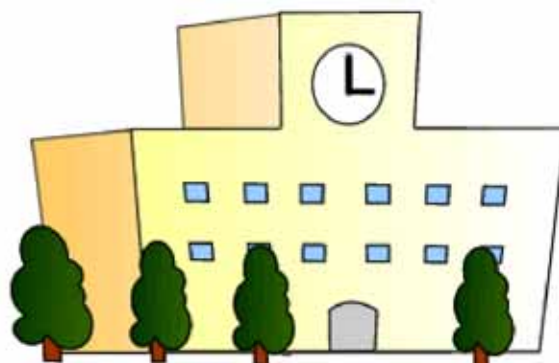
施策

施策①：保育園、幼稚園、学校を核とした拠点づくり

■今後の取り組み（施策）

- ・各校の「開かれた学校づくり推進委員会」活動への支援を行い、保護者や児童生徒の参加を促進します。学校・家庭・地域が連携して地域ぐるみで子育てするために、学校行事などに住民が参加しやすくするための「学校支援地域本部*」の活動を促進します。
- ・地域への学校施設の開放や学習機会の提供等の充実を図ることで、学校を核とした拠点づくりに努めます。

※学校支援地域本部・・・学校、家庭、地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えるとともに、地域の教育力を向上させることを目的としています。



施策②：あったかふれあいセンターの充実

■今後の取り組み（施策）

- ・ あったかふれあいセンター事業を南国市社会福祉協議会に委託し、地域の実情・ニーズに応じたサービスの提供に努めます。
- ・ 誰でもが気軽に集えるようにします。
- ・ 地域の相談窓口、訪問活動による住民の生活課題の把握に努め、つなぎ機能を充実します
- ・ ちょっとした困りごとへの対応・仕組みづくりを地域の人と一緒に考えていきます。
- ・ 住民主体のサロン活動ができるよう、ボランティアなどの人材育成に努めます。
- ・ 買物や病院への通院等のための移動手段を支援できるようにします。

施策③：ボランティア、NPO 活動等への支援

■今後の取り組み（施策）

- ・ 平成 24 年度にボランティア養成講座を実施し、精神障害者への理解を深めていきます。
- ・ 平成 24 年度からボランティアポイント制度を導入し、地域の元気な高齢者が「介護支援ボランティア」として、一人暮らしの高齢者などに見守りや簡単な家事などの支援を安定的に継続できるよう努めます。
- ・ 介護支援ボランティアとして活動するための基礎知識を習得するため「認知症サポーター養成講座」や「介護予防サポーター養成講座」を実施します。また、研修修了者には年 1 回のフォローアップ研修を実施しボランティア活動の充実を図っていきます。
- ・ 地域の子ども会活動や学校における生徒会活動と連携し、地域の人と子どもたちが協働でボランティア、NPO 活動等に取り組める機会、環境づくりに努めます。

施策④：公民館の利用促進

■今後の取り組み（施策）

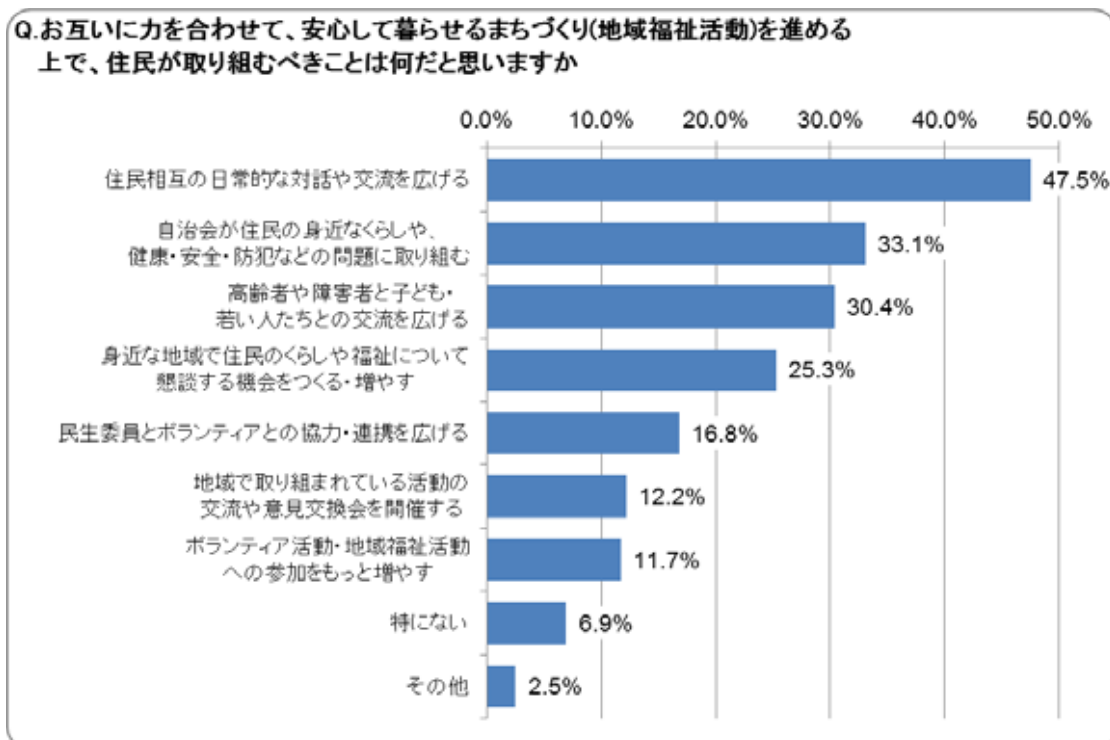
- ・地区公民館は地域の人が気軽に集える場であり、三世代の交流にも役立っています。
- ・今後も多くの地域の人が集えるイベントを企画していくなど、利用促進に努めます。

③地域福祉を促進するしくみづくり

現状と課題

■市民アンケート調査結果

安心して暮らせるまちづくりを進める上で、住民が取り組むべきことでは、「住民相互の日常的な対話や交流を広げる」の割合が最も高く、次いで「自治会が住民の身近なくらしや、健康・安全・防犯などの問題に取り組む」、「高齢者や障害者と子ども・若い人たちとの交流を広げる」の順となっています。



その他：近所付き合いや地域とのつながり、助け合いを大切にする心 等

■各種団体等ヒアリング調査・地域支えあいづくり座談会での意見など

- ・近所づきあいや、挨拶が少なくなってきた
- ・あいさつ運動（大人から子どもへ）
- ・子どもと高齢者の交流会を増やす
- ・各地区のお祭りには若い世代も集まる
- ・障害者に対する関心が薄いように感じる（進歩がない）



方策

多様なニーズに対応するために、地域におけるさまざまな施設、団体などと連携・協力し、その地域の実情に応じた活動ができるように、地域福祉のネットワークづくりが必要となっています。



施策

施策①：南国市社会福祉協議会との連携強化

■今後の取り組み（施策）

- ・南国市社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画をはじめ、各種計画段階から参画して、情報共有・共通認識のもと連携して事業を行っていきます。

施策②：各種団体との連携強化

■今後の取り組み（施策）

- ・地域の理解や協力が必要な施策については、地域における課題としての共通認識を持つことが大切です。各種団体や必要な機関との情報交換を行い、連携強化に努めます。
- ・小中学校においても、南国市社会福祉協議会を通じて、福祉施設をはじめとする各種団体と積極的に交流の機会を持つことに努め、地域貢献とともに、様々な人々との交流を通して子どもたちの健全な育成に努めます。
- ・市民の健康維持活動を地域から推進していくため各地区の団体と協力して健康増進事業を実施していきます。

施策③：地域包括支援ネットワークシステム^{※1}の構築

■今後の取り組み（施策）

- ・民生児童委員や地域の人による見守り活動や、あったかふれあいセンターや地域の集い活動の中で把握した情報を、高齢者については地域包括支援センター・地域ケア会議^{※2}、障害者については相談支援事業所・地域自立支援協議会^{※3}につなげていく仕組みづくりを進めていきます。

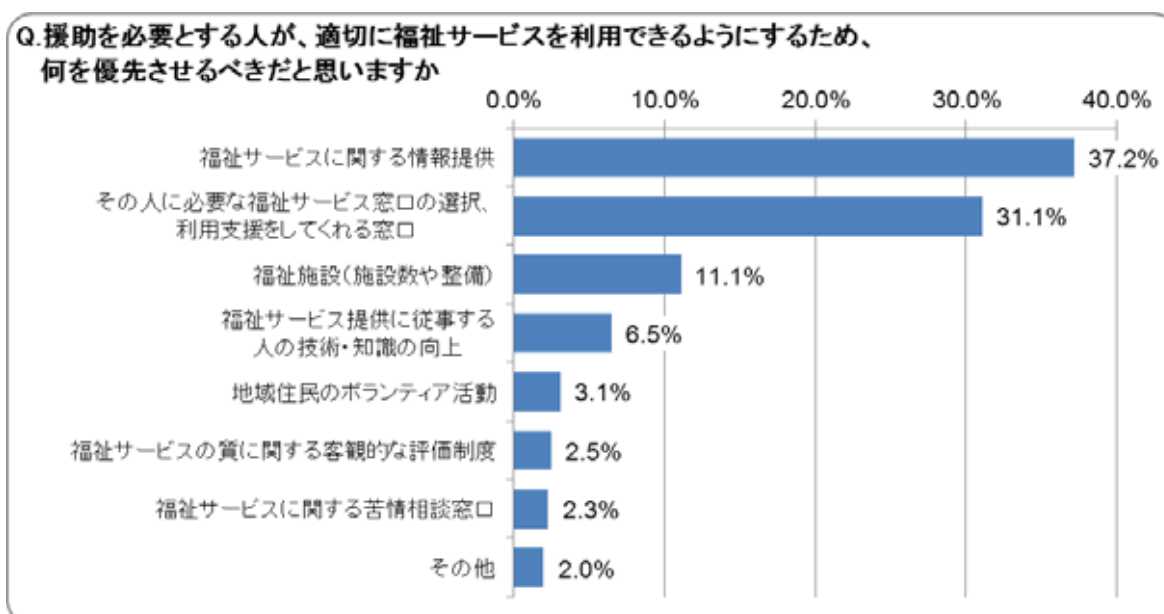
- ※ 1 地域包括支援ネットワークシステム・・・小地域の中で要援護者のニーズを発見し、保健・医療・介護・福祉の専門機関や地域の人など、地域全体が的確に支援する取り組みを一貫して進めていく仕組み
- ※ 2 地域ケア会議・・・介護保険制度の理念である「尊厳の維持」、「自立支援」を実現するために、市町村・地域包括支援センター・介護支援専門員・介護事業者等が一堂に会し、要介護者・要支援者などのケアプランや事業内容について、個別のケースごとに支援方法や方向性を検討する会議
- ※ 3 地域自立支援協議会・・・障害のある人もない人も、ともに暮らせる地域をつくるため、障害福祉に係る関係機関が情報を共有し課題解決に向け行うための協議会

④福祉意識の向上

現状と課題

■市民アンケート調査結果

援助を必要とする人が、適切に福祉サービスを利用できるようにするため、優先させるべき施策は「福祉サービスに関する情報提供」の割合が最も多く、次いで「その人に必要な福祉サービス窓口の選択、利用支援をしてくれる窓口」、「福祉施設（施設数や整備）」の順となっています。



■各種団体等ヒアリング調査・地域支えあいづくり座談会での意見など

- ・地域のつながりが薄れてきた
- ・参加者が少ない
- ・子どもとの交流が少なくなってきた
- ・若い人が地域の活動に参加してほしい
- ・地域の活動が知られていない（PR 不足）
- ・市の広報や、社協だより等に随時、団体の活動内容等を掲載してほしい



方策

地域福祉を推進していくためには、地域に暮らす住民自身が地域の課題を自分自身の課題として受けとめ、ともに住民同士の話し合いを通して課題解決に導いていくことが大切となります。そのためには、話し合いの場をはじめ、様々な活動への住民参加は最も必要なこととなります。様々な活動に参加することで多くの人々と出会い、情報を得ていくことで、今までわからなかった課題が見えてくるようになり、地域の課題を共有することができ、解決に向けての取り組みへと進めていくことができます。

住民参加を促していくためには、ボランティア活動やサービス利用への抵抗感をなくすとともに、当事者への理解を促進する必要がありますことから、市民の福祉意識を向上させる取り組みを行っていきます。



施策

施策①：広報、啓発活動の推進

■今後の取り組み（施策）

- ・ 広報・ホームページを充実させ、幅広い行政情報の提供と情報伝達の迅速化を図ります。
- ・ 南国市社会福祉協議会と連携して、「社協だより」や南国市社会福祉協議会のホームページにて地域での取り組み・活動等を掲載していきます
- ・ 学校は、積極的にホームページの内容を充実させるとともに公民館等を通して地域の人々に学校だよりを配布するなど情報発信に努めます。また、様々な手段を模索し地域の情報を入手するように努めます。

施策②：各種団体との情報交換による相互関係の確立

■今後の取り組み（施策）

- ・ 幅広い意見をいただくため、各種団体とも積極的に交流を図ります。
- ・ 学校における「PTA 組織」、「学校支援地域本部」、「開かれた学校づくり推進委員会」等を介し、各種団体との交流や情報交換の機会や場の設定に努めます。

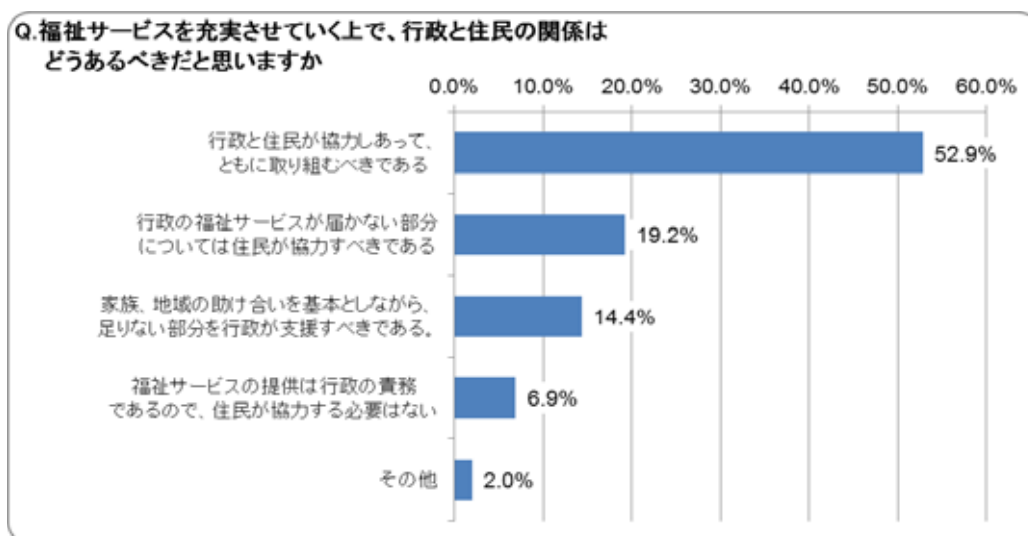


⑤職員による積極的な地域参加

現状と課題

■市民アンケート調査結果

福祉サービスを充実させていく上で、行政と住民の関係では「行政と住民が協力しあって、ともに取り組むべきである」の割合が最も高く、次いで「行政の福祉サービスが届かない部分については住民が協力すべきである」となっています。



■各種団体等ヒアリング調査・地域支えあいづくり座談会での意見など

- ・地区の公務員は活動に参加してほしい
- ・若い人を含めた座談会（ワークショップ）
- ・座談会（若者やお母さん）や各地域の会へ、市や社協が参加できれば、問題や課題の共有ができると思う



方策

各地域行事へ住民参加を促していくためには、まず地域の活動を知ることが大切です。

市職員は積極的に地域行事・活動に参加していきます。



施策

施策①：地域行事への積極的な参加

■今後の取り組み（施策）

- ・市職員が地域行事・活動に積極的に参加するよう、推進します。
- ・職員が地域での活動に参加して得た地域のニーズを市政に反映できるよう、横のつながりを強化します。

施策②：ワークショップ、座談会の実施支援

■今後の取り組み（施策）

- ・多種多様である地域の課題を把握するために、南国市社会福祉協議会と連携して、各地域での座談会等を定期的実施し、地域の人と行政が協働で地域福祉の推進に取り組みます。また座談会へは、各年代の地域の人が参加できるよう呼びかけを行います。

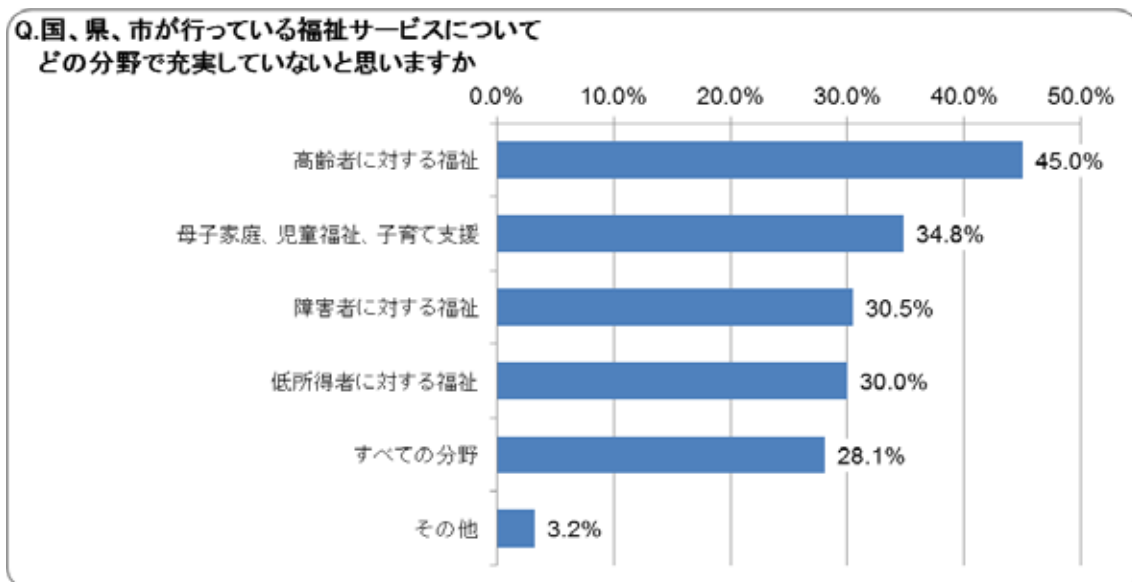
基本目標2：安心、安全のまちづくり

①安心して生み育てられるしくみづくり

現状と課題

■市民アンケート調査結果

国、県、市が行っている福祉サービスについて充実していない分野は、「高齢者に対する福祉」の割合が最も多く、次いで「母子家庭、児童福祉、子育て支援」、「障害者に対する福祉」の順となっています。



その他：生活保護や母子手当の見直し（基準が他市町村より甘い）、子育てしやすい町づくり、保育料や医療費の負担軽減、中学校給食（少子化対策）、サービスがよく分からない、福祉サービスを受けていないので具体的に分からない 等



■各種団体等ヒアリング調査・地域支えあいづくり座談会での意見など

- ・子ども会の育成、強化
- ・子どものイベントに地域の人に参加する
- ・登下校時に子供の見守り活動を行っているが、保護者との交流がない
- ・家庭教育サポーター等の活動の場が、市内にない



方策

地域の中で、安心して子育てができるような仕組みづくりを推進します。

また、子育ての不安や悩みによるストレスを抱えて孤立しないように、子育てしやすい環境づくりを推進します。



施策

施策①：子育てしやすいまちづくり

■今後の取り組み（施策）

- ・子育て世代の経済的負担軽減のために、平成23年10月に医療費助成の対象となる子どもの年齢上限を小学校卒業までに引き上げ、所得制限を廃止しましたが、さらに、中学校卒業までの医療費助成に向けて検討していきます。
- ・学校は、関係文書の配布等の仲立ちに努めるなど広報・啓発活動に積極的に協力します。また、保護者のスクールカウンセラーへの相談がスムーズに行えるよう連絡調整に努めます。
- ・生活保護世帯を対象に高校進学率向上のため、学習支援体制の充実を図っていきます。

施策②：地域での子育て支援体制

■今後の取り組み（施策）

- ・安心して出産・育児ができるよう母子保健推進員が地域での支援を行うとともに助産師の家庭訪問事業や両親教室、子育て教室を続けて実施していきます。
- ・学校では、日常的な保護者との関わりの中で、児童生徒の家庭環境に気を配るとともに教職員に気軽に相談できる環境づくりに努めます。
- ・子どもの健全な育成のため、人形劇キャラバンやスポーツ大会などを通じて、子ども会相互の交流を図っていきます。

施策③：保育所(園)、幼稚園、小学校、学童クラブとの連携強化

■今後の取り組み（施策）

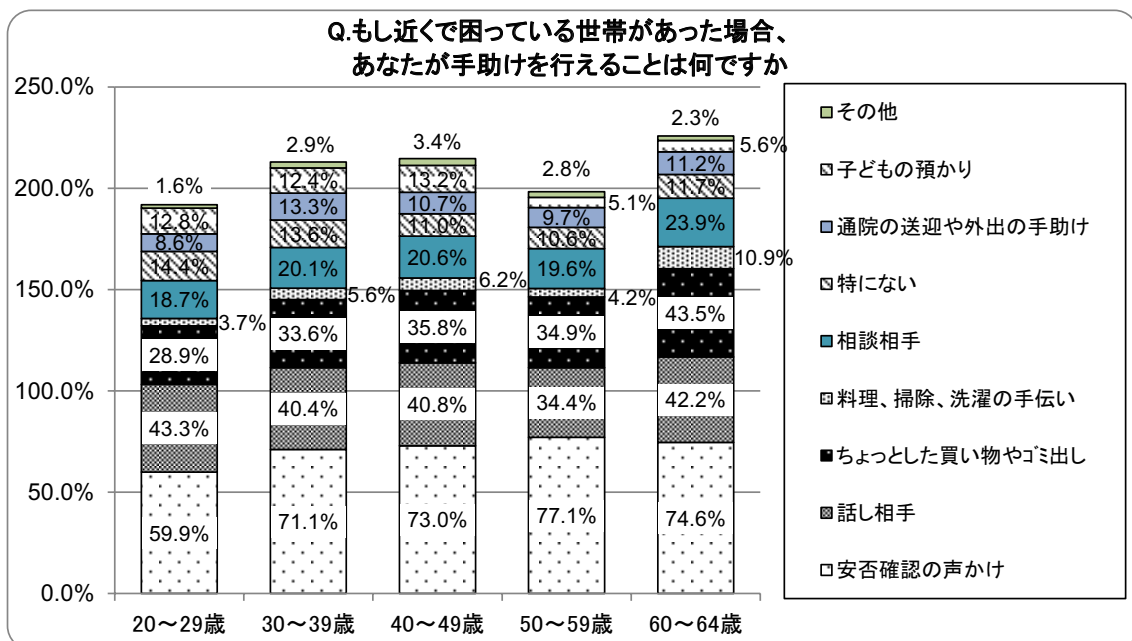
- ・保育所(園)、幼稚園、小学校、学童クラブとの交流や情報交換の機会を積極的に増やし、子どもたちが安心して就学し、安定した学校生活が送れるように連携強化に努めます。

②安心して暮らし続けられるまちづくり

現状と課題

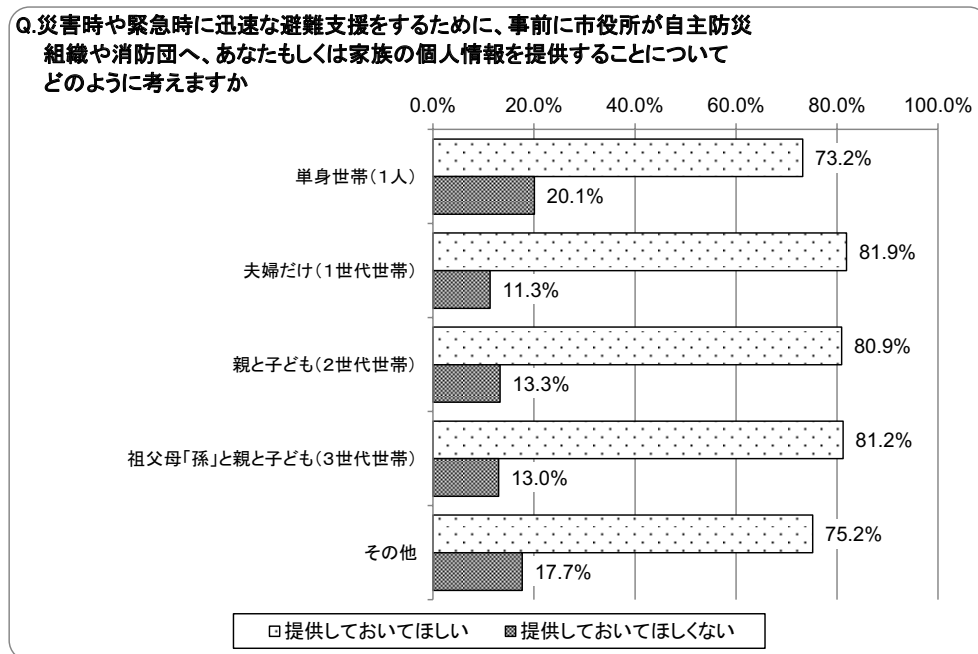
■市民アンケート調査結果

もし近くで困っている世帯があった場合、手助けを行えることは、全ての年齢層において「安否確認の声掛け」、「話し相手」の割合が高くなっています。



災害時や緊急時に迅速な避難支援をするために、事前に市役所が自主防災組織や消防団へ個人情報を提供することについては、全ての世帯構成において「提供しておいてほしい」の割合が高くなっています。

他の世帯構成と比べ、単身世帯(1人)において、「提供しておいてほしくない」の割合が高くなっています。



その他：南海地震に向けての対策や備え（防災無線や避難経路、場所等）
津波が来た時どこに逃げたらよいのか教えておいて欲しい

■各種団体等ヒアリング調査・地域支えあいづくり座談会での意見など

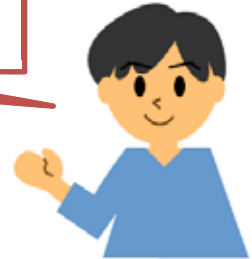
- ・ 安心、安全が基本
- ・ 自分の身は自分で守る（まず逃げる、避難先の把握）
- ・ 避難場所がない、避難場所が遠い
- ・ 避難マップや防災地図の作成が必要
- ・ 自主防災組織がない地域がある
- ・ 防災訓練からコミュニケーションのきっかけに
- ・ 買い物の代行、移動スーパー
- ・ 見守り隊活動（高齢者、子どもの見守り）
- ・ 見守り活動に参加している人はいつも同じ人である
- ・ 個人情報保護法により見守り活動に支障が出ている
- ・ 独居老人へのお弁当、おやつ、ヤクルトの配達
- ・ 障害者に対する防災関係の情報がない
- ・ 家庭教育サポーター等の活動の場が、市内にない



方策

地域の人が、支援を必要とする高齢者等を支え、地域で助け合えるようなしくみづくりを推進します。

高齢者や障害者等、地域に住んでいる人が一体となって、地域の課題解決や自分の地域をより良くするための取り組みができるように努めます。



施策

施策①：見守り活動への支援

■今後の取り組み（施策）

- ・災害時の情報収集及び伝達機能を維持できる固定系防災行政無線システムを整備し、行政からの情報伝達方法として平常時の活用も検討していきます。
- ・独居高齢者や障害者が安心して生活するために、急病、火災、事故等の緊急事態の発生に備え、緊急通報装置の設置を支援します。
- ・在宅高齢者が健康で自立した生活を送ることができるよう、配食サービスを実施し、訪問時に見守りを行います。
- ・学校は、赤十字社や消防、警察など関係機関の協力による訓練や防犯、防災教育の充実を図り、児童生徒の危機管理意識の育成に努めます。
- ・少年育成センターや保護司会・補導員・地域の見守り隊などの団体が連携し、子どもの健全育成に努めるとともに、子どもの安全を守るため、スクールガードリーダーによる登下校時のパトロールに努めます。
- ・警察、児童相談所、民生児童委員など関係機関との連携強化に努め、児童生徒、家庭への支援に積極的に取り組みます。
- ・学校は独居高齢者へのお手紙の送付など、地域の福祉活動に積極的に関わり、地域支援の一役を担います。

施策②：災害時要援護者台帳の整備及び活用**■今後の取り組み（施策）**

- ・災害時要援護者（高齢者・障害者など）の登録、登録者の個別避難支援情報の収集により台帳整備を行います。
- ・情報共有の同意を得た登録者情報は、民生児童委員・自主防災組織などと共有することにより、災害時の安否確認・避難支援及び普段の見守り、防災訓練などに活用し、地域での支援体制を進めていきます。
- ・福祉施設・事業所と福祉避難所の協定を順次結んでいき、要援護者の状態・障害にあわせ、適正な支援ができるようにします。

施策③：自主防災組織等への支援**■今後の取り組み（施策）**

- ・自らの地域は自らで守ってもらうため、引き続き自主防災組織の支援を行います。また、自主防災組織が相互に協力・連携を密にすることにより、防災意識高揚と災害対応能力の向上を図るために結成された自主防災会連合会を、新たに支援していきます。

施策④：防災、減災体制づくり**■今後の取り組み（施策）**

- ・次期南海地震は連動した地震になると予測される中で、沿岸住民を中心としたワークショップ*を実施することにより、津波から逃げる取り組みを開始します。
- ・おおむね5分程度での避難が可能となるよう、沿岸部では避難場所の整備の推進を図ります。

※ワークショップ・・・誰か一人に頼るのではなく、みんながみんなの意見を出し合い、まとめたものづくりをするということ

施策⑤：買い物支援の取り組み

■今後の取り組み（施策）

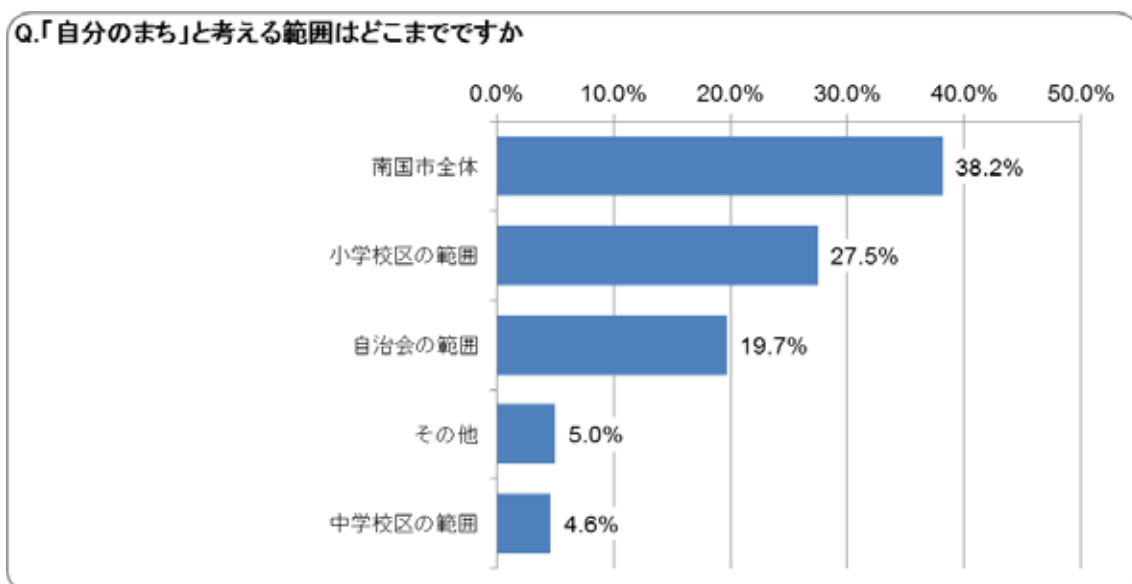
- ・一人暮らしで、介護保険のサービスを受けていない人で、支援が必要と認められた人には、軽度生活援助事業の利用による買い物支援を行います。
- ・あったかふれあいセンターによる移動（買い物や病院への通院等）手段を支援する機能を検討します。

③人にやさしいまちづくり

現状と課題

■市民アンケート調査結果

「自分のまち」と考える範囲は、「南国市全体」の割合が最も多く、次いで「小学校区の範囲」、「自治会の範囲」の順となっています。



その他：美しい自然や田舎の風景 等

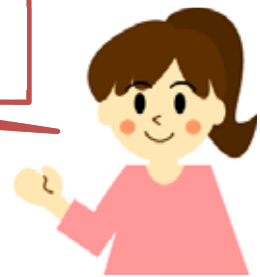
■各種団体等ヒアリング調査・地域支えあいづくり座談会での意見など

- ・清掃活動への参加
- ・自然が多い



方策

障害者や高齢者を含め、全ての人にとって暮らしやすいまちづくりや、ものづくりをしていくことを基本として、誰もが住み慣れた地域で暮らせるまちづくりを推進します。



施策

施策①：環境保全活動の啓発

■今後の取り組み（施策）

- ・学校教育、生涯学習活動において地球温暖化防止や自然環境などの保全について理解を深めるため環境教育・学習機会の拡充を図ります。
- ・市民、事業者等が快適な環境確保に関する活動に取り組めるよう、自然保護意識の高揚と活動意識の育成を図ります。
- ・一般市民やボランティア団体の環境保全活動を支援し、あわせて全市的環境保全活動に向けて情報の提供やその活動が促進されるよう取り組みを推進します。
- ・郷土の自然や食文化等に触れる機会を積極的に持ち、郷土を愛する心情を育成します。

施策②：住環境の整備の推進

■今後の取り組み（施策）

- ・良好で快適な環境を向上させるために、海、川、山等の豊かな自然とのふれあいを保つことに努め、次世代に継承していきます。
- ・中心市街地の活性化及び自動車・自転車歩行者の円滑な交通確保のため、現在工事を進めております高知南国線及び南国駅前線の整備を引き続き推進します。また、土地区画整理事業により篠原地区の住環境整備に取り組みます。

施策③：人にやさしいまちなみづくりの推進

■今後の取り組み（施策）

- ・都市計画道路高知南国線及び南国駅前線の道路整備において、障害者や高齢者などが安全で快適に移動できるよう段差解消やバリアフリー化に努めます。

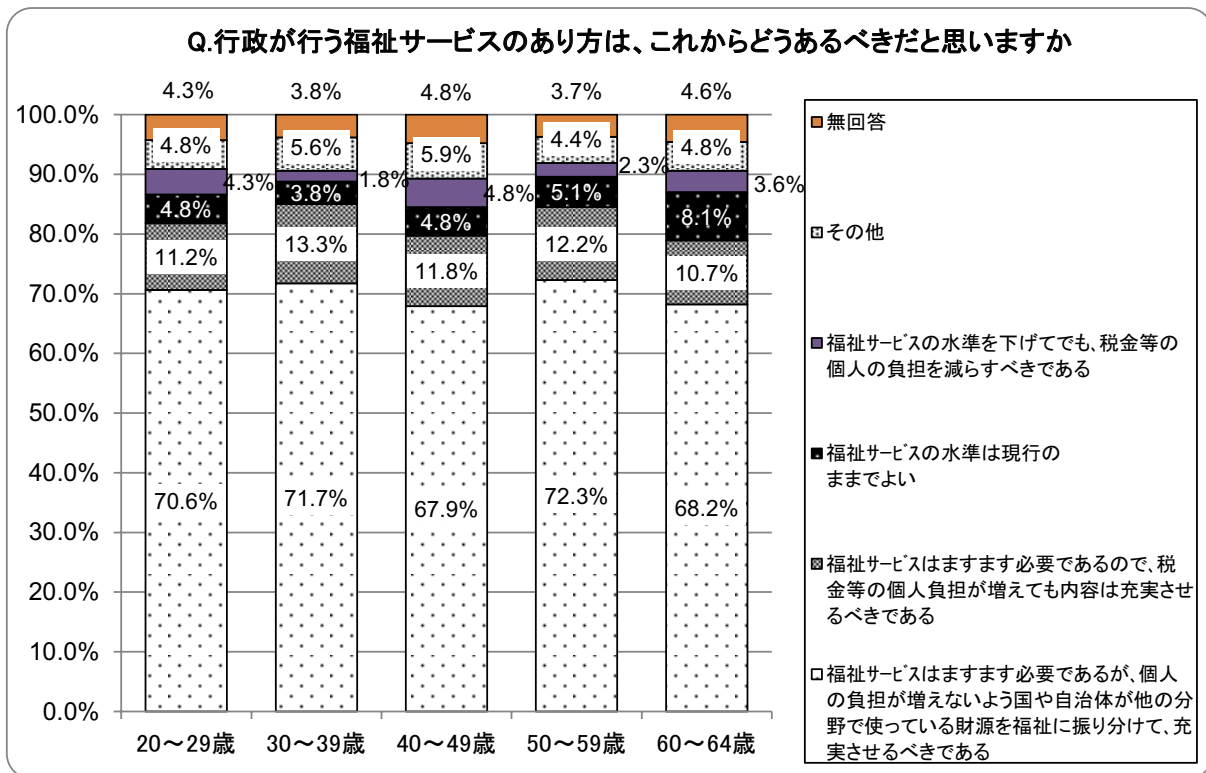


④福祉サービスの適切な利用の促進

現状と課題

■市民アンケート調査結果

行政が行う福祉サービスのあり方は、全ての年齢層で「福祉サービスはますます必要であるが、個人の負担が増えないよう国や自治体が他の分野で使っている財源を福祉に振り分けて、充実させるべきである」の割合が高くなっています。



その他：福祉サービスの情報をもっと広めて欲しい（情報が来ない）
福祉サービスの水準がよく分からない

■各種団体等ヒアリング調査・地域支えあいづくり座談会での意見など

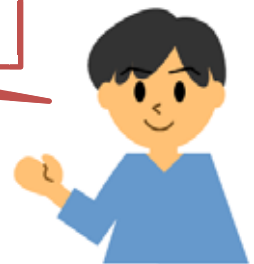
- ・個人情報の問題があるが市役所内部をはじめ、市役所と各団体（民生児童委員、自主防災、高齢者学級、老人クラブや婦人会、地区社協等）や、地域の世話役の間で互いに情報が共有できていない
- ・身の回りの小さな困りごとに対応できる支援体制や夜間に対応できる在宅サービスが少ない
- ・行政に問い合わせた時は、分かりやすく、専門機関としてきちんとした窓口対応をしてほしい



方策

実際に行われているサービスが市民に伝わっていない、相談窓口が分からないなど、分かりにくい福祉サービスや相談体制を改善し、福祉サービスが必要な人に提供できるしくみづくりに努めます。

また、福祉サービスの質の向上と、適切な利用を支援します。



施策

施策①：福祉サービス利用に関する情報提供の充実

■今後の取り組み（施策）

- ・市の広報・ホームページ等を活用し、分かりやすい福祉サービス情報提供に努めます。
- ・平成22年度に作成したハートフルマップ※を有効活用し、福祉サービスの周知・事業の概略を紹介します。

※ハートフルマップ・・・障害者が利用・使用できやすい施設・事業所等の一覧及び地図

施策②：福祉サービスの質の向上

■今後の取り組み（施策）

- ・認知症高齢者や障害者の日常生活上の権利や利益を守り、適切な福祉サービスの利用ができるよう福祉サービスの周知と普及に努めます。
- ・サービスが必要な人に適正にサービスが行き届くよう、市民、民生児童委員等による見守り体制を支援し、必要に応じて専門職員の派遣を行います。
- ・障害者計画や高齢者福祉計画策定時には、障害者や高齢者といった当事者の意見を聞き、利用者目線の計画・サービスに努めます。



施策③：相談支援体制の充実

■今後の取り組み（施策）

- ・市民の総合相談窓口として、さまざまな相談に柔軟・適正・迅速に対応するため、各担当課との横のつながりを強化するとともに、職員の資質向上に努めます。
- ・高齢者については、南国市社会福祉協議会に委託している南国市地域包括支援センターとの連携により、相談体制の充実に努めます。
- ・障害者については、相談業務を委託している障害者相談支援事業所「南国」を中心として、各相談支援事業所と連携して、相談体制の充実に努めます。



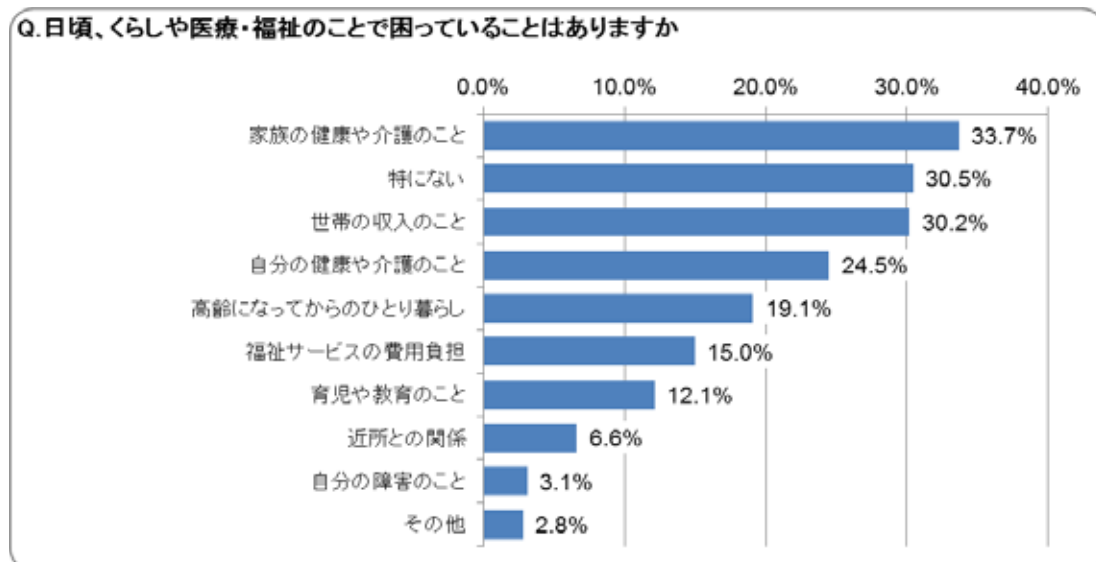
基本目標3：健康づくり、生きがいの推進

①市民主体の健康づくり体制の充実

現状と課題

■市民アンケート調査結果

日頃、くらしや医療・福祉のことで困っていることでは、「家族の健康や介護のこと」の割合が最も多く、次いで「特にない」、「世帯の収入のこと」の順となっています。



■各種団体等ヒアリング調査・地域支えあいづくり座談会での意見など

- ・車に乗れなくなった際、通院や買物が不安
- ・自己管理が大切（わかガエる体操）
- ・検診の受診率が低くなった（地区での検診がない）
- ・子どもが朝ごはんを食べていない
- ・介護等に相談しやすい窓口がほしい
- ・独居老人の健康管理が課題



方策

住みなれた地域で、いきいきと暮らすためには「健康」が重要な要素であり、市民自らの自主的な心身の健康づくりを推進し、生活の質の向上を図ることが必要となります。

日頃の暮らしの中で、市民が自主的に健康づくりの大切さについて学ぶことや、健康づくりに取り組もうとする個人を支援していく環境を整備し、地域全体の健康づくりを推進します。



施策

施策①：健康意識の向上・受診率向上に向けた取り組み

■今後の取り組み（施策）

- ・生活習慣病の早期発見のため、40歳を過ぎると特定健康診査を実施し、治療をしていない人で生活習慣病への危険性が高く生活習慣の改善による予防が見込まれる人には特定保健指導を行い、健康意識の向上に努めます。
- ・自分の健康を維持するためには、まず自分の健康状態を確認することが大事ですが、まだまだ受診率は低く、直接電話をかけるなどにより受診勧奨を進めています。
- ・がんの予防と早期発見のため各種がん検診を実施していますが、同じく受診率向上のため電話等での受診勧奨を促進します。



施策②：地域における健康づくり活動の支援**■今後の取り組み（施策）**

- ・健康まつり(きらりフェア、ミニきらり)や運動教室、栄養教室等を開催し、地域の住民が集まって健康づくりを行う取り組みを推進します。
- ・高齢者の筋力向上体操として「わかガエる体操」を地域で普及啓発するボランティア養成講座を開催し、「いきいきサークル」への支援を行い、高齢者の居場所づくりと地域の支えあいにつながるよう拡大していきます。

施策③：食育の推進**■今後の取り組み（施策）**

- ・食育推進計画における『目指す食育を推進するまちの姿』の実現に向け、生産者・消費者・教育関係者・保護者・行政がそれぞれの立場で食育の重要性を認識し、お互いに連携しながら食育の推進にさらに取り組みます。
- ・食育に関心を持ち、掲げられた目標に取り組む市民が1人でも増えるように市民や地域の活動を支援していきます。

施策④：介護予防事業の推進**■今後の取り組み（施策）**

- ・介護予防事業は一次予防事業と二次予防事業に分かれています。
一次予防事業として、全ての高齢者を対象として、生活機能の維持向上に向けた取り組みや、介護予防の基本的知識の普及やボランティア育成などの支援を行っていきます。
二次予防事業として、要支援・要介護に陥るリスクの高い高齢者の早期発見、また、一人ひとりの状況に応じて日常生活の自立を図るために効果的な支援を行っていきます。
- ・平成24年度から、前浜老人憩いの家において運動機能向上のための器具などを整備し、閉じこもりやうつ、認知症予防等の介護予防事業を行っていきます。

施策⑤：地域医療体制の整備充実

■今後の取り組み（施策）

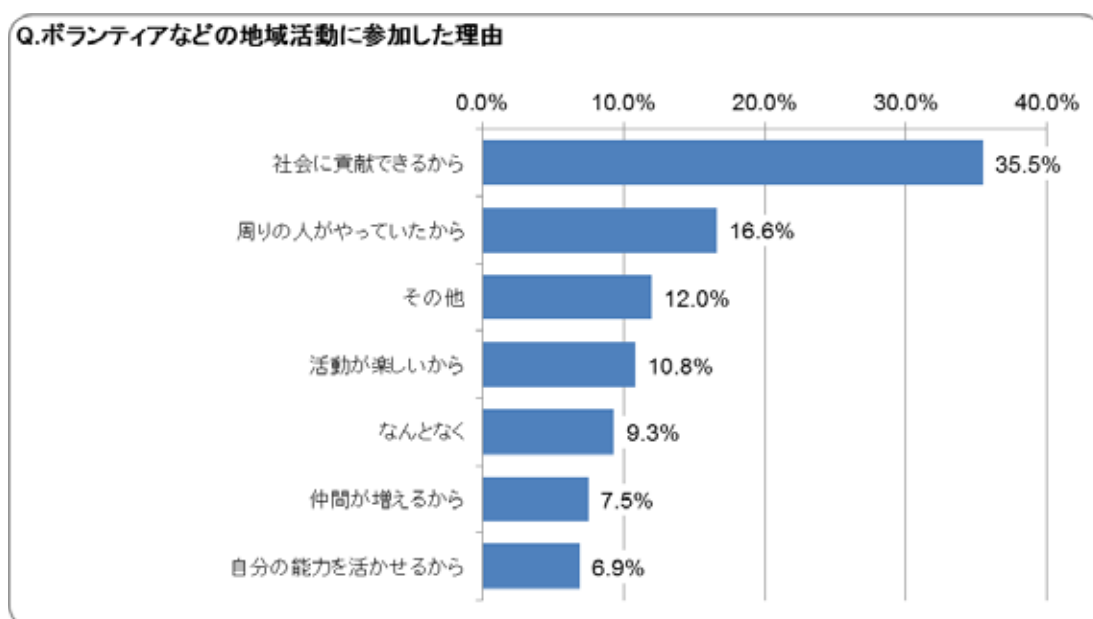
- ・ 医師会、歯科医師会、高知大学医学部と保健福祉センターとが連携しながら市民が受診しやすい検診体制づくりを進めるとともに、在宅医療サービスの提供・充実を積極的に促進します。
- ・ 休日在宅当番医制を継続していきます。
- ・ 災害時への救急医療体制として各医療機関と無線による緊急連絡体制を整備しており、迅速な支援を得られるよう連携を強化します。

②市民が参加しやすい生涯学習活動の整備

現状と課題

■市民アンケート調査結果

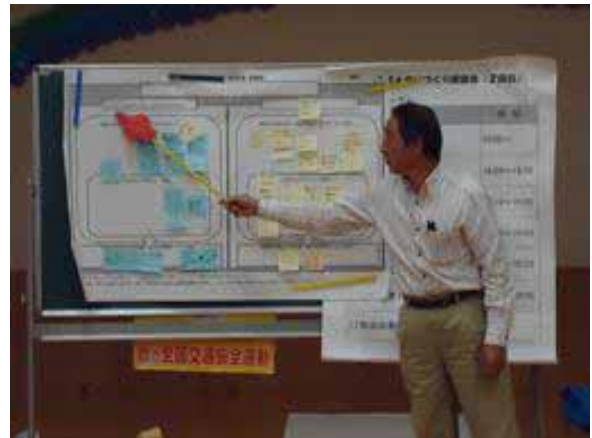
ボランティアなどの地域活動に参加した理由は、「社会に貢献できるから」の割合が最も多く、次いで「周りの人がやっていたから」、「その他」の順となっています。



その他：会社の方針、依頼されて、子どものため 等

■各種団体等ヒアリング調査・地域支えあいづくり座談会での意見など

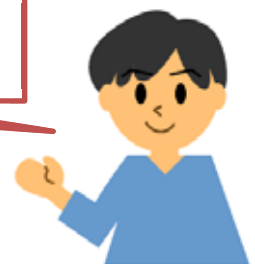
- ・活動を継続していくことが大切
- ・市内の老人クラブは休止や解散が相次いでおり、地域の中で高齢者が社会の担い手としての機会を失っている
- ・高齢者が守られる存在ではなく、自らが積極的に社会参加できるような仕組みが必要
- ・団塊の世代が地域活動へ参加することで、地域福祉は大きく変わってくると思う



方策

全ての市民が、生涯にわたって自由に学ぶことができるように、学習の機会や場所の充実を図り、生きがいづくりを推進します。

市民一人ひとりが、積極的に学習活動に参画する意識を高めるための情報提供に努めます。



施策

施策①：公民館におけるサークル活動の充実

■今後の取り組み（施策）

- ・中央公民館や地区公民館で行う市主催の講座が、将来的には自主的なサークル活動に移行し充実していくよう、市民の学習ニーズの把握に努めます。

施策②：各種研修・講座について情報提供の充実

■今後の取り組み（施策）

- ・市の生涯学習を総合的に企画・調整・推進するため、生涯学習推進体制の整備及び情報提供を図ります。

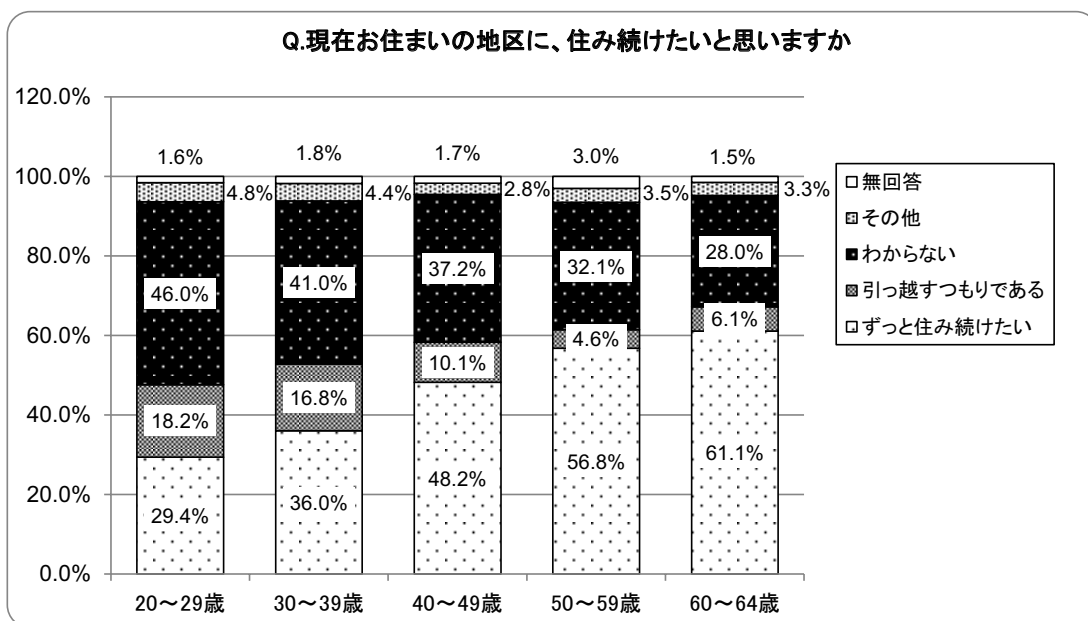


③就労、雇用の促進

現状と課題

■市民アンケート調査結果

現在、お住まいの地域に、住み続けたいと思いますかでは、年齢が高くなるにつれ「ずっと住み続けたい」の割合が高く、年齢が低くなるにつれ「引っ越すつもりである」、「わからない」の割合が高くなっています。



■各種団体等ヒアリング調査・地域支えあいづくり座談会での意見など

- ・市内に就労場所が少ない
- ・若い人が移住できるようにしてほしい(住居、仕事)



方策

高齢者の雇用を推進することにより、健康保持と生きがいをづくりに努めます。

また、障害者の雇用を図るため、福祉関係機関や企業などと連携し、自立して社会参加できるように支援していきます。



施策

施策①：市民への就労支援について

■今後の取り組み（施策）

- ・ 就労の場を確保するため、今後も引き続き、新たな企業団地の確保に向けて取り組みます。
- ・ 製造業や流通業以外の事務系の企業の誘致にも取り組んでいきます。
- ・ 企業にとっては、単なる労働力でなく、優秀な人材を求めており、人材の育成にも取り組む必要があります。そのため、求職者を中心に様々な研修・セミナー講習会を開催し、引き続き人材育成を行っていきます。

施策②：高齢者の就労支援について

■今後の取り組み（施策）

- ・ 南国市シルバー人材センターとの連携のもと、会員数の確保を図り、高齢者が特技特性を活かし、生きがいをもって生活できる活力ある地域社会づくりのため、関係機関や民間企業に協力を要請していきます。

施策③：障害者の就労支援について

■今後の取り組み（施策）

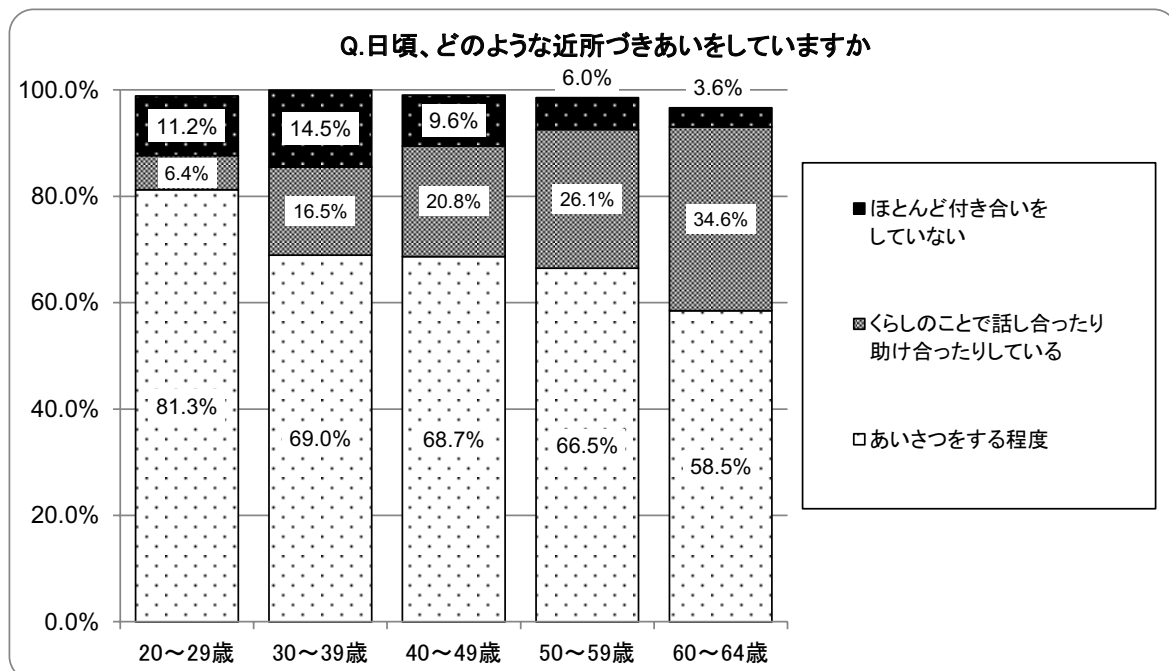
- ・ 障害者の経済的自立や社会参加を促進するため、地域活動支援センター「南国」を中心に関係機関との連携を図り、就労機会の拡大に努めます。

④地域交流の推進

現状と課題

■市民アンケート調査結果

日頃、どのような近所づきあいをしていますかでは、年齢が高くなるにつれ「くらしのことで話し合ったり助け合ったりしている」割合が高く、年齢が低くなるにつれ「あいさつをする程度」、「ほとんど付き合いをしていない」割合が高くなっています。



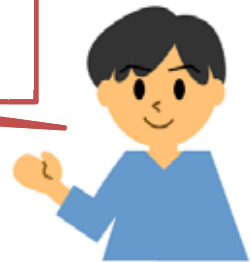
■各種団体等ヒアリング調査・地域支えあいづくり座談会での意見など

- ・世代のつながりはあるが、世代間のつながりがない
- ・いろいろな関係者を呼んでの交流(世代間交流)
- ・地区民運動会が大事
- ・現在、スポーツセンターで行っている活動を各地域でやっていきたい
- ・南国市社会福祉協議会の活動とまほろばクラブの活動は、内容及び方向性が同じであるため、連携が図れば
- ・農業研修生(外国人)が増加している



方策

同じ地域に住む人たちと世代間交流を行うことで、生涯にわたって地域で住み続けることの意義や喜びを学び、お互いに支え合ったり、助け合ったりできる関係づくりに努めます。



施策

施策①：世代間交流の推進

■今後の取り組み（施策）

- ・幅広い年齢層が参加できる各種イベントを行い、公民館活動を支援し、多世代の交流を促進します。

施策②：スポーツ、文化活動の充実

■今後の取り組み（施策）

- ・生涯及び通年にわたってスポーツに取り組むことができるよう年齢やライフスタイルに応じたスポーツ教室、体力テスト、スポーツ大会等のスポーツプログラムの開発拡充を図ります。
- ・南国市美術展や文化祭などの、創作作品を発表する機会を拡充し、芸術文化活動の定着を図ります。

施策③：国際交流の推進

■今後の取り組み（施策）

- ・南国市国際交流協会が中心となって市民間での幅広い交流を促進し、市民と外国人の交流を深めることにより、市民の国際化への意識を高めていきます。

第6章

計画の推進

第6章 計画の推進

1 計画の推進体制

計画の目標を達成していくためには、市民、ボランティア、事業所、社会福祉協議会、行政などがお互いに連携し、それぞれの役割を果たしながら一体となって、総合的、長期的な視点から各目標に取り組み、協働し活動を推進することが重要です。

(1) 地域・市民の役割

地域の一人ひとりが、福祉に対する意識や認識を高め、地域社会の構成員の一員であることの自覚をもち、「自助」地域福祉の担い手として自らボランティアなどの社会活動に積極的かつ主体的に参加し、「共助」ある時は隣近所と協力し、事業者からの情報、サービスの提供を受けながら目標に向かって取り組んでいくことが求められます。

(2) 事業所・各種団体の役割

福祉サービスの提供者・協力者として、サービスの提供及び参加、事業内容やサービス内容の情報提供及び周知、他のサービスとの連携に取り組むことが求められます。また、地域福祉ニーズに基づく新たなサービスや住民福祉への参加の支援や福祉のまちづくりへの参画に努めることが求められます。

(3) 社会福祉協議会の役割

地域福祉を推進していくことを目的とする団体として設置されている社会福祉協議会は、地域の実情を把握し、住民とともに地域課題に取り組む組織です。

総合的な相談事業、ボランティア活動の推進、福祉意識の啓発、人材育成、小地域ネットワーク活動、地域の実情に応じたサービスや支援などを、今後さらに地域に密着し活動を行っていくためには、「共助」のための福祉組織づくりを推進し、地域力の向上に寄与していきます。

(4) 市の役割

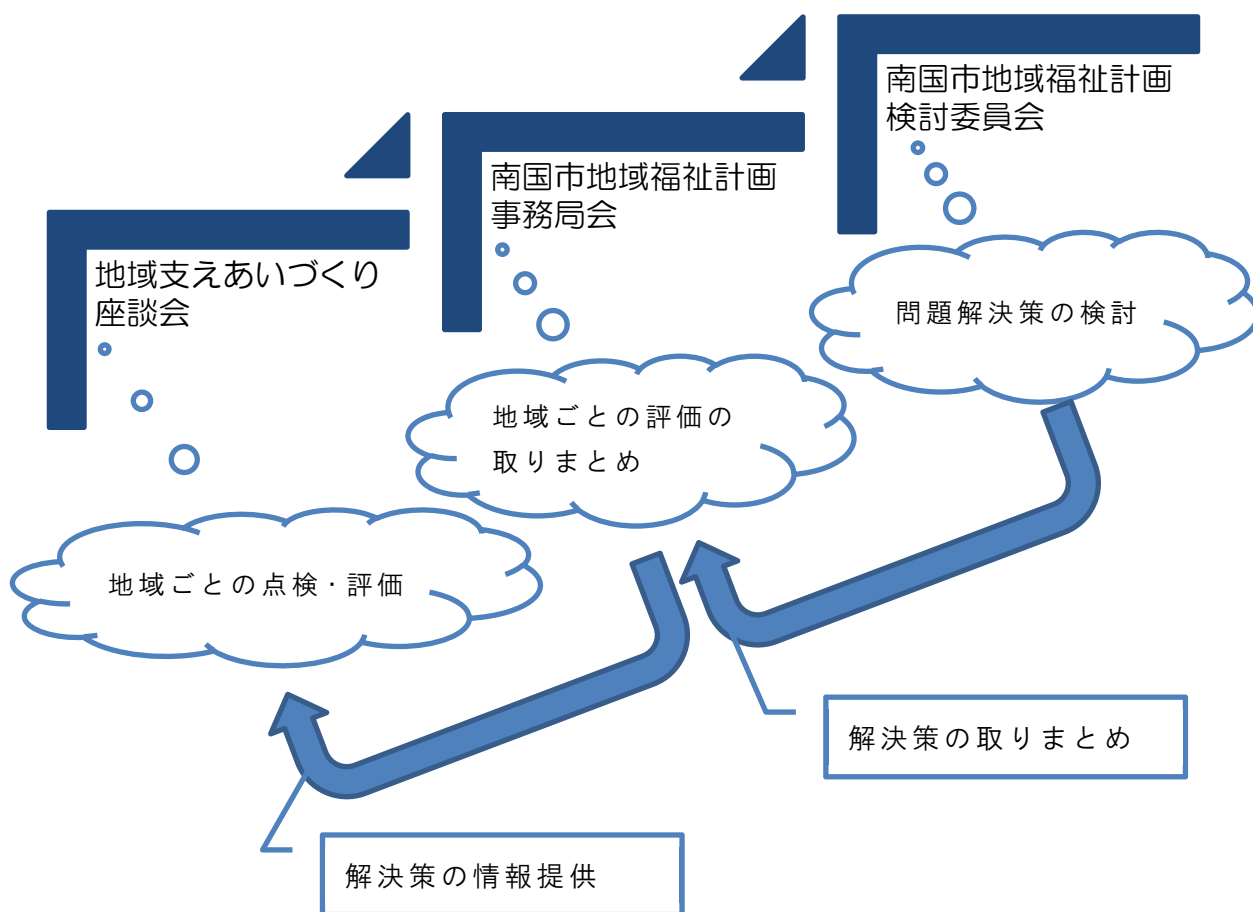
地域福祉の推進にあたって、行政には住民の福祉の向上を目指して福祉施策を総合的に推進する「公助」としての責務があります。それを果たすために、地域福祉を推進する南国市社会福祉協議会やボランティア団体などと相互に連携、協力を図るとともに、住民のニーズの把握と地域の特性に配慮した施策の推進に努めます。さらに、地域福祉への住民参加を促進し、地域福祉活動拠点の整備に関する支援や情報提供の充実に努めます。

2 計画の評価及び改善

本計画は、地域の人、地域活動を支える自治会や各種団体、ボランティア・NPO、福祉サービス事業者、南国市社会福祉協議会及び行政などが連携し、着実に推進していきます。このため、計画の進行管理については、庁内関係各課で構成する「南国市地域福祉計画事務局会」と、住民・関係団体・市などで構成する「南国市地域福祉計画検討委員会」において、国の社会福祉制度改革の動向も十分に見極めながら、推進体制の整備と本計画の周知及び進行管理、評価・見直しを行っていきます。

なお、特に地域の実情や特色を考慮した状況の把握を必要とする項目については、住民の積極的な参画を得て、地域ごとにそれぞれ点検・評価を行っていきます。

「計画の評価及び改善方法」



第7章

資料編

第7章 資料編

1 地域を元気にしている活動事例

市内の各地域を元気にしている活動をいくつか紹介します。

その他の地区の活動については、今後「広報なんこく」や「社協だより」等を通じて各地域へ発信していく予定です。

(1) ごめんほのぼのMAP

～優しい心になれる町～

ごめん町では「ごめん町まちづくり委員会」の委員が町を歩いて再発見した町の良さも盛り込んで、案内板とマップを作成しています。

案内板はJRごめん駅・ありがとう駅・ごめん町商店街の3箇所に設置し、マップはJRごめん駅やごめん町商店街の各商店で配布しています。

マップを片手にJRごめん駅の詩碑「ごめん駅でごめん」、後免野田小学校にある石像の「やなせライオン」、「ありがとう駅」、そしてごめん町商店街の「ハガキでごめんなさい」の作品などをご覧になってみてください。

商店街では、商品の包装紙としてマップを使用するなど、各商店で工夫し自分たちのごめん町を積極的にPRしています。また公民活動として、マップを使った紙バックづくりの講習会を予定しております。

ごめん町では地名を活かして「優しい心になれる町」をキャッチフレーズにまちづくりを進めてきました。これからも「ごめん」と「ありがとう」を活かしてごめん町に住む人が自ら楽しみ、訪れた人にも楽しさや優しさが伝わる取り組みを継続し、まちに賑わいを取り戻せる活動を行っていきます。



(2) 稲生小学校PTCA

～学校を核とした地域の元気～



稲生地区では、平成 17 年度より『稲生小学校を核にして地域教育力の再生をしていこう』との思いから、PTA に地域を意味する「C: コミュニティ」を入れた PTCA 化により、地域・学校・家庭・児童の連携を推進しています。

“C”の方々は、開かれた学校づくり推進委員会を中心に、公民館長や、民生児童委員、農業就労者、スポ

ーツクラブ指導者、昔遊び指導者などで構成されています。

〈PTCA の取り組み〉

◆ ラジオ体操と「朝型社会の復権」

地域の人に運動習慣を身につけてもらうためと児童の姿勢改善のため、週明けに行われる学校の朝礼時、児童と地域の人と一緒にラジオ体操を実施しています。地域の人子どもたちの学校生活を見られるとともに、健康づくりの機会になっています。また絵本の読み聞かせなども行っています。



◆ 地区の祭り

夏祭りを PTCA で復活させ、若い人から高齢者までみんなが集まり、楽しめる地域の身近なイベントになりました。カップのフィギュアを作成し活性化のシンボルとし、地域文化の継承につなげています。

◆ 地域で活動している団体との連携

地区女性グループのメンバーが、学校行事の田植えや稲刈り・たまねぎ栽培・芋ほりなどの食農体験をサポートしています。20M以上もあるロング巻き寿司作りは 12 月の恒例行事となっています。

また、PTCA を中心とする学校と地域との協働で、学校行事がより地域とのふれあいを大切にしたものになっており、地域活性にもつながっています。

◆ 2 分の 1 成人式を地域で祝う

10 歳を迎える小学 4 年生の 1/2 成人式に地域の人も参加し、地域の宝である子どもたちの成長を、一緒に祝っています。

◆ 稲生の文化が薫る日

11 月の最終日曜日に午前中は小学校で「学習発表会」、午後からは公民館で「ふれあい文化祭」が実施されています。同じ日に開催されることで行事の参加者が増え、また世代間の交流推進につながっています。

(3) 日章地区健康スポーツフェスティバル

～地区民運動会から室内スポーツイベント～

市内には、旧村単位の地区民運動会が各地区で開催され、日章地区でも地区内の最大イベントとして、約10数年前まで、日章小学校グラウンドで校区内13部落の参加のもと日章地区民運動会が実施されていましたが、高齢化や若者の地域離れが進むにつれ、住民に負担感が残る地区民運動会に対して、各部落より廃止を求める声が広がり、日章地区民運動会は廃止となりました。

しかし、段々少なくなってきた地域の人の交流の場が更に失われ、地域の一体感が薄れていくことを危惧した地域の人は、日章地区公民館運営審議会において、誰でもが気楽に参加できるスポーツ中心のイベントを検討し、地域の人たちで楽しい地域、面白い地域にしていくことの大切さに気がついてもらうことを目的に、「日章地区健康スポーツフェスティバル」に形を変え、平成16年度より日章福祉交流センター（日章公民館）で開催しています。

健康スポーツフェスティバルは、みんなが一緒に楽しめる屋内スポーツイベントであり、従来の競争型の競技でなく、レクリエーション、ゲーム、ニュースポーツ、アトラクション等を取り入れ、高齢者や子どもなど誰でもが参加でき、また見るだけでも楽しめるイベントとなり、近年は500人近くの地域の人が集まるようになっています。

日章地区健康スポーツフェスティバル			
1. 日時：平成28年10月30日(日) 開会式 12時45分～閉会式16時～			
2. 会場：日章福祉交流センター 競技開始 13時～16時 休会日9/8			
競技役員紹介 西側大会役員			
期	時間	競技種目	競技内容
1	1:00 ～1:10	デモンストレーション	
2	1:15 ～1:25	日章タワー	○ 前方にある机に併せ積み上げ、時間内に10個全部早く積み上げたチームの勝ち。 ○ リレー形式で1人1個のみ積み上げる。 ○ 倒れたら直さずに次の人にリレーして積み直す。 ○ 全部積み上げた時、ボーナス点1点を得点に追加。
		部落対抗 出場人数 4名 競技時間3分 ※参加賞あり	【賞】4点 【物】10ヶ×4×3=120個 ◎ 競技…4部落対抗 ◎ 得点…4, 3, 2, 1
3	1:30 ～1:40	すわってボーリング	○ 選手はイスに座ったままボールを両手で転がしてピンを倒す。 ○ ピンが全部倒れたら審判員が全倒立で直す。 ○ 必ず自国で投球する。 ○ 1人2投球で全員投球後、倒したピンの総数で順位を決める。
		部落対抗 出場人数 8名 ※参加賞あり	【ボール】4ヶ 【ペットボトル】6×11=66 【三角印】4個 【筒】【テープ】 【旗】1位～4位 ◎ 競技…4, 4, 4部落対抗 ◎ 得点…総長得点プラス 4, 3, 2, 1
4	1:45 ～1:55	デモンストレーション	各部落公民館へインタビュ
5	2:00 ～2:05	おかしひろい	○ スタートラインから出発し前方に置いてあるお菓子袋を、1人1個持って帰ってください。 ○ 必要であれば、親が付き添ってください。
		幼児と親	予想数：70名 【ブルーシート】1枚 【筒】1個 【お菓子】(70個)
6	2:10 ～2:20	ピンポンゲーム	○ 前の各回で親がピンポンを投げ、子が空欄で受け取る。 ○ 受け取れなかったチームは賞品をもらって出る。残ったチームでもう一度行う。
		大人と小学生 (各部落4組まで) ※参加賞あり	【筒】1個 【ピンポンボール】20個 【ブラカブ】48個 ※最後2組の場合3人 ※最後3組の場合2人になるまでゲーム
7	2:25 ～2:35	旗一巻	○ 旗の各回でスタートし、前方のトイレットペーパーの芯が出るまで引き出す。 ○ 引き出す時は足を動かさない。 ○ 芯が出たら次の人にリレーする。 ○ 最後の人のゴールで順位を決める。
		各部落役員対抗 出場者：部落長、副部落長 合計(本年度役員でも可) ※各部落へ参加賞あり	【筒】1個 【トイレットペーパー】4本 ◎ 競技…4部落対抗 ◎ 得点…10

8	2:40 ～2:55	千利休	○ スタート合図で前方机でタジを引く。 ○ 競技機に行きタジに示されたドリンクを飲むかみかんを食べる。 ○ 審判員の指示で終了ゴールに帰る。 ○ 1組ごとの順位を合計し総合順位とする。	【瓶】5本 【コーラ】24個 【お茶】24個 【天然水】24個 【ビール】12個 【筒】【タジ】タジ箱 ◎ 競技…4, 4, 4部落対抗 ◎ 得点…順位合計点
		部落対抗 出場人数 4名 ※参加賞あり		
9	3:00 ～3:10	デモンストレーション		
10	3:15 ～3:25	オセロ	○ 牛乳パック30個を競技場内に自備を上にして散らばらす。 ○ 合図で自分のチーム色(赤か黒)を上にする。 ○ 時間内に自分のチームの色の多い方が勝ち。	【牛乳パック】30個+α 【筒】1個 【ストップウォッチ】1 ◎ 不戦勝はなし。 ◎ 競技…2チーム対抗 ◎ 得点…勝ちチーム3点 負けチーム1点
		部落対抗 出場人数 5名 ※参加賞あり		
11	3:30 ～3:40	ごはんですよ	○ くじを引く。 ○ 横の机の上に色分けして書かれている物をしゃもじの上に集めて競技。 ○ リレー形式で次の人にバトンの代わりにしゃもじを渡す。 ○ 最後の人が早く帰ったチームの勝ち。	【瓶】2本【イス】6脚 【くじ】 【カラーボール】 ①6ヶ②5ヶ③5ヶ 【黒船】6ヶ 【ピンポン玉】6ヶ 【ボール】6ヶ 【しゃもじ】4ヶ 【旗】1位～4位 ◎ 競技…4, 4, 4部落対抗 ◎ 得点…4, 3, 2, 1
		部落対抗 出場人数 4名 ※参加賞あり		
12	3:45 ～4:00	一発逆転玉入れ競争	○ 各部落に新製紙20枚ずつ配布。 ○ 自分で新製紙を作り、カゴの中へ玉を入れる。 ○ カゴの中へ入った数で、順位を競う。	【新製紙1/2紙】20枚×11 チーム数 【厚付カゴ】6個 【筒】1個 【ストップウォッチ】 ◎ 競技…6, 0部落対抗 ◎ 得点…カゴの中の新製紙の数が得点
		部落対抗 出場人数 5名 ※参加賞あり		

競技種目・名前も工夫しており、プログラムを見るだけでも楽しい様子が伺える健康スポーツフェスティバルです

(4) 左右山地区広報『SOYAMA NOW』

～「困ったときは、お互いさま」の地域へ～

左右山部落会では、平成17年度より年に2回、左右山地域における、取り組みやお知らせ等を、カラー図版・写真入りの広報誌『SOYAMA NOW』にて紹介することで、地域の交流・地域の支えあいを推進しています。

地域の活動を写真入りの記事にすることで、地域のために地域の人が活動していることを知る（見る）ことができ、地域へのつながりが深まるとともに、活動する人々の励みにもなっています。更に当日参加できなかった人へのお知らせ効果もあり、次回参加へつながることもあります。

また、「小学校新入生の紹介」、「小学校校長先生の投稿」、「地域の人々の投稿」などにより、地域の子どもたちを地域で見守り育てる意識の高揚等、地域密着型の広報紙となっています。

『SOYAMA NOW』の配布は地域の世帯だけでなく、高知県外在住の人を含め左右山地域出身者の人へ郵送しており、今は左右山地域を離れていても、定期的に左右山地域の活動が分かることで、ふるさととのつながりを保ち続けています。



私が登校家の見守りに立つようになったのは、役員委員・児童委員を兼任者から引き継いだ平成十九年秋からです。
地域でどのような活動を担い活動すればよいか分からないまま、南国市民部で児童委員会に所属することになりました。この委員会との出会いをきっかけに、交通安全講演などにも出るようになりました。また、週に五日、七時二十分から

交通安全指導から見えるもの

岡林 康夫

八時五分まで始めて、早三年半になります。
最初は日の出産業園・又路で三浦 左右山 さんと、見守りと指導活動を行っていました。登校時短と通学路が重なっている比下下の横断道の場所が、車も多く危険度が高いところから私がその場所に立つことになりました。
ドライバーのマナー悪いです。ほとんどの車は協力的ですが、明らかにスピード違反の車、エンジンをかかして、子どもを驚がらすかのように、止まる車、前の車が止まっているのに追い越して対向車線を行かせる車など、危険な状態を繰り返して迷惑を覚えています。私はこの頃は車を優先していましたが、最近はずっと定か第一に子どもを優先しています。



紙の読む量は、カバンの荷物の変りにつられて増えながら登校するははえまじい新入生も、やがてランドセルのよく似合う子どもになっていきます。
国府小学校には百一名の在校生がいます。左右山からは、明後十

山内家宝物資料館で「左右山古文書」展示

「地域の記憶」公民館文庫に収められた「左右山村の歴史」と題して五月十日～七月十一日の間、国府でお知らせしごおり展示されています。

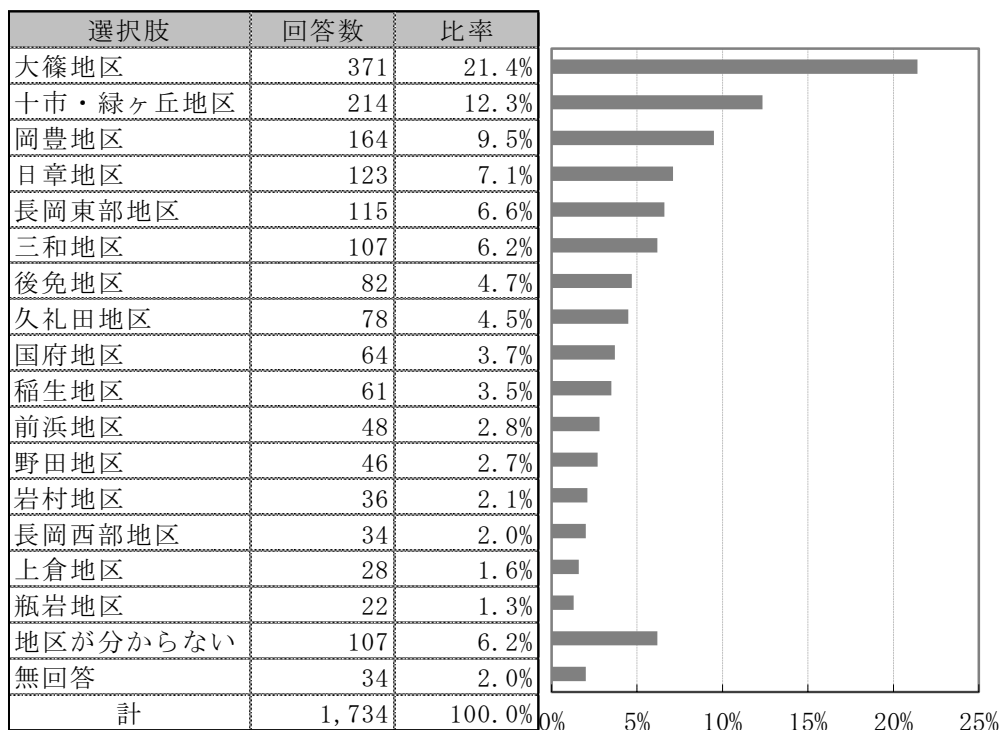
江戸後期から明治の時代まで、左右山の歴史がまっすぐに、機会があればご覧いただけます。



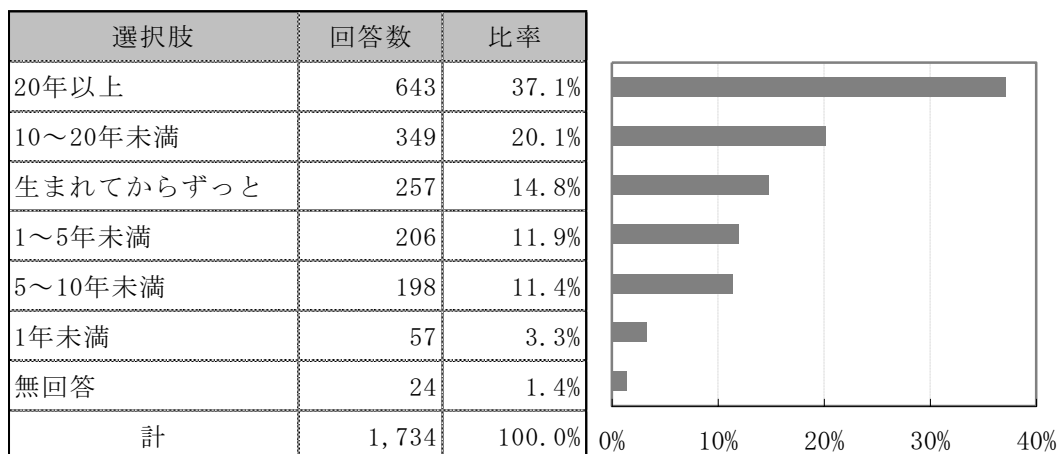
発刊時より道の駅南国（風良里）において、利用者の人への閲覧を実施し、他の地域への情報発信を行っています。

2 市民アンケート調査結果

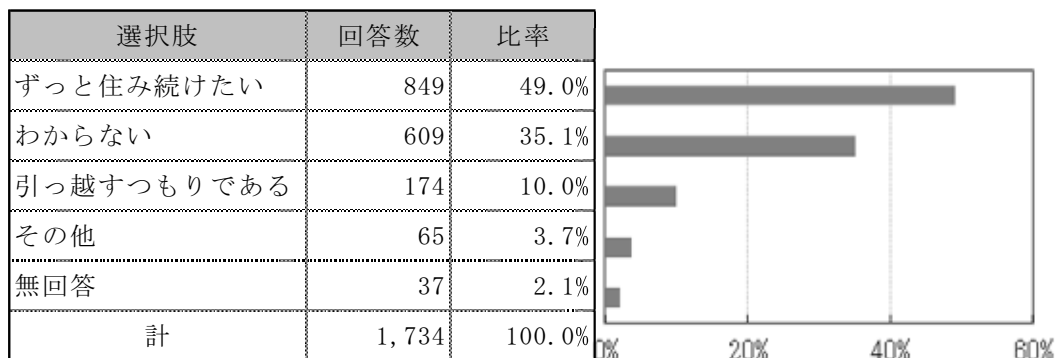
(1) お住まいの地区はどこですか



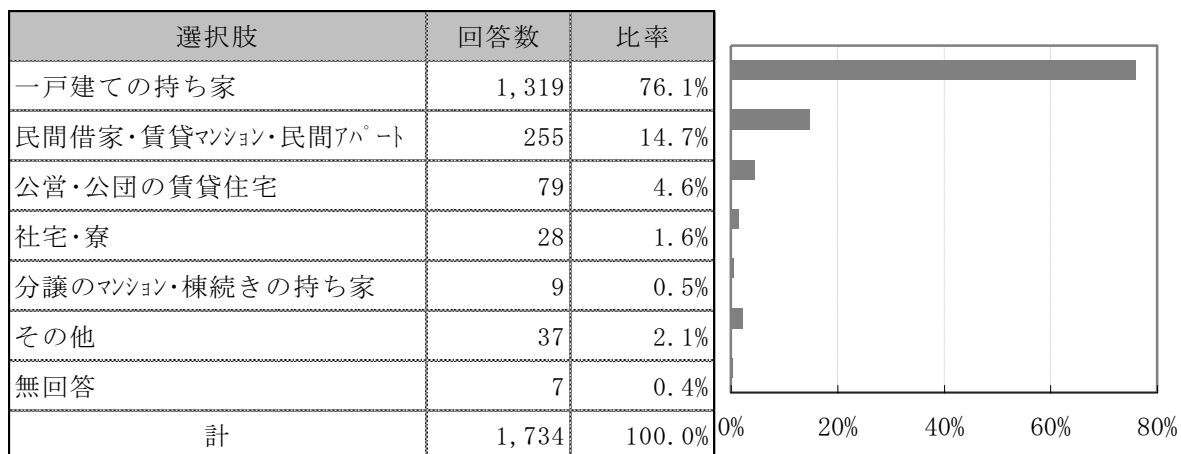
(2) 現在お住まいの地区には、どのくらいの期間お住まいですか。



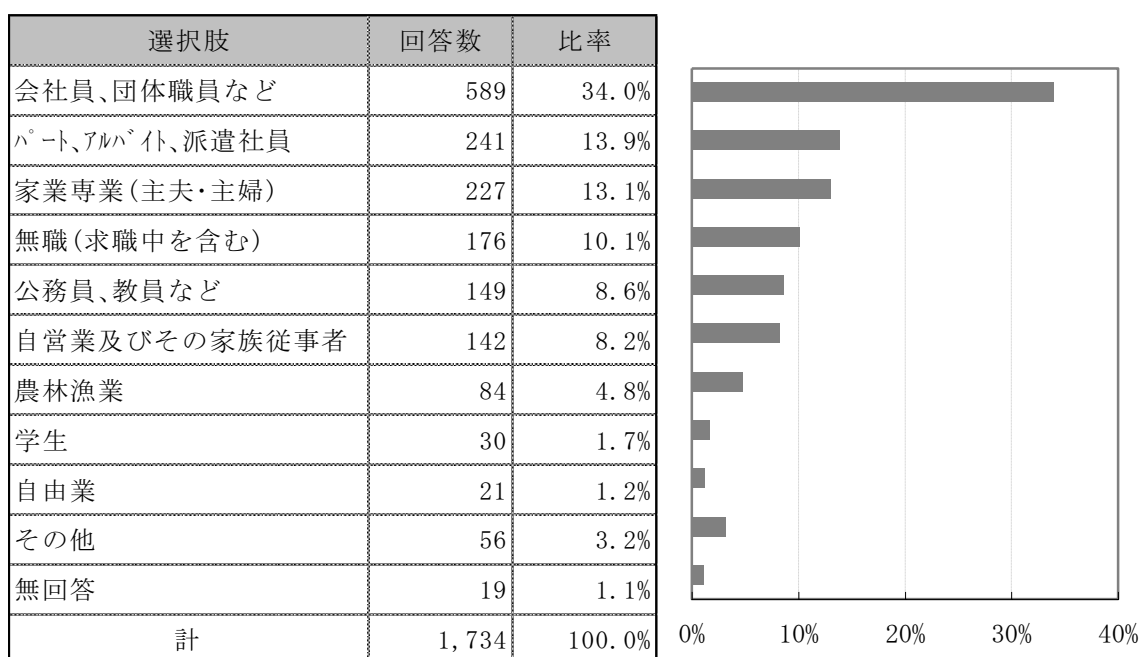
(3) 現在お住まいの地区に、住み続けたいと思いますか。



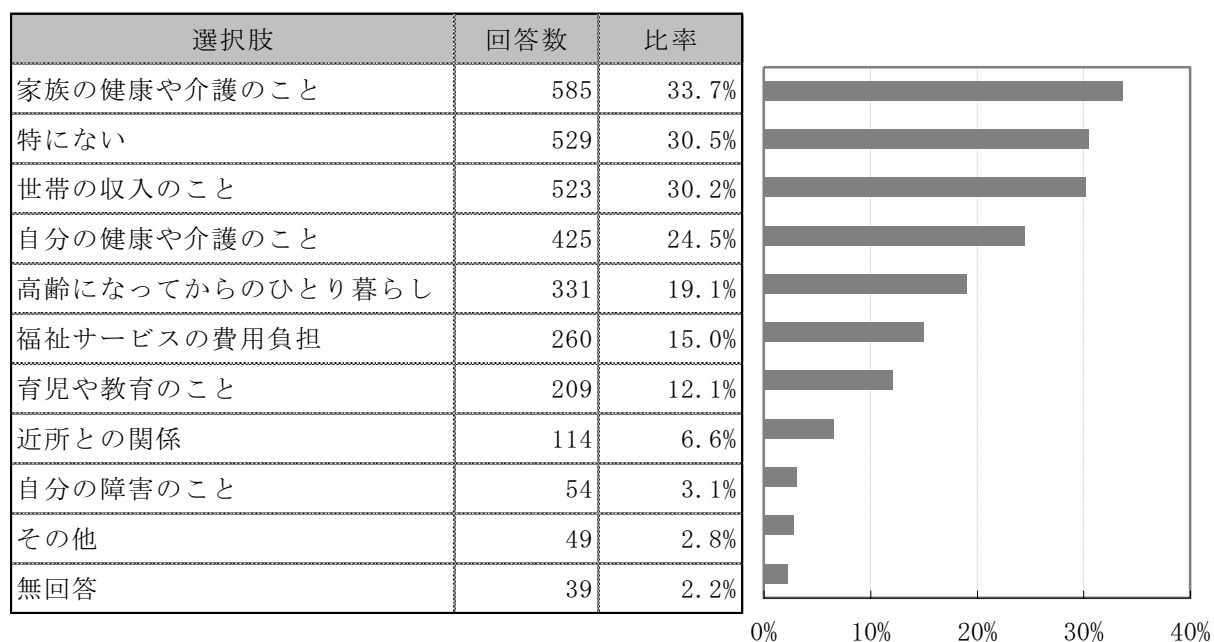
(4) 現在のお住まいは、どれにあてはまりますか。



(5) 主な仕事はどれにあてはまりますか。



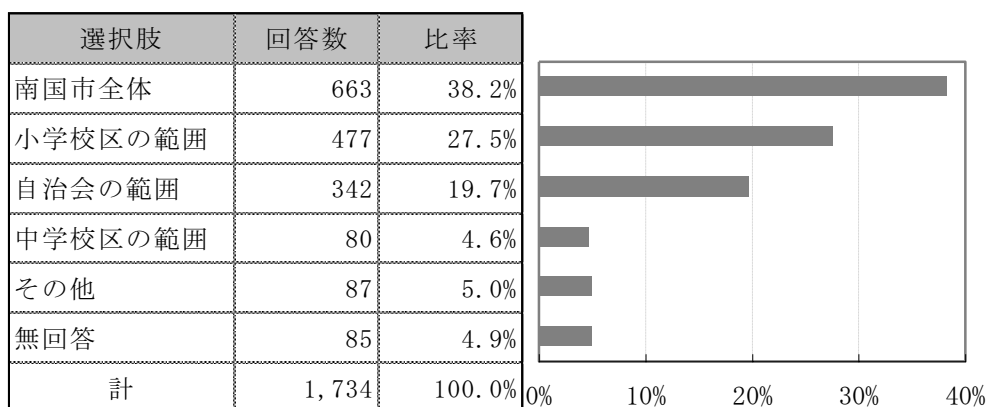
(6) 日頃、くらしや医療・福祉のことで困っていることはありますか。



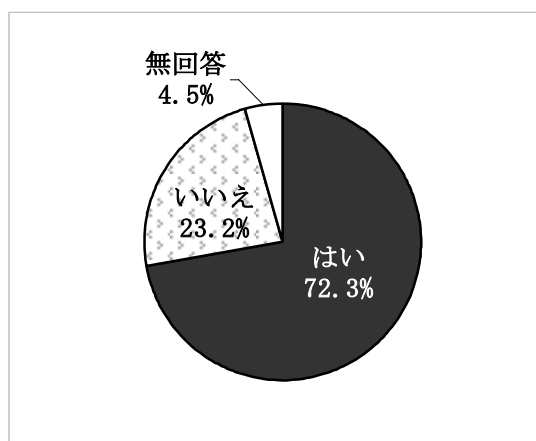
(7) 日頃、くらしや医療・福祉のことで相談する相手はどなたですか。



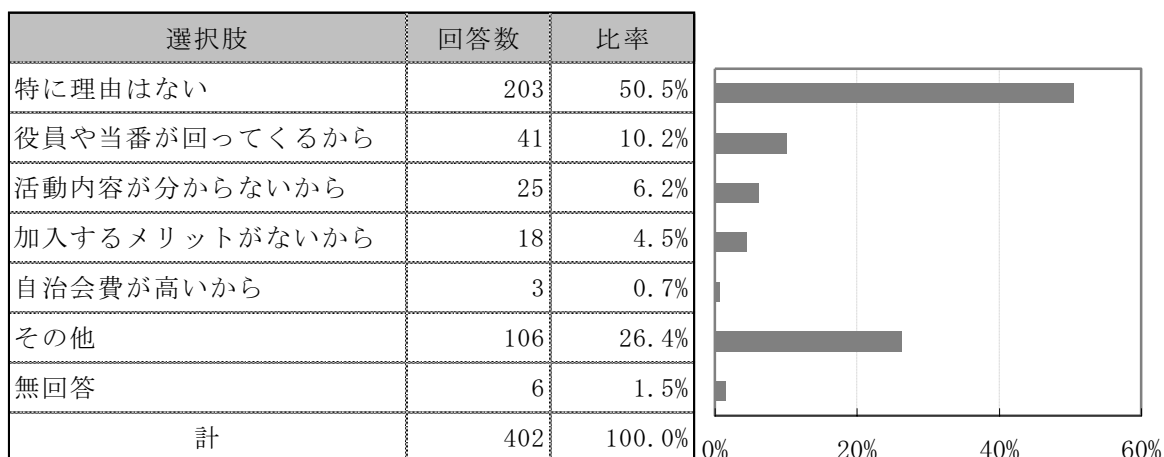
(8) 自分の「まち」と考える範囲はどこまでですか。



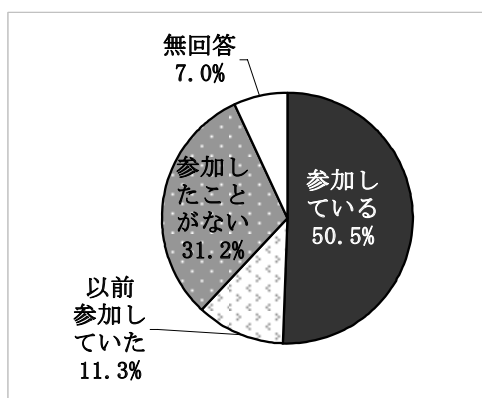
(9) 現在、あなたの世帯は自治会に加入していますか。



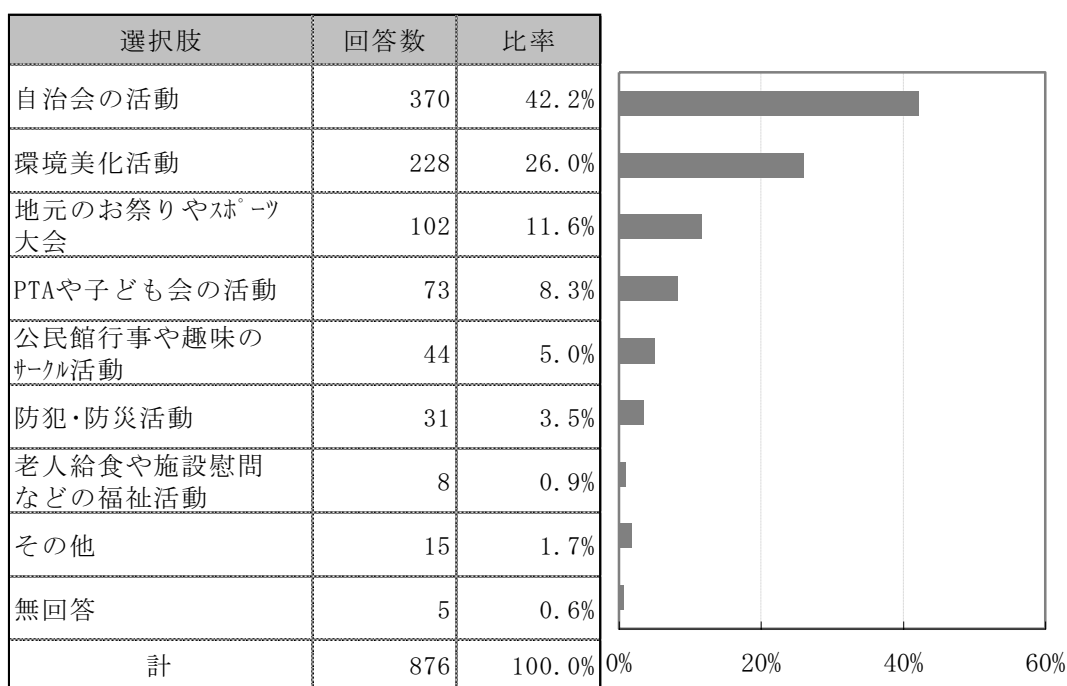
(10) 自治会に加入していない最も大きな理由は何ですか。



(11) あなたは地域組織の活動に参加していますか。

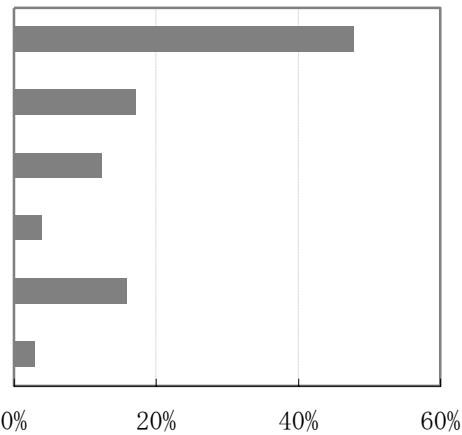


(12) どのような活動に参加していますか。



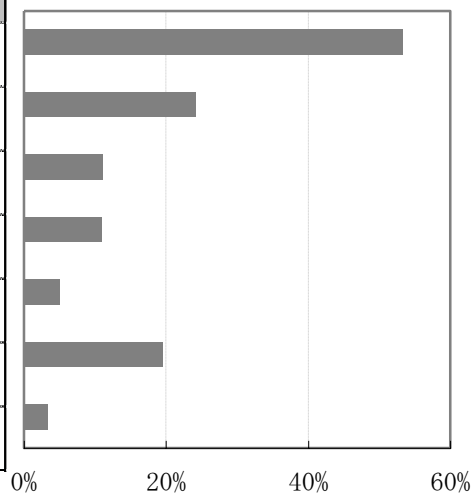
(13) どのような目的で参加していますか。

選択肢	回答数	比率
役回りなので仕方なく	420	47.9%
仲間が増えるから	151	17.2%
自分の能力や技術を地域に役立てたいから	108	12.3%
余暇時間が有効に利用できるから	34	3.9%
その他	138	15.8%
無回答	25	2.9%
計	876	100.0%



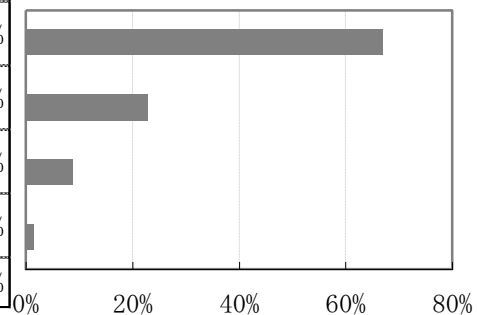
(14) 現在参加していない理由、または参加する上で支障となっていること

選択肢	回答数	比率
仕事や家事に忙しく、時間がない	393	53.3%
興味がないから	178	24.2%
自治会に加入していないから	82	11.1%
参加する方法が分からないから	81	11.0%
引越しをしたから	37	5.0%
その他	144	19.5%
無回答	24	3.3%

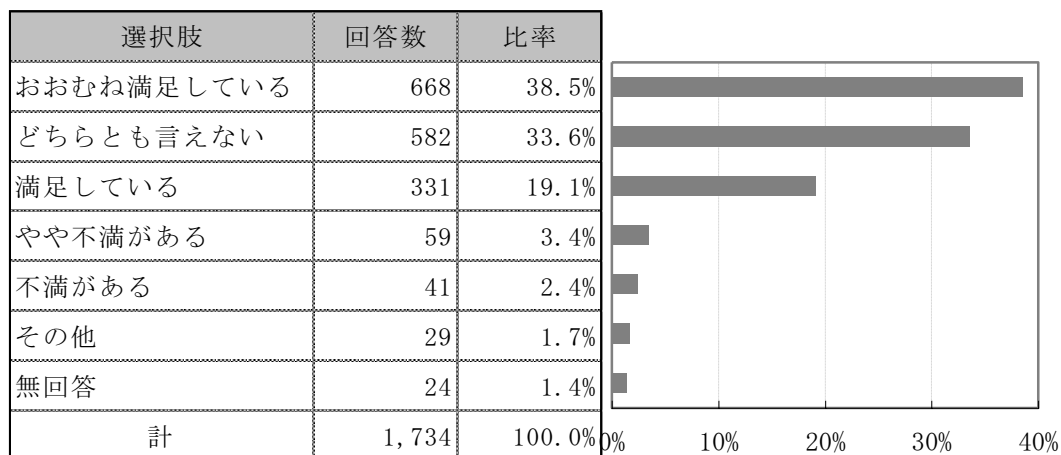


(15) 日頃、どのような近所づきあいをしていますか。

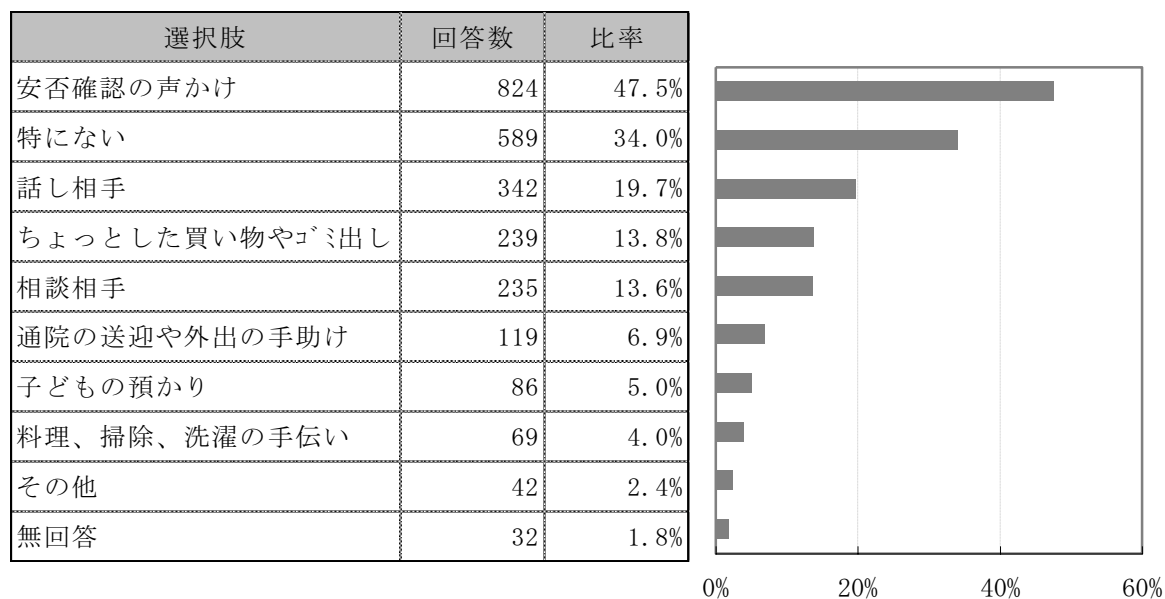
選択肢	回答数	比率
あいさつをする程度	1,160	66.9%
くらしのことで話し合ったり助け合ったりしている	397	22.9%
ほとんど付き合いをしていない	150	8.7%
無回答	27	1.6%
計	1,734	100.0%



(16) 現在の近所づきあいに満足していますか。

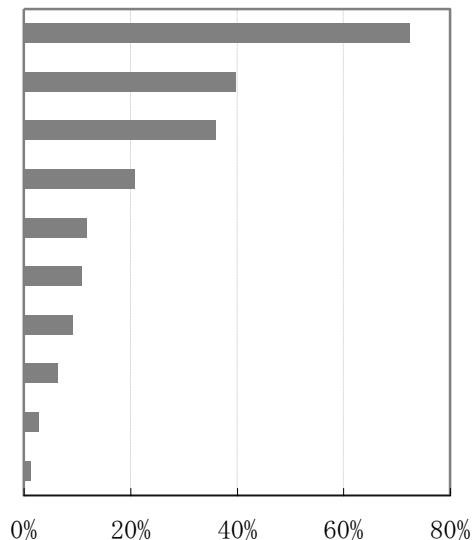


(17) もし日常生活が不自由になった場合、近所の人に手助けしてほしいと思うことは何ですか。



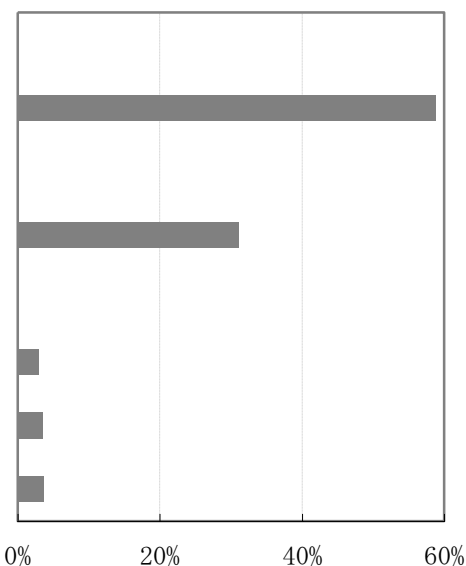
(18) もし近くで困っている世帯があった場合、あなたが手助けを行えることは何ですか。

選択肢	回答数	比率
安否確認の声かけ	1,256	72.4%
話し相手	688	39.7%
ちょっとした買い物やゴミ出し	626	36.1%
相談相手	360	20.8%
特にない	205	11.8%
通院の送迎や外出の手助け	188	10.8%
子どもの預かり	160	9.2%
料理、掃除、洗濯の手伝い	110	6.3%
その他	47	2.7%
無回答	22	1.3%

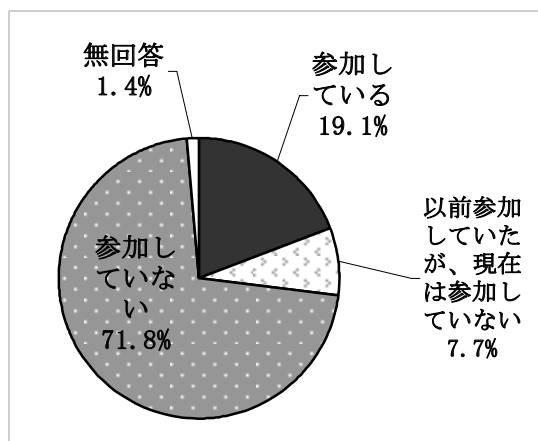


(19) 地域社会のあり方について、あなたの考えに近いものはどれですか。

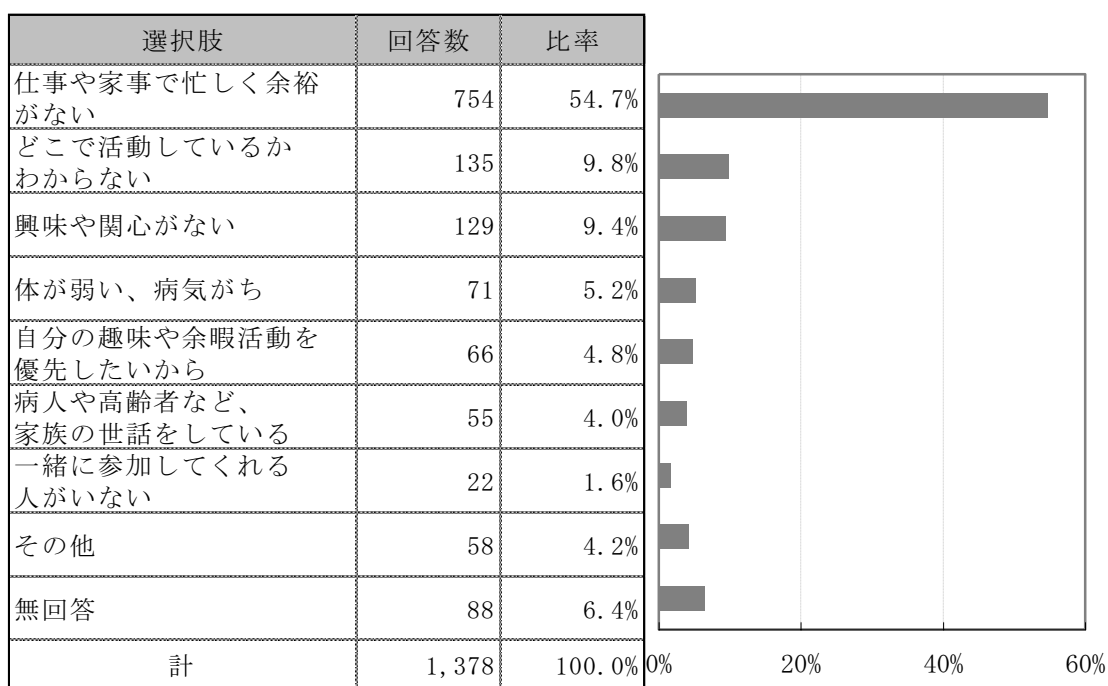
選択肢	回答数	比率
(A) 地域社会は生活の基盤であり、お互いに協力して住みやすくすることは当然であり、行政はそのサポートに徹するべきである	1,020	58.8%
(B) 個人で解決できない生活上の問題は行政の領分であり、地域活動は補助的なものである	538	31.0%
(C) 自分のことは自分で解決できるので、地域で助け合う必要はない	52	3.0%
その他	60	3.5%
無回答	64	3.7%
計	1,734	100.0%



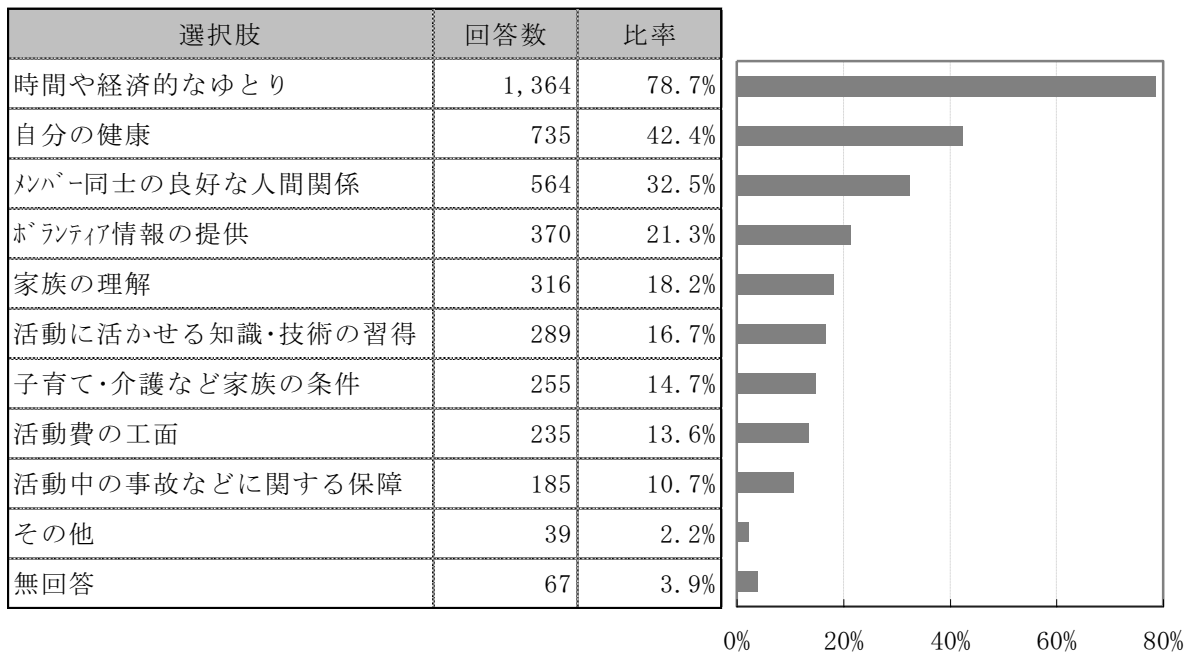
(20) ボランティアなどの地域活動に参加していますか。



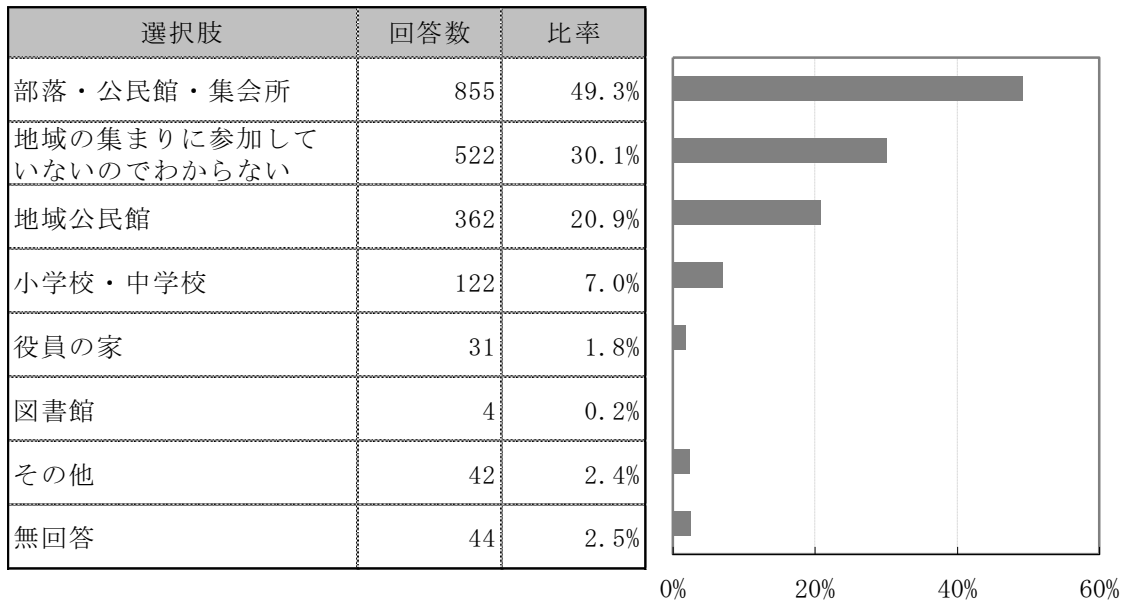
(21) 参加していない理由は何ですか。



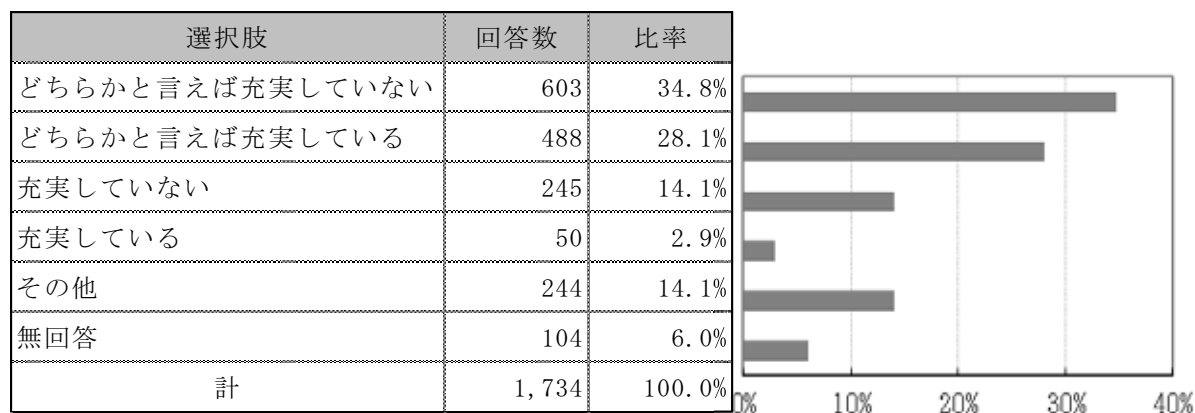
(22) どのような条件が整えば、ボランティア等の地域活動が継続できる、または今後参加ができると思いますか。



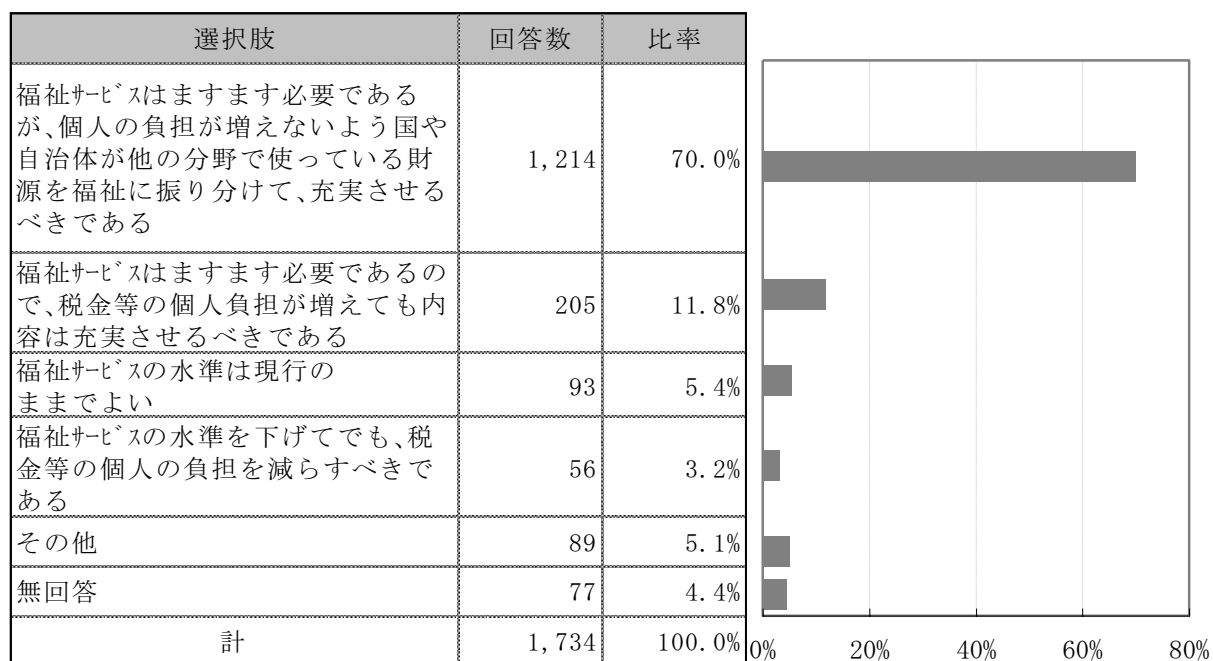
(23) 日頃、地域で集まったり話し合ったりする場所はどこですか。



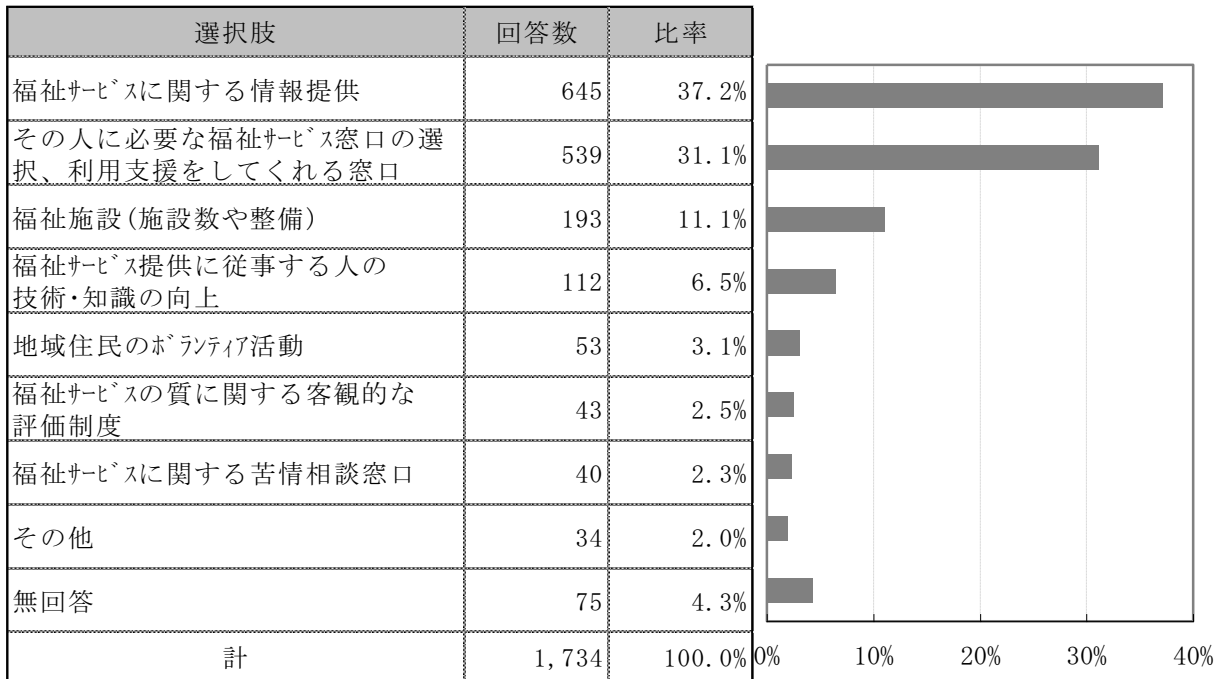
(24) 現在、国、県、市が行っている福祉サービスについて、あなたの考えに近いものはどれですか。



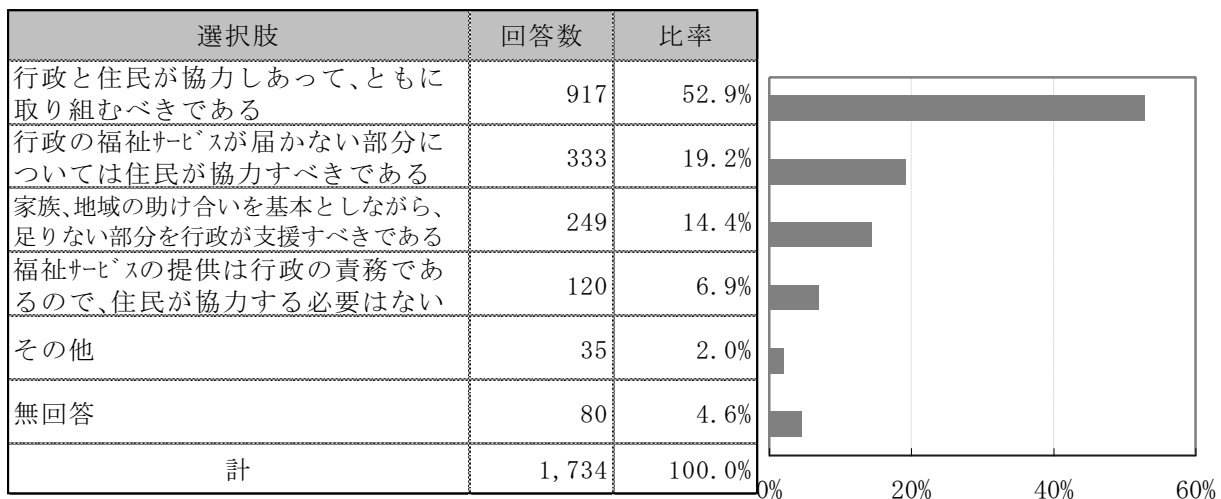
(25) 行政が行う福祉サービスのあり方は、これからどうあるべきだと思いますか。



(26) 援助を必要とする方が、適切に福祉サービスを利用できるようにするために、何を優先させるべきだと思いますか。



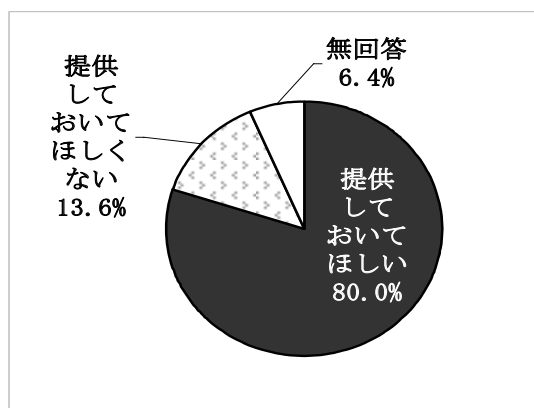
(27) 福祉サービスを充実させていく上で、行政と住民の関係はどうあるべきだと思いますか。



(28) お互いに力を合わせて、安心して暮らせるまちづくり（地域福祉活動）を進める上で、住民が取り組むべきことは何だと思いませんか。

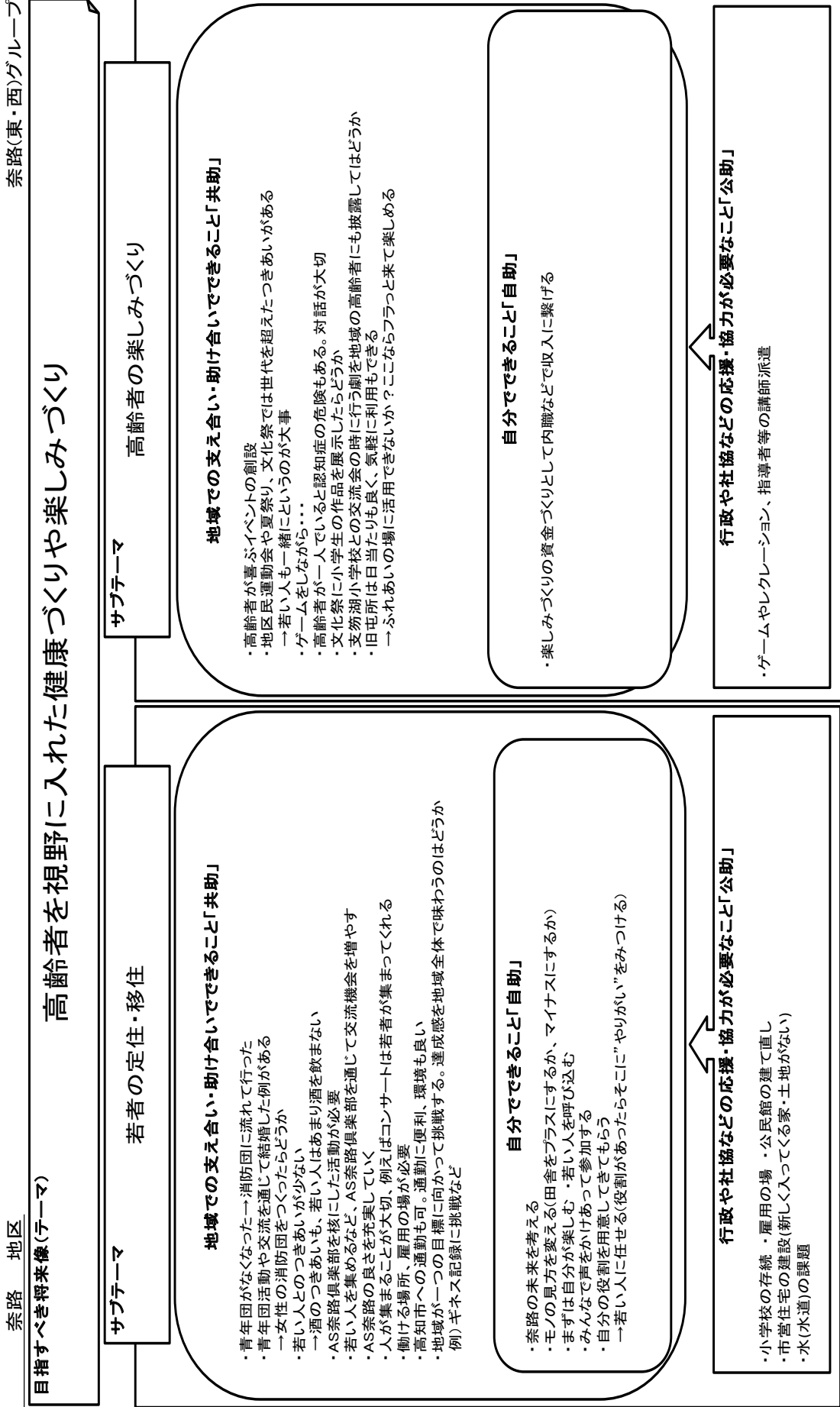
選択肢	回答数	比率
住民相互の日常的な対話や交流を広げる	823	47.5%
自治会が住民の身近な暮らしや、健康・安全・防犯などの問題に取り組む	574	33.1%
高齢者や障害者と子ども・若い人たちとの交流を広げる	528	30.4%
身近な地域で住民の暮らしや福祉について懇談する機会をつくる・増やす	439	25.3%
民生委員とボランティアとの協力・連携を広げる	291	16.8%
地域で取り組まれている活動の交流や意見交換会を開催する	212	12.2%
ボランティア活動・地域福祉活動への参加をもっと増やす	203	11.7%
その他	43	2.5%
特にない	120	6.9%
無回答	107	6.2%
計	1,734	

(29) 災害時や緊急時に迅速な避難支援をするために、事前に市役所が自主防災組織や消防団等へ、あなたもしくは家族の個人情報（年齢や障害の有無等）を提供することについてどのように考えますか。



3 地区支えあいづくり座談会結果

(1) 奈路地区



(2) 白木谷地区

白木谷 地区

1 班

目指すべき将来像(テーマ)

竹のようにはびよう白木谷、八京

サブテーマ

たけのこ四方竹を使った地域外の人との交流

地域での支え合い・助け合いのできること「共助」

- ・グリーンツーリズム→ひとりではなく地域で
- ・国際美術館を活用して、地域外の人にアピールを！（集いの場に）
- ・夢くらぶへの活動協力→放置竹林の整備など(PTAも参加)
- ・親竹の利用(竹ぐし、竹ぼうし)
- ・四方竹収穫体験を続けていく
- ・四方竹等を販売するところを作る（普段から）

自分でできること「自助」

- ・たけのこ祭り、四方竹まつりの参加協力
→学校の生徒の協力(学校と連携)
- ・学校活動に協力する(稲刈りなど)

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・一年を通じて提供できよう加工施設
- ・地元食材を使ったたけのこ料理、農家レストラン
- ・四方竹まつりの日限定のJA系統規制の緩和
→四方竹のネット販売が可能に！？
- ・いのししの食害対策→電気柵

サブテーマ

地域のみんなで学校を守る活動を

地域での支え合い・助け合いのできること「共助」

- ・子どもたちに地域のことを知ってもらう活動(言い伝え)
- ・地域の資源を活かした昔遊びの伝承
(木の実、竹とんぼ、杉の実鉄砲)
- ・敬老会への子どもたちの参加
- ・子どもを中心に保護者、高齢者の3世代交流
- ・夢くらぶの活動発表を子どもたちに
- ・地域行事への先生の参加や地区外保護者の参加
→白木谷のたけのこのおいしさを知ってもらう

自分でできること「自助」

- ・学校⇒地域 案内を通して運動会への参加
- ・卒業式への参加、防災会への参加
- ・学校だよりを気を付けて見る
- ・参加しづらい人への声掛けの工夫→誘い合わせて
- ・特認校利用の保護者と会話する
- ・交通安全の日(毎月20日)の見守り
- ・子どもの登校の見守り(保護者)

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・学校からの呼びかけを工夫して！

白木谷 地区
目指すべき将来像(テーマ)

子どもの声が聞こえる桃源郷

サブテーマ

若者の定住

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・週末ホームステイ
- ・夏祭りなどイベントをいっぱいする
- ・小学校の先生に住んでもらう様、声掛けする
- ・子どもの口コミを増やすようにしたい(田植えとか)

自分でできること「自助」

- ・子どもに声を掛ける⇒我が子！

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・インフラ整備(交通、通信)

サブテーマ

中高年の生きがい

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・サークル(60～70代)→踊り→赤岡の弁天座、山田の八王子で発表
- ・俳句サークル(大人～子ども)学校も取り込む
- ・四方竹の共同加工
- ・休耕田(畑)の復活
- ・借し農園への土地提供(以外と高知市に近い)

自分でできること「自助」

- ・サークル活動のついでに外でPRする
- ・家庭菜園
- ・営農指導

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・インフラ整備(交通、通信)

白木谷 地区
 目指すべき将来像(テーマ)

白木谷地区から出て行きたくなる地区！！

サブテーマ

生きがいづくり(道路整備、交通手段)

地域での支え合い・助け合いのできること「共助」

- ・人が集まるための環境づくり⇒花を植える
- ・移動スペースに地区へ来てもらう
- ・地域生産物を直売所へまとめて持って行く
- ・地域で売れる所を準備して、いい場所をつくる
- ・四方竹、たけのご祭りだけでなく、1回/月の割合でイベントをして、交流の場を設ける(強、花火、釣り、モトクロス、料理教室)

自分でできること「自助」

- ・地域にあるもので地域おこし
- ・アーススペースさわと梅見は今行っている
- ・農家民宿→自ら作った物が売れる→生きがい
- ・四方竹、たけのご祭りを1回/月行う
- ・花見にはわざわざ外部からくる(梅、桜、つつじ)
- ・見る場所の整備

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・空き家、空き地の利用
- ・マイクロスズでよい(1回/週、HP, 買い物)
- ・買利物の代行(サンプラザは要望があれば来てくれる→停車場所必要)
- ・生協の個人宅配もあるが...
- ・各スペースが迎えに来てくれて店舗で買利物できる
- ・PR・広報

サブテーマ

若者が住みたくなくなる地域

地域での支え合い・助け合いのできること「共助」

- ・「白木谷同窓会」を進める→イベントを利用して
- ・15日会に誘う(現在男性のみ、女性も誘ってもらう)
- ・絵馬の復活
- ・大人も子どもも参加できる体力づくり
- ・スポーツ(卓球)を皆で一緒にする
- ・お祭りの際、コミュニケーションを図る
- ・地域おこし→白木谷夢くらぶ

自分でできること「自助」

- ・家を構える
- ・墓を守る意識を植え付ける
- ・祖父母と同居であった
- ・専業農家では生計維持困難→兼業を営む
- ・食物は自らつくる→食費の軽減となる
- ・イベントごとに若者(子ども)に声掛けする

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・放林、竹林の伐採→竹が生えて困っている
- ・竹林への道の整備
- ・古い竹を処分することへの補助(金)
- ・チップ、竹くずの有効利用

(3) 瓶岩地区

瓶岩 地区

1・2 班

目指すべき将来像(テーマ)

年をとっても安心・安全で暮らせるまちづくり

サブテーマ

高齢者を外へ連れ出そう

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・誘いたい人が誘いにくい→求めてこない
- ・独居老人宅にTV電話が付いた?
- ・若者は外へ出ている→足がない
- ・生協で買う→タクシー→片道2千円
- ・高齢者のお買いものツアー
- ・移動スパーパー
- ・たちばな幼稚園との交流
- ・元気、生きがいになるものが欲しい
- ・皆が集まれるものが欲しい
- ・病院のバスに乗るのも、広い場所へ家族が乗せていっている

自分でできること「自助」

- ・いつまでも元気で居続けること

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・交通機関の充実(医療、食糧、金融)
- ・高齢者への家庭訪問→アンケートにも回答できない等困っている人へ
- ・老人の実態把握

サブテーマ

花いっぱいの瓶岩に

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・成合と天行寺で斜面にアジサイを植えている
- ・共同で草刈を行う
- ・役(分担)を決める→外へ出てきて手伝ってくれる
- ・彼岸花、芝桜、才谷公園の梅、公民館の桜
- ・瓶岩ウォーキングマップ→花を見に来てくれる

自分でできること「自助」

- ・鉢、プランターに花を植える

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・花の先生の派遣

目指すべき将来像(テーマ)

Newリーダーによる「地域おこし」でいきいきと暮らせる瓶岩地区

サブテーマ

気軽に集える拠点づくり(避難場所)

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・地区住民で株式会社をつくる
- ・瓶岩、奈路等、広い範囲で考えては？
- ・まとまりにくい地区を宍崎を中心にまとめてみては？
- ・何がするならば今がチャンス！ → まだ元気な者がいる
- ・空き家を借りる → やはり広い所がいい
- ・若い人を雇えるくらい給料を出す
- ・緑竹栽培

自分でできること「自助」

- ・趣味を生かす ・社会参加
- ・「地域に育てられた」という自覚が薄い
→ 「地域のおかげで自分がある」と思っって貢献している
- ・現職の時から地区に関わってもらおう！
- ・若い人の声を聞いてみる

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・役所の退職者を中心となってほしい
→ なかなか中心となる人がいない

サブテーマ

自主防災の強化

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・各部落で支えることが大切
- ・安心、安全が基本
- ・日頃から話し合いをしておく
- ・土砂崩れ、倒壊の危険
- ・防災訓練 → 若い人も来た
- ・若い人にも参加してもらい防災意識を高める

自分でできること「自助」

- ・日頃から危険な物を置かない等気を付ける
- ・3日分くらいは備蓄しておく
- ・各家族ごとに防災について話し合いをしておく！
→ ひいては地域のまとまりもできてくるのでは！
- ・自分の命は自を守る

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・各部落に一時避難所作りの支援を
- ・防災無線の整備
- ・瓶岩公民館は進入路が少ない

(4) 久礼田地区

地区 久礼田

グループ 1 緑石 植野

テーマ 若い人が「住んで良かった」と思える地域づくり

サブテーマ

若い人が望んでいること！

地区での支え合い・助け合いでできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人でできること

- ・若い人となじみの関係を作る
- ・個人情報や地域でどう考えるか
- ・御石の地域にお知らせする（公園）
- ・子ども会へ協力（カレー作りなど）
- ・子どもの顔がよくわかるようにする
- ・児童公園を通して地域のつながりを考える
- ・地区民運動会へ参加を促す
- ・若い人との会話は難しい
- ・地区外から転入した方へのアプローチ
- ・自治会へ参加していない人が多い
- ・委員会の中に子ども会を入れたら？

・自治会の中で、子ども会で話し合える場

・若い人だけの座談会を実施（3回くらい）してもらい、意見を知る

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

サブテーマ

共有！

地区での支え合い・助け合いでできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人でできること

- ・地域の良い所をアピール
- ・地域を売り出す（マップ作り）
- ・ウォーキンググループを作る
- ・景色・環境が良い
- ・集落でお花見とかやってみる？
- ・子どもと一緒に参加できるヨゴガ
- ・虫のすまじ地域（自然がきれいな）
- ・芸能大会への参加 保育を巻き込む
- ・地域の若い人に本音を聞く
- ・自然保護（川）
- ・虫を守る会がある

・社協の声がけで、若い世代も巻き込んだイベントを実施してもらいたい

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

地区 久礼田

グループ 2 久礼田東

テーマ 多世代で地域おこし(交流)

サブテーマ

多世代で交流

地区での支え合い・助け合いでできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人でできること

- ・ 隣近所の人と物々交換（おすそ分け）
- ・ 子どもを知る（親しくなる）
- ・ 子どもが田畑で遊ぶのを温かく見守る
- ・ 子どもの遊びの伝達
- ・ 登下校時の児童・生徒への声かけ（挨拶）
- ・ 小学生の頃から交流をする（なついてもらう）
- ・ 公民館活動
- ・ ウォーキング大会を執行する

- ・ 地域のもるもろの行事への積極的参加
- ・ 共同作業に出たときに積極的に挨拶・話し合い
- ・ 大人になつた時に戻るようになしなればいば
- ・ 昔遊び

- ・ 講師の派遣
- ・ アンケート収集

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

サブテーマ

地域の活性化

地区での支え合い・助け合いでできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人でできること

- ・ 諸行事に家族で参加し、知らない人とも挨拶・交流（話し合い）
- ・ 草刈り等の作業
- ・ 地区民運動会の昼食・親睦会を家族単位から⇒集落単位に

- ・ 夏祭り・地区民運動会は続ける
- ・ 若い者に来てもらわなければ
- ・ 世話役を作らなければ
- ・ 子ども会の行事、少なくなつてしまつた

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

地区 久礼田 グループ 3 久礼田西 テーマ 長宗我部時代の歴史が多く残る久礼田に「住んでみたい、住みたい」魅力ある地域づくり

サブテーマ

伝統を引き継いで、その魅力を子ども達に伝えていく

地区での支え合い・助け合いでできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人でできること

- ・子ども高齢に立ち向かう
- ・住みやすい久礼田を
- ・地域から発信

- ・子どもと一緒に楽しみたい
- ・久礼田の良いところを伝えたい
- ・のど自慢
- ・皆で地域づくり
- ・色んなことを伝えるために

- ・すぐ家を建てられない
- ・都市計画について→調整区域
- ・住人を増やす
- ・地区計画を起す

- ・岡豊山の歴史を広める
- ・ウォーキングコースを作る
- ・岡豊・国府・久礼田 連携する
- ・地域の取り組みを吸い上げてもらいたい

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

サブテーマ

地域コミュニティを守る

地区での支え合い・助け合いでできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人でできること

- ・一番小さなコミュニティの単位 常会に加入する
- ・常会組織を絶やさない
- ・近所付き合い
- ・ゴミ捨てなどの手助け
- ・行事に参加する
- ・協同の作業に参加する
- ・家族構成などが分かる
- ・権利だけでなく義務も果たす
- ・自分だけでなく、周りのことも考える

- ・常会同士のつながり
- ・運動会（7・4回） 回覧
- ・同居者への見守り→助け合い
- ・見守り・防災→所在の確認をしあう

- ・志留組
- ・冠婚葬祭
- ・病氣見舞い

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

地区 久礼田 グループ 4 植田

テーマ サブテーマ 笑顔で暮らせる地域づくり

サブテーマ

地域のつながいを強めよう

地区での支え合い・助け合いでできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人でできること

- ・イベントがきっかけで仲良くなる
- ・みんなが参加可能
- ・イベント参加しよう
- ・子どもを取り込む
- ・団地の人は植田の部落へ溶け込んでいない
- ・仲間をつくりたい、(団地の人は)
- ・団地の中では保護者同士で仲良く遣ろうとしている

- ・秋祭りは一番人が集まる 続けることが大事
- ・地震が会ったことでつながりが大事だと分かった
- ・周りの人と仲良くやっていないと、災害時不安になる
- ・避難所へ行って、一人ではさみしい

- ・若い人をこの会へ呼んでもらえたら……仲良くなるかも
- ・敬老会の名簿ください (地区と名前だけでいい)

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

サブテーマ

体と心の健康

地区での支え合い・助け合いでできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人でできること

- ・わかガエる体操
- ・積極的な気持ちを持つ
- ・相談相手が欲しい
- ・出て来ていない人が心配

- ・役に立つ何かが欲しい
- ・子どもと一緒にお散歩会

- ・困った事があたら相談してほしい (遠慮、恥、みつともない) →抱え込んだら大変
- ・啓発・広報

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

(5) 国府地区

国府 地区

1 班

目指すべき将来像(テーマ)

3世代の活動(史跡を中心に)

サブテーマ

地区ごとの連携(左右山・比江・国府)

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・左右山地区活動→子ども⇄大人との交流(広報)
- ・左右山を良くする会→ボランティア活動(缶、ゴミ拾い)
- ・安全パトロール→子どもの見守り
- ・消防、社協、日赤、公民館→AED救急訓練
- ・防災訓練を合同で行う→道の駅で(以前提案があった)
- ・独居(見守り)→配食(社協、民協)
- ・自分の組織だけでなく他の組織とも連携していく
- ・他の組織の活動を知る・公民館活動での連携
- ・活動したことを発表できる場を設ける
- ・小学校の活動を中心に3世代の連携
- ・地域の中に消防後援会を募った(ら)防災全体を考える
- ・防災の知識を考える場づくり
- ・文化祭の為の展示をした(人材はたくさんいるが・・・)

自分でできること「自助」

- ・地区会員になっただけでも、回覧を回す→知ってもらおう
- ・地区の支え合いづくりのため若い住民に知ってもらおう→入会(地区)
- ・会の度に声をかける・新しい仲間を増やす努力

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・公民館新聞「国府新聞」を出すための補助
- ・ボランティアで運営しているところにごそ補助を

サブテーマ

3世代の活動

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・小学校が核→郷里を思う気持ちを養う
- ・国府地区への”思い入れ”の種をまく
- ・県外へ出て国府を思い出す種をまいている(俳句等)
- ・交流することでのメリット→県外人が迎えてくれる(訪問先の小学校舎)
- ・俳句の指導→史跡で俳句をつくる(小学生)
- ・血縁料理→収穫した米を利用して
- ・経験で得たことを伝える→後輩へ・配食(メッセージ付)→交流
- ・「敬老会」3世代交流(保育・住民・高齢者)
- ・芝刈りなどを通じて地区(住民)との交流
- ・小学校「冬の陣」→餅つきなど3世代交流
- ・滋賀県との交流→公民館、保存会、社協、行政の連携

自分でできること「自助」

- ・和つくる→地区外へ行かないように(若い人たち)
- ・子ども会が大人と一緒にゴミ拾い→焼き芋などで苦勞を分かち合う
- ・子どもたちを巻き込んで→今後とも意識して発信!
- ・学校の行事等の声掛けに必ず参加
- ・何事も発信していく・あいさつをする(小・中・高)

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・「広報」の取材→社協・行政それぞれの担当が連携して取材してほしい
- ・大きな行事に対する人的派遣をしてほしい

(6) 岡豊地区

岡豊 地区

1 班

目指すべき将来像(テーマ)

次の世代を育み、若者が結婚して子どもをつくる岡豊地区 地域みんなで多世代交流

サブテーマ

次世代の若者を岡豊に定着させる環境づくり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・地域のマップ(言い伝えとか)
- ・地域のお宝マップの作成
- ・老人が頑張っている⇒ちよっと方向を変えて若者に伝承する

自分でできること「自助」

- ・郷土愛の教育をする
- ・歴史を伝承(マップ、看板)

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・不動産の流動性を高める
- ・農地の転用しやすく!
- ・調整区域の見直し
- ・結婚相談所
- ・青年の船のような取り組みの復活
- ・区長制度のルール化を(定年とか...)

サブテーマ

若者を主役にあげる

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・若者主役のイベント(岡豊地区としてよさこい祭に参加する)
- ・若者のやりたい事のきっかけがない
- ・若者のやりたいことへのきっかけづくり(情報提供)
- ・若者の企画、協議会(次の岡豊を考える会)の立ち上げの環境づくり
- ・スポーツ大会、文化祭
- ・会合の出席への定年制

自分でできること「自助」

- ・否定しない
- ・同級生同士で声掛けする
- ・強い思い、人、責任
- ⇒絵に描いた餅ではダメ
- ⇒無責任にたきつけない
- ⇒若者が計画、実行しベテランがフォローアップする

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・ボランティア制度のPR(社協)

岡豊 地区
目指すべき将来像(テーマ)

歴史と文化のかおる街

サブテーマ

お年寄りから子どもまで地域に出てきやすい岡豊地区

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・お手伝いの必要な人は⇒日頃の付き合いが重要
- ・日頃から積極的な交流を図る
- ・会の名前を変える(例えば「老人会」)
- ・気軽に来れるような会の雰囲気づくり
- ・居残り教室など学校を地区の交流の場を利用する
- ・学校、保育所など、子どもがいる所を中心とした交流の場をつくる

自分でできること「自助」

- ・できる人は、自分のことは自分で
- ・まず自分が参加する
- ・気楽に来れるような声掛け
- ・老人クラブのお知らせを一軒一軒伝える
- ・世話役さんに協力する

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・保育所民営化を機に、地区集まりの場を設ける
- ・空き教室を交流の場、ふれあいの場に活用する

サブテーマ

岡豊山を中心とした地域外の人との交流を目指す

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・続けていくことで、他の人にも知ってもらおう
- ・さくらまつり、食-1グランプリを続ける
- ・夏祭りを続ける
- ・国分川をきれいにする会の活動
- ・土手周辺の活用及び活用後の管理(桜の木を植えるなど)
- ・苜の川、川の花を愛する会の活動⇒地域交流になっている
- ・若い人をイベントリーダーとして育てる
- ・八幡様のお祭りで3地域のつながりを続ける
- ・イベントを続けていくことで地域内外への周知を目指す
- ・歴史民俗資料館を活用したイベント
- ・高知医大との交流を続ける
- ・花の管理、維持を続け、地域外の人をもてなす

自分でできること「自助」

- ・花の手入れのボランティアの広がり
- ・地域の美化活動に参加する
- ・イベントのお手伝い(準備、清掃)
- ・口コミでイベントを周知する(声掛け)

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・地区内に史跡などの案内板の設置
- ・県外客をおもてなしの心で迎えてほしい(警察)
- ・イベントに来た県外客を対象とした警察のネズミ取りが厳しく、県外客に悪いイメージができる

目指すべき将来像(テーマ)

人が集まる、人口を増やす取り組み

サブテーマ

子どもからお年寄りまで集える場所づくり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・【共通】防災訓練⇒集まった時にレクリエーションを
- ・みんなが参加できるスポーツ
- ・地区でのお祭り
- ・絵馬づくり(子ども、老人クラブ)
- ・子ども、若者、高齢者との親睦
- ・夏祭り

自分でできること「自助」

- ・特技と趣味を若い人に伝える
- ・防空頭巾づくり
- ・ちようちんづくり

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・建物の整備(防災)
- ・マイクロバス提供
- ・都市計画見直し

サブテーマ

継続的なイベント

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・【共通】防災訓練⇒集まった時にレクリエーションを
- ・炊き出し
- ・運動の後の宴会
- ・花見を兼ねたイベント
- ・子ども会と老人クラブ(いきいき)と一緒に
- ・準備に手間のかからない催し
- ・文化祭+産直市
- ・ウォーキングの後に団子で
- ・季節ごとのイベント
- ・お月見でお話をする(子どもにも)

自分でできること「自助」

- ・集まってこれるよう啓発、工夫
- ・後継者(サキヤリ)をつくる

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・一緒に考える
- ・各種イベントへのバックアップ

岡豊 地区
目指すべき将来像(テーマ)

多世代で岡豊地区を守る

サブテーマ

向こう三軒両隣

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・共に助け合う心がけ
- ・1人で生活している人には気を付ける
- ・具合の悪い人がいれば様子を見に行ってみる
- ・若い人を育てる
- ・生活情報の共有（非常時等）
- ・古き佳き日本の心を思い出す時間を作る
- ・若い人が特に部落の活動へ参加しない
- ・土産のやりとり（農産物を含む）
- ・会合により地区の文化を伝える
- ・戦前、戦中の日本人の習慣、風習を思い出す

自分でできること「自助」

- ・隣近所の人達とコミュニケーションを持つ
- ・都会に出て行って子に帰省時、隣にあいさつに行かす
- ・積極的にあいさつ、声掛け
- ・地域の催物に出かける
- ・地域の行事への参加を通じて人を知る

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・行政関係者は地域へ出て！！

サブテーマ

地域で子どもを育てる

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・子どものイベントに地域の方も参加する
- ・子ども会の活性化
- ・地域で学校の先生の話を聞いてみる
- ・地域のイベント開催
- ・ラジオ体操
- ・子ども会への助成
- ・青年部の活動の活性化
- ・一斉清掃への参加
- ・子ども会の育成、強化

自分でできること「自助」

- ・声掛け(あいさつ)
- ・言葉の交流
- ・下校時刻に通路の散歩
- ・子どもたちに注意できる大人になりたい

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

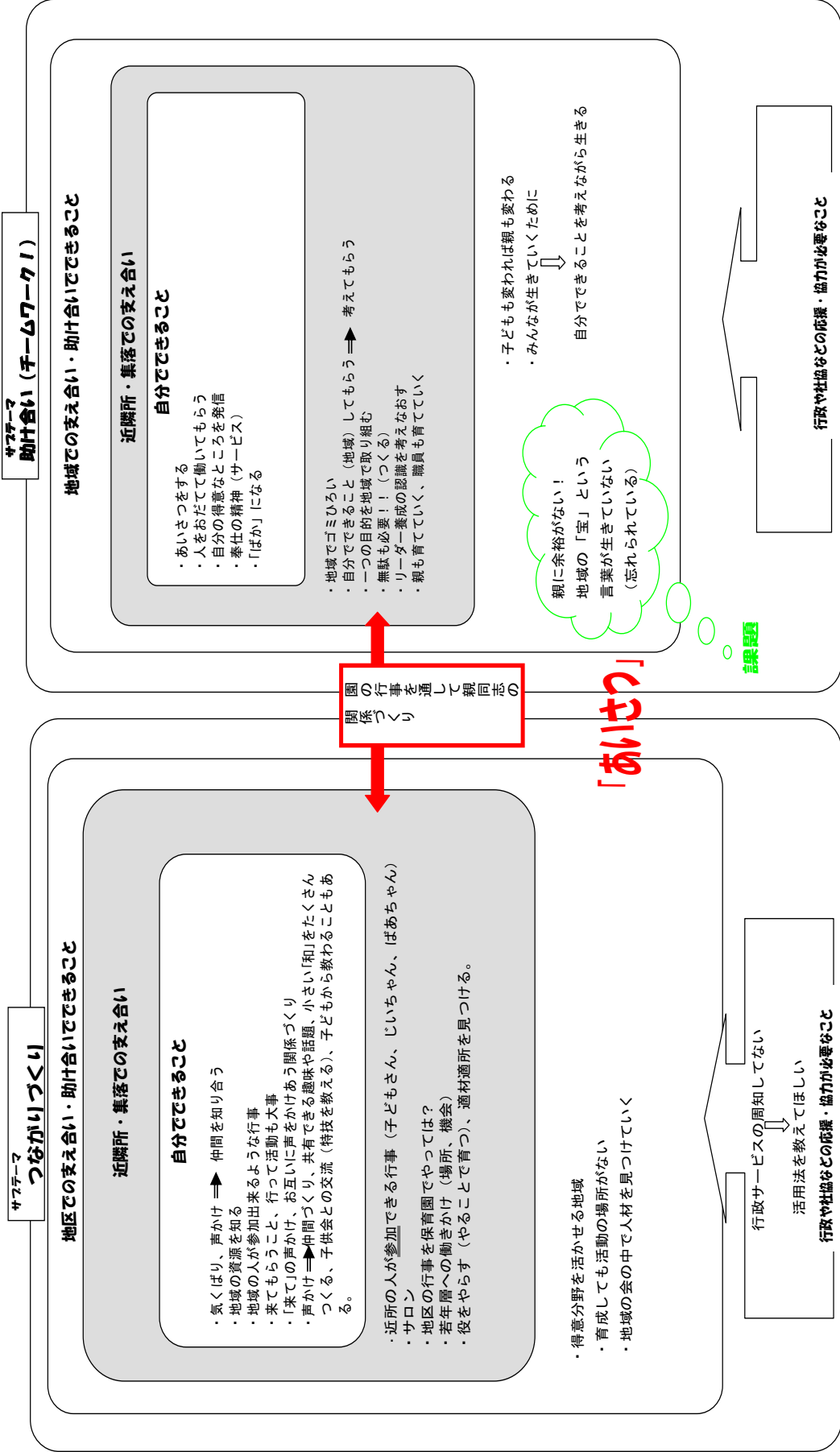
- ・行政関係者は地域へ出て！！
- ・群（ムラ）活動の育成を図る

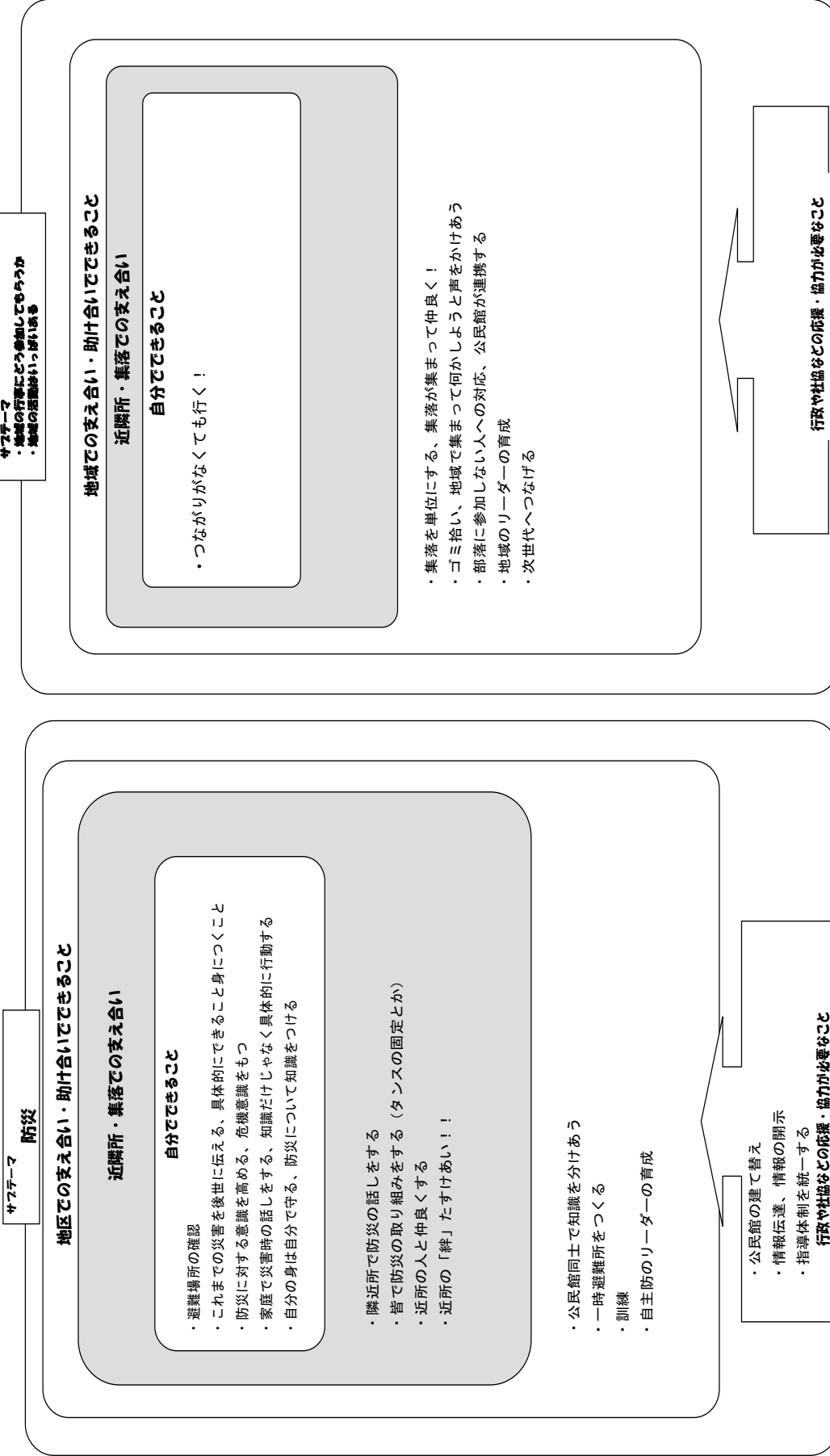
(7) 長岡東部地区

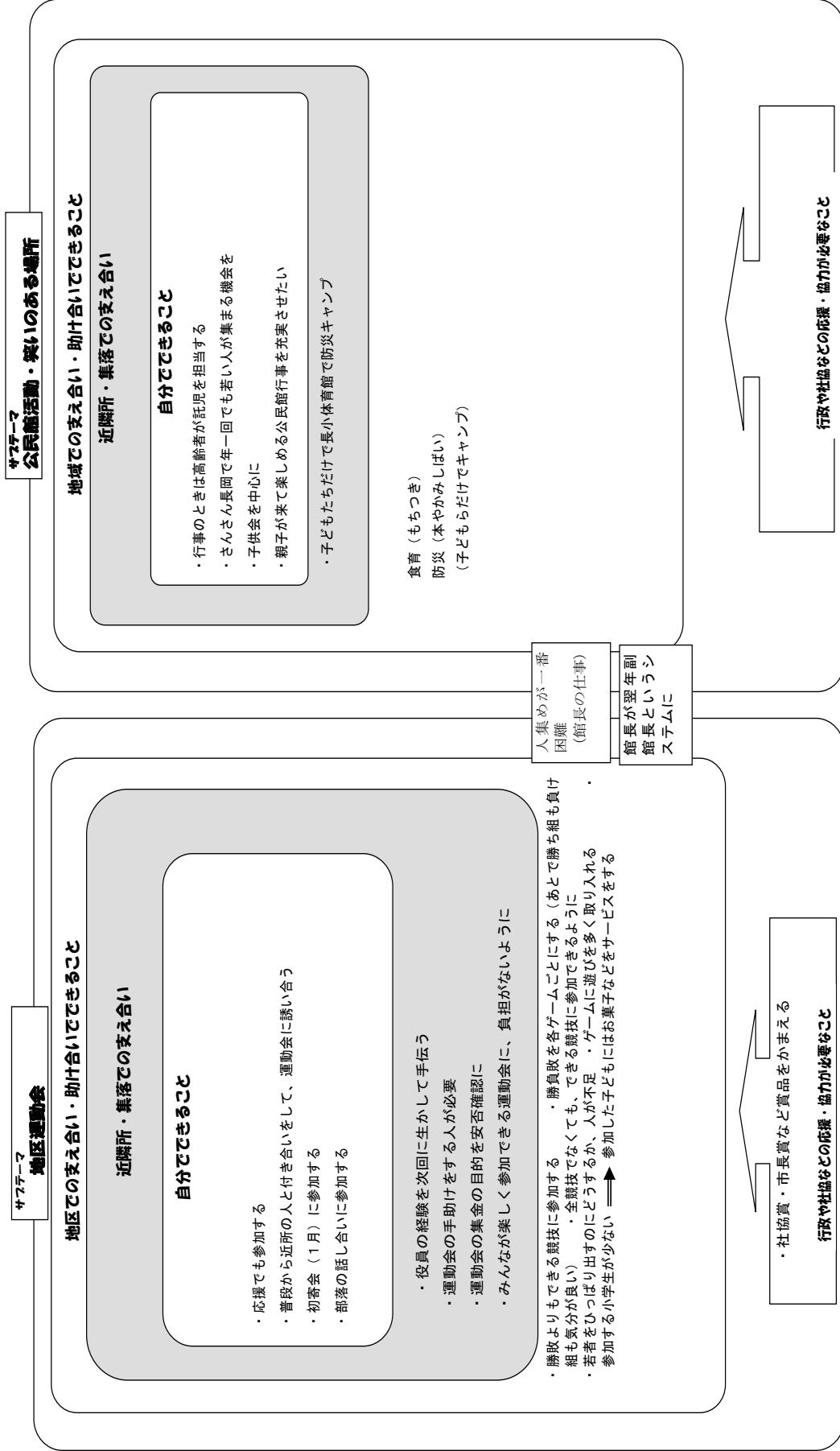
長岡東部地区

グループ ①

テーマ リーダーの育成







(8) 長岡西部地区

長岡西部 地区

1 班

目指すべき将来像(テーマ)

孤立させない！ 高齢者・保護者・子ども

サブテーマ

高齢者を孤立させない

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・音楽会を続けること
- ・文化づくり
- ・まずは防災などで声掛けを始める
- ・アパートの人は地域活動に参加しない
- ・孤独死するのは男性が多い
- ・老人クラブを活性化したいが申請等、手続きがめんどうかい

自分でできること「自助」

- ・出掛ける時は隣に声を掛ける
- ・高齢者の把握はできている
- ・声掛け、電話
- ・新聞、ヤクルト、牛乳などを確認する
- ・公民館、集会所へ集う声掛け
- ・自分から率先して参加する

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・縫製工場の再活性
- ・原住、アパート単位の自治会をつくってほしい
- ・高齢者が楽しめる場所をつくってほしい
- ・歩道の段差をなくしてほしい
- ・公民館、集会所へのテレビの設置をしてほしい

サブテーマ

子どもの見守りを通して親世代を仲間に入れる

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・30～40代に地域活動へ入ってもらいたい！
- ・子どもを活動に引き込む→親世代を活動に引き込みたい！
- ・子どもを見守る
- ・中学生のあいざつが気持ちいい
- ・親世代のサークルを知る、作ってもらおう
- ・学校との連携を図る

自分でできること「自助」

- ・あけぼの街道開通により交通量が増えた
→安全対策を、自ら気を付ける、黄色の旗を使う
- ・あいざつを続ける
- ・夏休みには見回り隊を結成していた
- ・見守り隊⇒地域の人々(高齢者)がパトロールする

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・パトカーが見守ってくれる

目指すべき将来像(テーマ)

孤立させない！高齢者・保護者・子ども

サブテーマ
防災対策で地域の活性化を

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・地道な声掛け
- ・防災会→防災面からコミュニケーションのきっかけ⇒地域結束
- ・コミュニケーションには個人情報壁に・・・。

自分でできること「自助」

- ・どこへでも出かけている⇒情報の発信
- ・声を掛けあう
- ・地域の若い人の把握

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・お金を出してほしい

サブテーマ
保育所を中心にコミュニケーション

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・保育所の「ゆとりの部屋」を使って→高齢者の集い、子どもの関わり
- ・「ゆとりの部屋」に高齢者を呼んで子どもとのコミュニケーション
→草引き、大工仕事、草履づくり等を子ども会に伝承
- ・保育園→散歩に出て高齢者への声掛け
- ・保護者の広がり→南戸のソフトボール大会→飲みみにケーションで
- ・連携には保護者の参加が必要
- ・活動を披露する催しの開催
- ・保育所で保護者同士のつながりを手助けする

自分でできること「自助」

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・子育て支援→行政への相談
- ・市民館たより→広報
- ・話を聞くところから

(9) 野田地区

野田 地区

1 班(2回目)

目指すべき将来像(テーマ)

魅力ある活動を通じて「子ども～大人～高齢者」仲の良い上下西野田地区（若い！若い！野田）

サブテーマ

防災について考える

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・集中豪雨、地震対策などを考えて話し合う交流会をする
- ・小、中、幼稚園を集めて防災訓練を行う
- ・独居老人を把握して世話を決めておく
- ・班内のコミュニケーションをとる
- ・地域での飲み会、交流会に集まり顔を覚える
- ・西野田はアパートが多く、人の出入りが多いため覚えづらい
→不幸があれば一人100円集める等で覚えていく
- ・幼稚園等などの子どもさんへの手助けチームを地域で決める
- ・防災について聞く会の実施
- ・逃げる際、車でどう逃げるかマップをつくる(何度も確認)

自分でできること「自助」

- ・家で避難ルートを決める
- ・非常食を構える(水・乾パン・薬・電燈)
→玄関に備蓄品を、靴はベットや枕元に
- ・津波は上流からくることも考慮し幾つか決めておく
- ・家具の固定
- ・お風呂の水を置いておく
- ・普段から防災についての意識づけや指導を行う

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・避難場所や交差点の標高が知りたい
→標高をもとに避難ルートをつくる

サブテーマ

魅力ある地域づくり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・若い人の参加
- ・運動会の声掛け→種目も若者向きに変更
- ・地域あつての市役所であるのでOBの人らの協力をお願いしたい

自分でできること「自助」

- ・市や社協のOBに参加の声掛けをする
- ・役所の人が交代すること
- ・PTAの中で地域福祉交流担当をつくる
- ・PTAを活動に巻き込む
- ・なんとしても若い人たちに今日のような会に出てもらおう

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・投票率のUP！を目指す(若い人の投票)
- ・農地の転用がしやすいように
- ・保育園の定員を増やしてほしい
- ・野田保育園は野田の住民を入所させ若い人の定着を目指す
- ・日が決まっていれば病院、通院時の近所のサポート

目指すべき将来像(テーマ) 魅力ある活動を通じて「子ども～大人～高齢者」仲の良い上下西野田地区（若い！若い！野田）

サブテーマ

仲の良い上・下・西が一緒に活動

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・バンドサークル→発表する
- ・学校の空き部屋を利用→子どもと関わる
- ・ソフトボール大会
- ・地域とPTAの対抗
- ・世代間交流
- ・地域の方が上、下、西

自分でできること「自助」

- ・地域の人を知る
- ・反省会 飲み会にケーションも一緒
- ・若い人を育てる集まれるような基盤づくり
- ・現在の活動を続けていく
- ・声を掛けあう

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

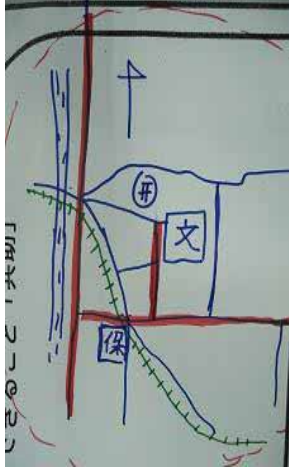
- ・地域活性化補助金の継続

サブテーマ

あいさつロードに向けての取り組み

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・道路の整備
- ・高校生の缶拾い→地区でも
- ・地元、学校、保育で看板づくり
- ・あいさつのできる地域
- ・自主的にあいさつができる園児
- ・保育と地域のつながり



自分でできること「自助」

- ・自分からあいさつする

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・社協にお金を出してもらう
- ・道路の整備
- ・教育委員会とのタイアップ
- ・教材代(看板)

(10) 後免地区

後免 地区

1 班

目指すべき将来像(テーマ)

・住みやすい”まち”づくり(緑化・住宅街化による”まち”の再生・生活環境の良さ)

サブテーマ

・コミュニケーションの場・交流の場づくり

地域での支え合い・助け合いのできること「共助」

- ・軽トラ市の回数増、継続
- ・若者に出てきてもらいたい
- ・魅力的な公民館活動行事
- ・趣味の集い・つながりが薄い
- ・行事へ住民の参加が少ない
- ・住みやすいのに人が住まないのは何故?
- ・駐車場、居住スペースがない
- ・生活しやすいまちへ
- ・商売が成り立たない
- ・店主からサラリーマンに(商売が成り立たない)
- ・住居と店舗が一緒(店舗だけ借りるにはトイレ等の問題)

自分のできること「自助」

- ・色々なことに積極的に参加

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・立派な公民館
- ・駐車場

サブテーマ

・災害を考えたまちづくり

地域での支え合い・助け合いのできること「共助」

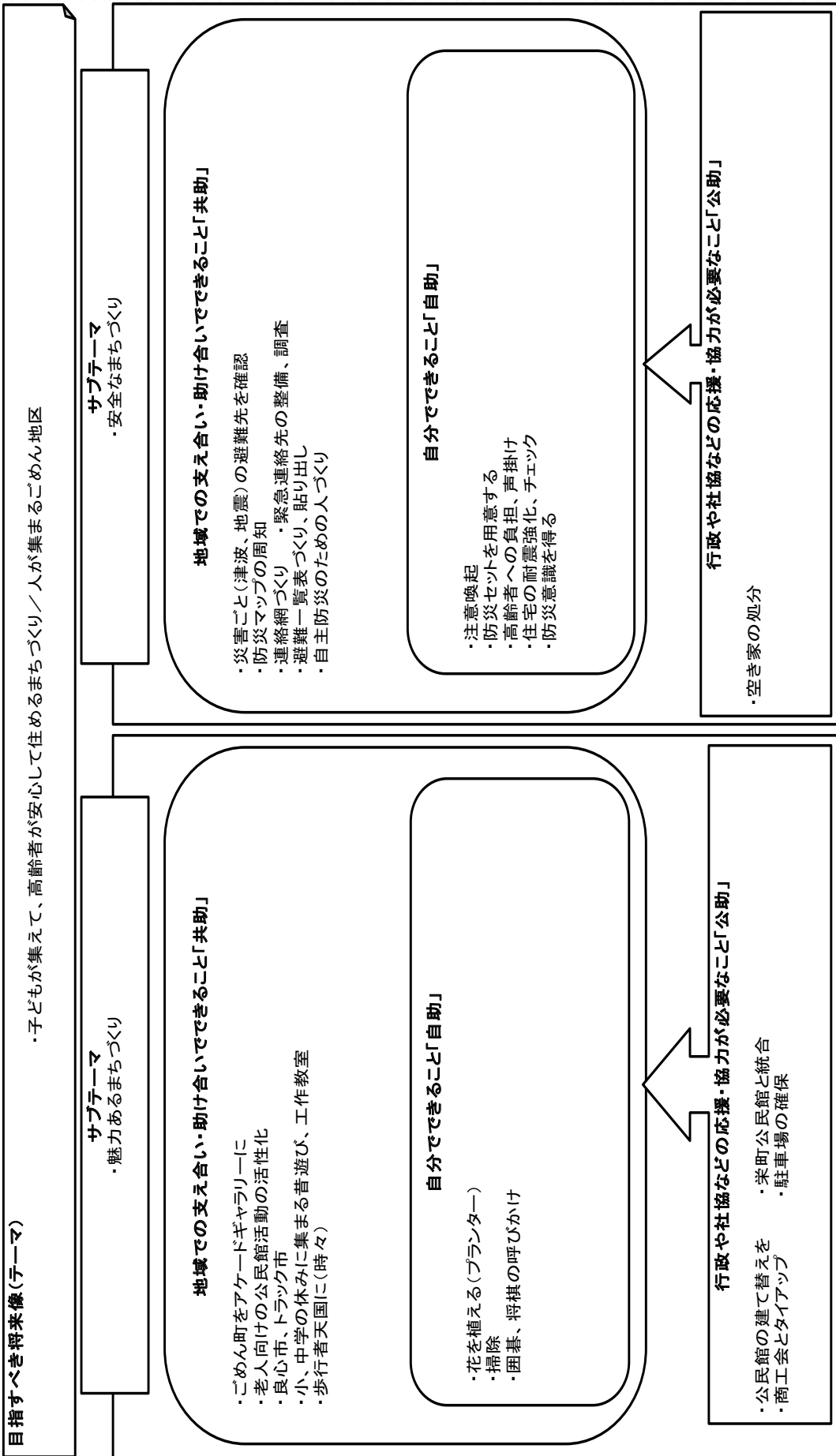
- ・災害時に拠点となるべき場所
- ・民生委員外の者も、地域の個人情報を知らないと対応できない
- ・民生委員が把握している
- ・何処にどうした人がいるか分からない
- ・隣近所での声掛け

自分のできること「自助」

- ・逃げる
- ・避難先を決めておく
- ・危機意識
- ・家から火を出さない
- ・ここは海抜何メートルかを知っておく

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・情報の整理
- ・海抜マップ



(111)大篠地区

大篠 地区

1 班

目指すべき将来像(テーマ)

世代格差のない、緑あふれるまち

サブテーマ

あいさつのできるまち

地域での支え合い・助け合いのできること「共助」

- ・下校時間においてほしい
- ・一斉清掃等のイベントを通じた交流、またそのイベントづくり
- ・田役に出てくる人同士、声をかける
- ・中学生、高校生は厳しい
- ・一時的にいる人(レオパレス等)の把握ができたら・・・

自分でできること「自助」

- ・あいさつするときは笑顔で(散歩の時など機会をみつけて)
- ・継続して行い、顔なじみになる
- ・家庭でのしつけ→家族同士でのあいさつ
- ・下校時は「おかえり」と言う
- ・積極的に自分から声をかける

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・3世代同居がしやすい政策づくり
- ・学校を通じてあいさつ運動を広げる(文章の配布等)
- ・集合住宅に管理人を置くような政策づくり
→地域の人と住民との橋渡し
- ・若い人が来る座談会を
- ・福祉計画を中学、高校生に提案して

サブテーマ

防災

地域での支え合い・助け合いのできること「共助」

- ・隣近所で助け合いといった組織づくりを4, 5人がグループで行う

自分でできること「自助」

- ・津波が来たら吾岡山 ・まず自分の身を守る
- ・自分の家の中でも地震対策を(タンスのつかえ棒等)
- ・逃げる意識を持つ(ヘルメットをかぶる)
- ・水、食料の備蓄管理
- ・家具の転倒防止
- ・津波より地震に備えるべき

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・民間施設(浜すし等)を含めた避難場所の設置
- ・耕作放棄地などを講演にするなど有効活用
- ・緊急避難所マップ、看板の整備(学校等への矢印)
- ・海拔何mを表示
- ・吾岡山への避難経路の整備(道のこぼこを直して)
- ・防災リュックの配布
- ・共同井戸を使うように→山田にはある
- ・中央公民館に水を置いているけど一番危ない

大篠 地区
目指すべき将来像(テーマ)

お互いの顔が見える大篠地区

サブテーマ

災害に強い大篠地区

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・防災訓練、資機材のチェック
- ・JA病院との協定、周知
- ・班単位の活動を活発にする
- ・転入者への声掛け(分かる範囲で)

自分でできること「自助」

- ・水、食料の保管(風呂の水を残す)
- ・家具の固定
- ・リフォーム(耐震)
- ・非常時持出袋、枕もとに履物を用意する
- ・向こう三軒両隣への声掛け
- ・回覧範囲の人の把握

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・転入者へのハザードマップの配布
- ・防災チェックシートの配布(各戸へ)

サブテーマ

集まりの場所づくり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・地域の人材発掘と学校への紹介
- ・世話好きを見つけたら
- ・小学校行事へ積極的に参加する→学校へ呼びかけ
- ・公民館の活性化(いろいろな活動を仕掛ける)
- ・先やりを育てる(育てたい)

自分でできること「自助」

- ・運動会への参加
- ・公民館活動への参加
- ・声掛け

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・地域と学校との交流、接点づくり

大篠 地区
目指すべき将来像(テーマ)

地区、部落全員があいさつできる地域

サブテーマ

つながりづくり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・声を掛けても、今の子どもは声がかさく聞こえない
- ・地区の子どもを掌握する
- ・「知らん人と話をせられん」と教育されている
- ・運動会の慰労会
- ・行事の案内をする→マージョン等の人には声かけをしなくなった
- ・役員をしない人とを知らない
- ・世代のつながりはあるが、世代間につながりがない
- ・新興住宅はあいさつが少ない(部落に入らない人もいる)

自分でできること「自助」

- ・まず、年寄が先に声をかける
- ・親との会話がいないのでは
- ・あいさつ・でしゃばり(嫌口も言われる)
- ・一人暮らしの所への声かけ
- ・積極的に話に行く
- ・頼のしつけ

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・お年寄りで耳が聞こえない人へ補聴器の貸与

サブテーマ

行事の継続

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・氏神様のお祭り
- ・地域でつながりをつくる→吾岡山の清掃に参加
- ・リーダーづくり
- ・地域で助け合うゴミ拾い
- ・月1回の水路清掃
- ・班のつながり

自分でできること「自助」

- ・人が減っている
- ・参加する
- ・田役に出る、その後慰労会に出る
- ・率先して出る
- ・誘い合い
- ・先立ってやる人になる
- ・近所づきあい→屋は顔をあわせれん

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

大篠 地区
目指すべき将来像(テーマ)

子どもからお年寄りまで笑顔で暮らせる安全安心のお節介なまちづくり

サブテーマ

地域行事でつなぐまちづくり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・いろいろな関係者を呼んでの交流(世代間交流)
- ・趣味の多様化で団体活動が減少
- ・昔遊びの伝承
- ・学校授業の一環で行事を行う
- ・小部落での行事の内容を考える
- ・地域性に応じて行事を行う
- ・行事を通じて「学ぶ」→「耕つき」等
- ・アパートでも年1回の初寄りを行う
- ・意見交換(ストレス発散?)

自分でできること「自助」

- ・あいさつ運動
- ・行事に積極的に参加する
- ・若い人(子ども)に出てきてもらう声かけ

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・補助金を

サブテーマ

不安解消！お節介なまちづくり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・梓にとらわれないまちづくり(個人情報保護関係なし)
- ・集団下校の復活
- ・価値観を共有する
- ・自主防の活動等を通じての見守り
- ・部落行事を考える
- ＜共通＞
- ・大篠全体でルールづくり
- ・飲み会に引っ張り込む
- ・顔が見える関係づくり(アパート等の方は履歴書の提出)
→家主を巻き込む

自分でできること「自助」

- ・自分のことを知ってもらう(壁をつくらない)
- ・人のことを気にする(気掛ける)

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・ケース会の実施
- ・集めた情報をどこまで共有するか！

大篠 地区
 目指すべき将来像(テーマ) 子どもからお年寄りまで生きがいをもって笑顔で挨拶ができる田園都市 大篠

サブテーマ

コミュニケーションづくり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・まつりを作ろう
- ・一人一役の役割
- ・防災訓練
- ・公民館に集まる
- ・地域へ出て行く→あいさつが返ってくる
- ・ラジオ体操
- ・リーダーをつくる
- ・地域の絆づくり

自分でできること「自助」

- ・稲吉地区のまつりへ参加
- ・あいさつ運動
- ・資金を出そう
- ・たぐさんの人を巻き込む
- ・町立記念日を立ち上げる
- ・始めたことは少しでも続けよう
- ・行事への参加の呼びかけ→一人でも多く

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・集まる場所
- ・アイデアの提供
- ・人材の協力

サブテーマ

環境づくり、ECO、住みよいまちづくり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・今日は何の日を町内で決めよう→放送をする
- ・若い人(新しい入居者)にゴミの出し方を徹底
- ・町内でいろいろな集会をつくる
- ・町内での一斉清掃
- ・見守りを兼ねてゴミ拾いをする

自分でできること「自助」

- ・ゴミの分別
- ・マイバック
- ・川へゴミを流さない

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・各地区の情報提供
- ・年1回以上の施設の見学(バス等の提供)

(12) 日章地区

日章 地区

1 班

目指すべき将来像(テーマ)

みんなが日章に住みたいと言える地区！！

サブテーマ

日章の名前を広げ、子どもも好きな日章地区

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・魅力ある催し、公民館を中心とした活動
- ・フェスティバルを宣伝する
- ・特産品をつくる
- ・子どもが興味を持つように、大人と子どもと一緒に稲刈りが終わった田を利用する→イベント、マウンテンバイク、鬼ごっこ
- ・子どもと地域の人が一緒に交流→給食の試食会
- ・学校を中心に地域を取り込む
- ・自然が多い→守っていききたい→物部川を守る歌をつくる

自分でできること「自助」

- ・歴史を知る
- ・あいさつができる

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・広報に載せる
- ・文化ホールをつくる

サブテーマ

子どもも高齢者も安心して集まれる日章地区

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・地域のつながり→子どもが地域を結び付けていく
- ・集まれる場所がほしい→サロン(趣味でのつながり)
- ・老後が安全、安心した地区づくり
- ・定年になった人の不安を聞く→不安を解消するために話をする場をつくる
- ・励ましのネットワークがほしい
- ・逃げる人を任命→集団本能を利用する

自分でできること「自助」

- ・いろんな会に積極的に参加する
- ・子どもと一緒に地区の集まりや行事に参加する

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・人口を増やす→市街化区域へ
- ・働く企業が無い→企業誘致

目指すべき将来像(テーマ)

深い絆でつながり、思いやりを持って安心して暮らせる日章地区

サブテーマ

自然と集まれる場所づくり(公民館)

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・ゴミの整理を力を合わせてやる
- ・男の料理教室→後はお客
- ・おせっかいをやく、楽しむ
- ・日章まつり→子どもを集める、大人達はピヤガーデン
- ・声をかけあう

自分でできること「自助」

- ・料理教室を開き、人々の集まる場をつくる
- ・子どもと高齢者が集える場所づくり
- ・学校に来てもらう機会を意図的に仕組む
- ・子どもたちへ公民館の開放
- ・朝夕のあいさつ
- ・「手伝って」と声をかける

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・情報提供

サブテーマ

学校を核とした地域づくり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・じいちゃんばあちゃん子どもたちのじゃんけんほん大会

自分でできること「自助」

- ・近所づきあいを密に、イベントなどに声をかけ誘い合う
- ・参加できるシステムづくり
- ・学校の情報発信
- ・学校に足を運ぶ

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

目指すべき将来像(テーマ)

日章地区民 みな親戚

サブテーマ

つながりづくり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・助け合いネットワーク(向こう三軒両隣)をやっている
- ・行事を増やす
- ・公民館地域参加のイベントを企画
- ・軽トラ市(10周年記念)、下駄飛ばし等のイベント
- ・無線を活用したPR
- ・小学校、幼稚園と地区とのつながりづくり→子どもと親の参加
- ・PTCA→学校を中心にした地域との活動をよくする

自分でできること「自助」

- ・挨拶から
- ・友達を増やす
- ・地域の行事等に参加(保育)
- ・イベントに参加
- ・イベント等への参加呼びかけ

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・調整区域の解除

サブテーマ

リーダーの育成

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・青年部の育成(50歳未満)→公民館に参画
- 若者に役割をあたえる(やる気にさせる)
- ・飲む会場、機会づくり→コミュニケーションづくりが必要
- ・小、中を地域(農業)を参画させる
- ・若い人も含めたワークショップ
- 若い公務員が地域で活動すること(リードすべき)

自分でできること「自助」

- ・若者の意見をよく聞いてやる
- ・リーダー育成の必要性を地域に知らせる

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・地区の若い公務員は活動に参加しなさい
- ・公民館長レベルの集まりだけでなく、現場レベルでの集まりを

目指すべき将来像(テーマ) **今ある日章地区の良さを活かし、地元の人たちの子孫が住み続けられる魅力ある地域づくり**

サブテーマ

子どもたちお年寄りの住みやすいまち

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・大湊は地域の見守りが6、7年になる(日章は1、2年)
- ・学校の呼びかけが大事
- ・家があったら安心
- ・地域の見守り
- ・地域の事業と一緒に参加する
- ・世代間の交流会をする→地区民運動会等
- ・日章公民館10周年イベントのようなイベントを続けたい
- ・収穫祭(各部落で屋台を出す等)
- ・神社の縁日に夜店がない

自分でできること「自助」

- ・安全、防犯
- ・声を掛けあえる、あいさつの励行

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・家を建てられるように
- ・街灯で安心
- ・王子川の堤防を綺麗にする
- ・通学路を確保
- ・赤線を整備
- ・日章は広い→交通の便が悪い

サブテーマ

自然環境の整備

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・蓮華の花でまちおこし
- ・遊山(自然と遊ぶ)
- ・ガキ大将がいれば年齢(縦)で教えることができる
- ・川で遊ばせる(危ないということを覚える)→自然もいっぱい
- ・危ないので「行かん」「せられん」はどうか
- ・教えるには体験が必要

自分でできること「自助」

- ・ゴミを捨てない(拾う)→拾っていたら捨てなくなる
- ・久枝では老人クラブ会長が「散歩するときはゴミひらおう」と声掛け
- ・生きたものに触れさせず体験
- ・物部川を大事にする

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・環境調査

(13) 岩村地区

岩村 地区

1 班

目指すべき将来像(テーマ) **地域が一つになり、子どもから高齢者までいきいき暮らせる岩村地区**

サブテーマ

地域の絆を強くするには・・・

地域での支え合い・助け合いのできること「共助」

- ・大人から子どもに挨拶をする
- ・回覧板を回す際、声をかけて情報交換
- ・会う回数が少なくなかった人への声掛け
- ・コミュニケーションのきっかけづくり(子ども⇄大人)
- ・共有できるテーマを育てる
- ・子どもと高齢者の交流会を増やす(顔や名前を覚える)
- ・小部落の公民館を沢山利用する
- ・何事も継続して取り組む
- ・大人同士の絆を強めよう

自分のできること「自助」

- ・行事への参加等、隣近所への声掛け
- ・楽しいことを発表する
- ・行事の企画(計画)を積極的に行う
- ・親子での活動機会を増やす
- ・飲み会を増やす
- ・組織に加入し、行事に必ず参加する

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・地域の活動を出るだけ把握してほしい
- ・少額でも予算化
- ・補助金の使途に對してもう少しゆるやかにしてほしい

サブテーマ

楽しくいきいき暮らすには・・・

地域での支え合い・助け合いのできること「共助」

- ・年1回の敬老会への参加を勧める(70歳になった方へ特に！)
- ・子どもたちを中心として老人を外へ連れ出す催し物を多くする
- ・イベントや祭り
- ・声掛けと見守り
- ・サークル活動(組織)を増やす

自分のできること「自助」

- ・健康に留意して出来るだけ外出する
- ・ウォーキングを習慣づける
- ・隣人と積極的に話をする(挨拶も)
- ・今やっていることを継続する(趣味も含めて)
- ・サークル活動に参加し、友達をたくさん作る(情報を得る)

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・横の連携をとってほしい

岩村 地区
目指すべき将来像(テーマ)

人が増え、地域が賑わい、皆でお酒が飲める岩村地区

サブテーマ

人を増やそう

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・結婚相手のお世話
- ・岩村ののどかさを守っていく
- ・積極的に岩村の良さをPRする
- ・岩村に体験留学してもらおう
- ・場所を提供してくれる方と外から来た方に対して公民館が窓口になり仲介する
- ・空き家、田んぼ、畑の提供
- ・タウン促進(インターネットの活用)

自分でできること「自助」

- ・子どもも同居

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・ライフラインの充実→水
- ・若者の働ける場(企業誘致)
- ・調整区域

サブテーマ

和気藹々

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・簡単で取り組みやすい催し物をもっと
- ・運動会(小規模な)の復活
- ・地域の一体感が実感できるものを
- ・子どもを含めみんなが参加できるイベント
- ・岩村選抜VS他地区の競争ができる行事
- ・バスや公民館を活用し、いろんな場でお酒が飲める環境づくり
- ・みんなで一つのことをする機会づくり→お客を通じて子どももつながる
- ・子どもが主役の行事をつくる→子どもも神興

自分でできること「自助」

- ・あいさつをする
- ・地域の催し物に参加する

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・運動会などイベントに必要なものを用意

岩村 地区
 目指すべき将来像(テーマ)

岩村地区の元気の源は笑顔から

サブテーマ

地域がつつながりやさしい岩村地区

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・子どもに顔を知ってもらおう→親を連れ出す
- ・一緒に声を出して声を掛けあつて同じことをする
- ・地域マップの作成→近所を知る、近所同士気に掛ける

自分でできること「自助」

- ・積極的に自分から行事へ参加
- ・連れ出し上手になる(声掛け、顔を合わせる)
- ・行事等へ参加しやすい雰囲気、環境づくり
- ・行事へ参加する前に参観場所確保
- ・飲み会や食事会を献立する
- ・自己発信(自分の情報を)

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・子育ての親の集まれる環境、場所づくり
- ・情報提供
- ・補助金

サブテーマ

あいさつから始まる岩村地区

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・地区内での小学生のあいさつ→学校へ提案
- ・月1回、声掛け運動の日をつくる
- ・貯筋運動→あいさつのきつかけ
- ・各世代の声や話を聞く→つながりをつくる→あいさつへ

自分でできること「自助」

- ・自分から明るく、元気に、大きな声であいさつ
- ・家庭でのあいさつ
- ・子どもにも積極的にあいさつ
- ・気持ちよく電話対応

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・市役所の総合案内でのあいさつ
- ・各地区の取り組みの周知、広報活動

(14) 前浜地区

前浜 地区

1 班

目指すべき将来像(テーマ)

- ・子どもを大切にす地域

- ・防災を中心とした地域づくり

サブテーマ

- ・地区民運動会(やめずに続ける)

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・楽しい種目が大事
- ・11:00～15:30やけど準備に時間がかかる
- ・小、中、幼の協力(子どもの参加をお願いする)
- ・運動神経の鈍い者も参加できる種目を考える
- ・運動会のPR不足で種目の選定
- ・身体に負荷の少ない種目に見直す
- ・コミュニケーションづくり

自分でできること「自助」

- ・地区民に呼びかけをする

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

サブテーマ

- ・家族観近所づきあい、絆を強める

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・避難訓練に参加できなかった理由を知って、対応策を考える
- ・いろいろなアドバイスをしてくれる人が欲しい
- ・民生委員、常会長とか周辺する
- ・家を出るときに準備する人がいて、その対応

自分でできること「自助」

- ・持出袋の中身を定期的に見直す
- ・避難ルートを決めておく
- ・井戸水の確保、発電機
- ・声かけ、意識高揚
- ・障がいのある人の避難ルートは健常者と違う(遠回りになる)
- ・自分の命を守るため、まず逃げる

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・地区外からの避難者受入を可能に(一次)
- ・避難場所が今のままでいいのか? ・避難場所(タワー)の新設
- ・防災マップの再点検(収容人数等) ・園児の安全な避難を公制度で整備
- ・公施設に常駐職員をバランスよく配置

前浜 地区
目指すべき将来像(テーマ)

元 気 が 一 番 前 浜 地 区

サブテーマ

- ・人のふれあい・元気のつながり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・人が集まる行事をする→敬老会、冠婚葬祭→声掛け合う
- ・餅つきで交流
- ・集いの場(話し合いの場)を設ける
- ・祝い事を公民館でする
- ・まつり(えんこう祭り)への参加
- ・地区の情報を流す
- ・飲んで話す
- ・交番での情報
- ・今は娯楽がある、家でおれる
- ・子どもが外へでない
- ・昔は外で遊ぶしかなかった

自分でできること「自助」

- ・声掛けをする
- ・あいさつ、会話
- ・気持ちの持ちようで年が変わる
- ・年が寄っても人の為に働く
- ・人を見かけたら声を掛けるよう心がける
- ・歳を忘れる

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・出産で金一封を出す

サブテーマ

- ・子どもの元気な姿を見よう

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・人口減、仕事が少ない、県外で就職する
- ・人が年々変わっていく
- ・子育て不安
- ・県外へ行き戻ってこない
- ・人が多くなれば地域を支える
- ・子どもを地域が見る
- ・ミニボランティアデーをやってみれば？
- ・あいさつ運動

自分でできること「自助」

- ・昔は世話好きのおばさんがいて、出会いをつくった
- ・出会いの場をつくる
- ・子どもにあいさつ→大人から声を掛けてあげる
- ・あいさつすると自分も楽しい→元気をもらおう

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・子育て支援が少ない
- ・地区へのアドバイス

前浜 地区
目指すべき将来像(テーマ)

助け合いで安心して暮らせる地域へ

サブテーマ
・次世代へ繋がっていく地域

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・隣近所が仲良くすること
- ・自主防とか昔は60歳以下→若い人を引き込むためのルール
- ・自主防を活動の核にしたい
- ・地域の組織の存在を知らず(若い人に知ってもらいたい)

自分でできること「自助」

- ・若い人とのコミュニケーション
- ・ヨガ、参加者を集める声掛け
- ・人材育成→呑み会
- ・後輩が動きやすい環境づくり
- ・集まりに参加できる雰囲気づくり→呑み会
- ・行事へまずは参加
- ・運動会へ誘う→若者の種目をつくる、強制的に引っ張り出す
- ・世代交代、先やりがいないことが課題

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・補助金(絆を深めるためのお金、社協)
- ・制度についてのお知らせをとってほしい

サブテーマ
・買い物のできる地域

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・料理教室を開く→みんなで集まる、みんなで買い物
- ・生協でのグループ買い物(宅配)

自分でできること「自助」

- ・あきらめないこと!
- ・地区のバスを出すように訴える
- ・現状把握する(調査する)→要望者(高齢者)の
- ・何人が乗せて買い物に行く(事故、トラブルが心配)

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・行政のスピードアップ(いろいろな施策)

サブテーマ

災害に敗けない浜改田

地区での支え合い・助け合いのできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人のできること

- ・ 避難訓練
- ・ 避難路の確認
- ・ 近所つきあいを良好に
- ・ 災害状況等の情報収集方法等の確認
- ・ 要支援者とのコミュニケーション充実
- ・ 逃げる、体力、体力向上
- ・ 家族での話し合い（どこへ避難するか…など）決めておく

- ・ 日頃からのおつきあい
- ・ どの部屋に居るのか
- ・ 要支援者のリストアップ
- ・ 誰が助けに行くのか？
- ・ 隣への声をかけながら逃げる

- ・ 浜田地区を入れよ！
- ・ ぬけた部屋への声かけ、働きかけ（100戸）
- ・ 自主防の連合化
- ・ 防災のけいもう
- ・ 新しく高い山、琴平山です

- ・ 避難物資の確保
- ・ 琴平山の避難所にトイレを建設して下さい
- ・ 高台避難（こんびら）整備
- ・ 生命を守る避難タワー
- ・ 避難タワーの新設（200m ごとに）

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

サブテーマ

世代間交流

地区での支え合い・助け合いのできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人のできること

- ・ 日頃からの近所への声かけ
- ・ 昔、今、これから、そのような話しをしたい（飲み会でも）
- ・ 井戸端会議的な世間話の場
- ・ 横のつながり（顔を知る）
- ・ 公民館等に参加
- ・ 公民館等に参加
- ・ 海辺のサロン
- ・ ボスター作り
- ・ 行事参加と飲み会
- ・ 行事への参加（運動会、祭りなど）
- ・ 行事への参加呼びかけ

- ・ 海辺のサロンをつくってやっているけどまだまだです
- ・ 公民館同士の交流（えんりよ）
- ・ みわ祭参加、地区民運動会参加、里帰りの推進

- ・ 花見フェス、飲んで歌う
- ・ カラオケ大会
- ・ 三和桜フェスティバル、開催決定
- ・ 三和祭り、もつと頑張れ
- ・ 三和祭りのPR（8/20）（招待）
- ・ 子供も参加
- ・ 里心、里帰り、魅力は？
- ・ 運動会

- ・ 公民館に対して助成を
- ・ 三和ふれあい交流プラザの新設
- ・ 助成金
- ・ 自立した活動に最後はほしい

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

地区 三和

グループ 片山

テーマ 健康・防災・人とのつながり！

サブテーマ

健康

地区での支え合い・助け合いでできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人でできること

- ・ 食事
- ・ 野菜を先に食べる
- ・ 休肝日
- ・ 21時以降は食べない
- ・ ウォーキングをする
- ・ 認知症予防、体づくり、介護いらず

- ・ 声かけをする

- ・ 地域でのサロン立上げ
- ・ 地域の診療所が欲しい

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

サブテーマ

防災

地区での支え合い・助け合いでできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人でできること

- ・ まず逃げる
- ・ 逃げる準備（自分の為の）
- ・ 情報の確保（ラジオ等）
- ・ 家族の集合場所を決めておく
- ・ 耐震補強しておく
- ・ 車の中に脱出用の器具をおいておく

- ・ 「絵金」の絵を守る
- ・ 避難所を知っている
- ・ 助ける人の優先順位づくり

- ・ 行政は待っていても助けてくれない（自ら動く）
- ・ 自主防組織の充実と見直し
- ・ 部落の自主防災委の人を定着させる（一年で交代ではなく）
- ・ みんなで部落長を支えるいきづくり
- ・ 防災時の道具をそろえる
- ・ 発電機、草刈り機など一台ずつ増やす
- ・ 防災訓練をする（昼・夜）
- ・ 身近な避難場所の把握（いざという時）

- ・ 名簿（介助がいる方）づくり **至急**
- ・ 情報（名簿）の共有するしくみづくり
- ・ 避難所見直し

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

地区 三和

グループ 里改田

テーマ さらに魅力のある里改田

サブテーマ

どう子供を支えるか！！

子供
(小学校)
40人弱

地区での支え合い・助け合いでできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人でできること

- ・ 先ず知る
- ・ 子供さんを知る事
- ・ 子供さんに知ってもらおう事
- ・ 声を出すこと
- ・ 路上での声かけ
- ・ 子供に出合った時は必ず声かけにつとめ、笑顔で接する時間を
- ・ 子供の見守り
- ・ 子供見守り、登下校の時声をかける
- ・ (子供)家のまわりで子供が危ない遊びをしていたら注意する。通学路で気をつける
- ・ 見守隊へ入る

中高生

- ・ 寄り添いがたい
- ・ あいさつはする
- ・ 声掛け
- ・ あいさつ→会話

子供と高齢者の交流会
(学年単位)

老・壮若の接点

- ・ 子供会を作る予定
- ・ 夏休みのラジオ体操をし健康を見守る
- ・ (学校) 学校と地域と一緒に
 - ・ 物品販売への協力
 - ・ 子供と一緒に→地区とのつながり
 - ・ 資源回収への協力・年2回
 - ・ 三和サポーター・読み聞かせ・草引き

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

サブテーマ

どう高齢者を支えるか！

地区での支え合い・助け合いでできること

隣近所・集落での支え合い

自分・個人でできること

- ・ (個人) 声かけを行う
- ・ 近所の高齢者声かけ
- ・ 声かけをする
- ・ (個人) 独居老人宅を見守る
- ・ 声かけ、見守り(一人くらし)
- ・ 安否の声かけをしてあげる、遠くから見守る
- ・ 敬老会への参加 声かけ 70歳～
- ・ 会つたらあいさつなど会話をする
- ・ 一人が一人をささようように
- ・ 外出をおくさず行事に参加
- ・ 外出することで人とのコミュニケーションを持つこと

- ・ 班ごとに相談の人のいいいれれば良いのでは…
- ・ どこで寝ているか知る
- ・ (隣近所) 情報収集につとめる(努力する)
- ・ 集まる場所を設ける
- ・ 井戸端会議をする
- ・ 常設の集い場が欲しい、毎日集まれる場所

- ・ 必要とする
- ・ クラブ活動を活発化する(趣味など)
- ・ サロン 10月～1月(おしゃべりの場) 公民館
- ・ ふれあいの場所作り

- ・ 正しい情報の発信→地区ごととに会の開催

行政や社協などの応援・協力が必要なこと

(16) 稲生地区

稲生 地区

1 班

目指すべき将来像(テーマ)

地域みんなで見守る稲生地区

サブテーマ
・稲生地区の活性化

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・地域を知る、伝える(石灰等)
- ・地産地消:農産物生産者は良心市⇒発展すれば出資者を募っても・・・。
- ・チャリティ女性部
- ・コスモス、ひまわり
- ・小学校ニュースを高知新聞折り込みに入れていく
- ・PTCAをもっともっと活発に
- ・学校の空きスペース等を使って、交流の場に(誰とでも交流)
- ・昔ながらの技の伝承(草履、コマ回し、料理、餅)

自分でできること「自助」

- ・地域の行事を知る
- ・地域の行事に積極的に参加すること
(月番などのやり方を親から習う)
- ・文化祭、夕涼み会、敬老会、運動会、夏祭りへの参加
- ・あいさつをする
- ・お年寄りを大事にする心を育む

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

サブテーマ

- ・異世代、障がい者との関わり方

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・お年寄りと園児との交流
- ・子どもたちが地域の人の協力を得て、玉ねぎを作って売り、お弁当作りの費用に。
- ・合同避難訓練(小学校・保育は避難する山を決めている)
- ⇒地域での話し合いが必要
- ・防災の周知、ストックハウスの確認
- ・避難路の整備を要望すること(みんななどで)

自分でできること「自助」

- ・ブルタブやアルミ缶を集める
- ・子どもらの見守り、声掛け
- ・あいさつをする
- ・防災訓練に参加する(学習する)
- ・お年寄りを大切にすることを育む

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・避難路の整備
- ・公園を造る

稲生 地区
 目指すべき将来像(テーマ)

安心して働きに出れる地域、健康で生活できる地域

サブテーマ
 ・絆を取り戻す

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・声掛けをする
- ・近所の様子を気に掛ける
- ・公民館長などの役を家順で担当する
- ・自主防災組織をつくる
- ・ゲートボール場を集合場所にする
- ・若者の出番をつくる
- ・ゲートボール場を整備して交流する場に

自分でできること「自助」

- ・相手の立場を思いやる
- ・地区の役を引き受ける
- ・防災の手伝い
- ・防災の訓練に参加する

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・防災への情報提供

サブテーマ
 ・協力し合える地域

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・老人会を復活させる。敬老会を続けていく
- ・運動会の時に地域全体で防災訓練をする
- ・地区で使用する防災設備を置く。拠点を作る
- ・手伝いの輪を少しずつ広げていく
- ・子どもを地域で見守る
- ・日赤の講習等に参加する

自分でできること「自助」

- ・イベントでの援助の声掛け
- ・家庭内で自分だけでも運動会等に参加する
- ・防災訓練で他の人のことも思いやる
- ・災害時に自分の身を守るように準備する

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・部落公民館の耐震工事

目指すべき将来像(テーマ)
 ・調整区域を外し住宅と人口を増やす。稲生へ安住を。
 ・特産品づくり→就労増、若者の安住を
 ・小学校が核→(子ども、人口増を)

サブテーマ
 ・災害を考えるまちづくり！

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・年1回は稲生全体で防災訓練を
- ・避難場所の共通理解(各部落で)
- ・公務員を辞めた者は10年間奉仕を
- ・若い人の関わり(後継者をつくる)
- ・部落長、館長等を若い者にしてもらう

自分でできること「自助」

- ・若い人には声を掛けている
- ・説明会に参加する
- ・とにかく逃げる
- ・自分の身は自分で守る
- ・実地で訓練を⇒細かなことが分かる

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・行政も行革を⇒同じような活動が担当課が違っていくつもある
- ・避難勧告、指示が弱い⇒命令をしてほしい

サブテーマ
 ・子どもを守るまちづくり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・開かれた学校づくり→30名
- ・見守り隊の緑のベスト⇒散歩のときだけでも良いので着てほしい
- ・コスモスの花(小学校の周囲、散歩道)皆の集まる土地へ
- ・衛生委員の方に協力してもらい緑のベストを着てもらおう
- ・見守り隊の関係者が減少している
- ・いろんな団体と一体的に活動をする
- ・自治会への呼びかけ
- ・いろんな人に関わってもらう
- ・親の教育が必要

自分でできること「自助」

- ・行事に参加する(顔の見える関係づくり)
- ・学校に関わるきっかけづくり
- ・趣味を生かしたきっかけづくり
- ・普段の何気ないあいさつ
- ・ベストを着て見守る

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・行政を引っ張り込む

目指すべき将来像(テーマ)

- ・家族制度復旧の町を目指す
- ・昔ながらのエコを上手く活かし、先進的な取り組み
- ・家族のつながりを取り戻す
- ・みんなの憩いの場、居場所をつくる

サブテーマ

- ・地域の防災力を強化し、それに合わせた憩いの場をつくる

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・炊き出し(みんなであるものを持ち寄る、訓練を行う)
- ・子どもから高齢者までが集まった防災訓練(企画)
- ・防災備蓄の管理、整理⇒業者に頼むのも一つの手
- ・転入者に対する避難経路、場所の周知
- ・「三軒両隣」声を掛けて助け合い避難
- ・一人で避難できない人を把握しておく
- ・憩いの場所、公民館の整備、集会場

自分でできること「自助」

- ・自分の身は自分で守る、第一自分で避難する
- ・避難場所の確認と、到達時間
- ・土砂崩れなど危険個所の把握
- ・非常持出袋の準備(現金、乾パン、テント、シート)
- ・集まりに参加する
- ・防災グッズ、特に履物の準備

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・防災無線の整備、みんなに周知できるように

サブテーマ

- ・地域おこし 先進的な取り組みを行う

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・「アレルギーに効く」など効果的なキャッチフレーズを考える
- ・大々的に売り出すなら、今よりも生産地を増やす
- ・見守り隊のベストは現在200枚ある
- ・PTCAを中心とした地域おこしの担い手(子ども)の育成
- ・見守り隊のベストを持っている人は全員着る事!

自分でできること「自助」

- ・びわ茶⇒風車市などに出しアピールする
- ・びわ茶加工の機械化⇒現在手作業
- ・びわ茶を口コミで知らせていく
- ・柿茶もびわ茶もあわせてアピールしていく

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・市の広報やHPを活用してアピールする
- ・地域と県や関係各所との調整、仲介

（17）十市・緑ヶ丘地区

十市・緑ヶ丘 地区

1 班

目指すべき将来像(テーマ)

花がいっぱい十市・緑ヶ丘(鴨がたくさん来て、蓮の花がたくさん咲いている)

サブテーマ

石土池の復活

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・池を守る会(水蓮)
- ・石土池に水が流れない
- ・鯉や鮒がいなくなった(ブラックバスばかり)
- ・山の竹を利用して水をきれいにする(炭、からす貝)
- ・炭を利用して水をきれいにする
- ・外来種対策(池)
- ・ヘドロ除去

自分でできること「自助」

- ・水をきれいにする(排水など)

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・水質検査

サブテーマ

地域のつながり

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・卓球での交流(ラケットは寄付)
- ・障がい者への手助けが薄い(老人と比べて)
- ・障がい者の方の把握
- ・お年寄りと子供たちの集まれる場所づくり
- ・グループ同士をつなげていく
- ・地区民運動会、おらんく祭り
- ・みんなが集まり協力して負担軽減(資金面など)
- ・文化祭の拡充
- ・空き教室を地域の人へ開放を

自分でできること「自助」

- ・公民館でのサロンを利用した交流
- ・いきいき体操で交流

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・投票所の場所
- ・福祉協力員を増やす(見守りに)
- ・駐車場の整備(運動会など)

目指すべき将来像(テーマ)

子ども行事やサークル活動を中心にして人が集まる／地域全体に向けて情報発信

サブテーマ

十市・緑ヶ丘地域の人を知る場をつくらう

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・運動会の復活(多世代で参加できる内容)
- ・敬老会の開催(魅力的な内容)
- ・学校を中心に集まる
- ・おらんく祭りや各分野の集まりに誰でも参加
- ・サンプラザの駐車場での祭り・行事の開催

自分でできること「自助」

- ・運動会の準備への参加
- ・世話役のサポート
- ・発表会への参加
- ・文化祭への参加

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

サブテーマ

災害に強い十市・緑ヶ丘地区

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・災害訓練の実施
- ・幼稚園の避難訓練に地域の方にも来てもらう
- ・要援護者の確認
- ・へんろ道の整備

自分でできること「自助」

- ・自分の避難場所、経路の確認
- ・とにかく逃げる
- ・自分たちで逃げる練習(圍尻)
- ・避難訓練を続け、それに参加する
- ・避難用品を用意する

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・高齢者情報をいただきたい
- ・小学校からの避難路の整備
- ・歩道橋の設置
- ・社協が配布している独居高齢者への救急キットの周知
- ・避難物資(備蓄用品)の確保

目指すべき将来像(テーマ)

地域全体が一体となって住みよくなる十市・緑ヶ丘地区

サブテーマ

みんながつながる十市・緑ヶ丘まちづくりネットワーク

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・防災のための学習会
- ・地域で声掛け、世代を超えた友達をつくらう
- ・挨拶運動
- ・まちづくり委員会の設置
- ・地区別の代表者会をつくる
- ・組織の一体化
- ・敬老会を共に行う

自分でできること「自助」

- ・声掛け
- ・自主的に参加する
- ・連携や協力を求める

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・組織づくりをコーディネートしてほしい
- ・ウォーキング(歴史)

サブテーマ

日常的な交流で安全・安心のまち

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・活発なサークル活動参加でお互いを知らう
- ・ふるさと祭りの創造
- ・皆で防災体験デーをつくる
- ・子どもとの協働
- ・芸能大会(のど自慢など)
- ・公民館、小学校を利用しサークル活動
- ・新聞を活用
- ・どろんこイベントから交流
- ・地産地消。鍋をやらうよ！

自分でできること「自助」

- ・自分から声を掛ける
- ・趣味を持つ
- ・挨拶
- ・池の周りのイルミネーション

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・地元の市の職員に参加してほしい
- ・場所、補助金の提供

十市・緑ヶ丘 地区
 目指すべき将来像(テーマ)

若者と高齢者が笑顔でふれあえるまちづくり

サブテーマ

地域の活性化のために

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・リーダー会をつくろう(年代別、グループ別)
- ・みんなでテーマづくりをする
- ・組織ごとに活動をPRする
- ・テーマをみんなに知ってもらおう(広報活動)

自分でできること「自助」

- ・リーダー会のなげかけする
- ・後継ぎを育てる
- ・PRする(花いっぱい、駅伝とか)
- ・知らない人に行事等をどうやって知ってもらう？
- ・組織を洗い出す(社協、自主防、消防、体育館、PTA等)
- ・十市、緑ヶ丘を好きになる
- ・グループ内での意思疎通(情報の共有化)
- ・全てに関心をもつこと
- ・まずは積極的に参加する

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・イベント、会議への出席を各団体へ促す
- ・参加への呼びかけ ・社協団体ごととの活動内容をお知らせしてもらう

サブテーマ

具体的な取り組みとは？

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・駅伝大会、植樹祭、花いっぱい運動、文化祭
- ・収穫祭(スモモ、なし、ぶどう、ししとう)
- ・収穫祭を通じて婚活！
- ・果樹研究会へ協力依頼
- ・地域特性を生かした婚活
- ・カヌー大会
- ・仲人役の養成
- ・釣り大会(ブラックバス、ブルーギル)

自分でできること「自助」

- ・ウォーキング(みんなを誘う)
- ・石土池で何かイベントをやりたい

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・担当課がいっぱいある。まとめられるの？

目指すべき将来像(テーマ)

地域のつながりを大切にし、子どもから高齢者まで安心して暮らせる十市・緑ヶ丘地区

サブテーマ

地域のつながりをつくる

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・おらんく祭り、地区民運動会
⇒なくなった理由：人を集めるのが大変、イベント不足、駐車場問題
- ・文化祭
- ・町内会活動の活性化⇒おらんく祭りが継続できるのでは！

自分でできること「自助」

- ・町内会に役員として参加できるかのチラシ配布
⇒何ができる？（前日・当日・後片付け）
- ・参加者の呼びかけ、声掛け
- ・PRする、協力を頼む（口コミ）
- ・祭りや運動会を見に行く
- ・近所の人を誘う
- ・夜店を出店している関係者として、祭り運営の手伝いなら
できる
- ・清掃活動への参加
- ・敬老会の手伝い
- ・園児、児童への食育活動のお手伝い

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・補助金、PR、駐車場

サブテーマ

安心して暮らせる十市・緑ヶ丘地区

地域での支え合い・助け合いでできること「共助」

- ・十市、緑ヶ丘地区全体での防災訓練や炊き出し等
↓
各活動のリーダーが必要！

自分でできること「自助」

- ・高齢者と子どもの見守り
- ・日頃からの近所づきあい
- ・地域の清掃活動へ参加
- ・老人宅のゴミ出し
- ・県内での防災訓練では炊き出しをやっている（自治会）

行政や社協などの応援・協力が必要なこと「公助」

- ・通学路に街灯を
- ・通学路の整備（自転車道）

4 南国市地域福祉計画検討委員会設置規則

(設置)

第1条 南国市は、社会福祉法（昭和26年法律第45号）第107条の規定に基づき、南国市地域福祉計画（以下「計画」という。）に住民、社会福祉を目的とする事業を営む者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために南国市地域福祉計画検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査及び審議を行い、その結果を市長に報告するものとする。

- (1) 計画の策定及び変更に関する事項
- (2) 計画の進捗状況の管理及び評価に関する事項
- (3) 前2号に定めるもののほか、委員会で必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、20名以内の委員で組織する。

2 委員会の委員（以下「委員」という。）は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 福祉関係団体の代表者
- (2) 保育・教育関係団体の代表者
- (3) 南国市民
- (4) 南国市職員
- (5) 前各号に定めるもののほか、委員会で必要と認めるもの

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第 5 条 委員会に、委員長 1 名及び副委員長 1 名を置く。

2 委員長は、委員会を総括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の過半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を求めることができる。

(報酬等)

第 7 条 委員の報酬及び費用弁償は、南国市特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償支給条例（昭和 3 4 年南国市条例第 3 9 号）の別表のその他委員の規定を準用する。

(庶務)

第 8 条 委員会の庶務は、福祉事務所において処理をする。

(その他)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮って別に定める。

附 則

1 この規則は、平成 2 3 年 7 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行日以後最初に招集される委員会の会議は、第 6 条第 1 項の規定にかかわらず市長が招集するものとする。

5 南国市地域福祉計画検討委員名簿

校正区分	組織・団体名		氏名
福祉	南国市民生委員協議会	会長	中村 隆之
	南国市社会福祉協議会	局長	岸本 敏弘
	南国市地域活動支援センター	代表	松本 聡
	あったかふれあいセンター	コーディネーター	渡邊 徳子
	南国市身体障害者福祉協議会	会長	今井 義則
	南国市手をつなぐ育成会	会長	浜口 憲正
	居宅介護事業所「ふたば」	主任ケアマネジャー	植野 令子
	ウィッシュかがみの	管理者	岡本 圭美
地域	北陵中学校区	代表	澤村 豊
	鳶ヶ池中学校区	代表	平山 尚男
	香長中学校区	代表	浜田 伸夫
	香南中学校区	代表	濱田 祐享
保育・教育	南国市保護者会連合会	会長	川村 博貴
	南国市PTA連絡協議会	会長	下司 雅英
	南国子ども会連合会	会長	森下 幸則
市	副市長		藤村 明男
	南国市長寿支援課	課長	山内 幸子
	南国市福祉事務所	所長	南 幸男
	南国市企画課	課長	西山 明彦
	南国市保健福祉センター	所長	岩原 富美

南国市地域福祉計画

発行年：平成24年3月発行
発行：南国市大桶甲2301
南国市役所福祉事務所

電話 088(880)6566
URL <http://www.city.nankoku.lg.jp/>
Mail n-fukushi@city.nankoku.lg.jp
